

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているキーワード
<p>(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「プログラミング基礎」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。</p>	<p>代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」「心理統計法Ⅰ」「データサイエンスⅠ」「統計学基礎論」「統計学概論」「教育科学研究法」 ・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンス基礎」「統計学基礎」 ・順列、組合せ、集合、ベクトル、条件付き確率「データサイエンス応用」「統計学基礎」「統計学概論」「データサイエンスⅠ」「基礎情報数学Ⅰ」 ・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンス応用」「統計学基礎」「心理統計法Ⅰ」「心理データ解析」「データサイエンスⅠ」「統計学基礎論」「統計学概論」「理学療法研究Ⅰ」 ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「統計学基礎」「心理統計法Ⅰ」「データサイエンスⅠ」「統計学基礎論」 ・多元分布、正規分布、独立同一分布「統計学基礎」「データサイエンスⅠ」「統計学基礎論」「統計学概論」 ・点推定と区間推定「統計学基礎」「統計学概論」「データサイエンスⅠ」 ・帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の過誤、第2種の過誤、有意水準「統計学基礎」「統計学概論」「心理データ解析」「データサイエンスⅠ」「統計学基礎論」「理学療法研究法Ⅰ」</p> <p>1-6</p> <p>「アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)」「データサイエンス応用」「コンピュータシステム概論」「プログラミング演習Ⅰ」 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データサイエンス応用」「基礎情報数学」 ・ソートアルゴリズム(バブルソート、選択ソート、挿入ソートなど)「データサイエンス応用」</p> <p>1-7</p> <p>コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データサイエンス応用」 「コンピュータシステム概論」「計算機科学基礎」「基礎情報数学」「プログラミング演習Ⅱ」 ・構造化データ、非構造化データ「プログラミング演習Ⅱ」 ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「基礎情報数学」 ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「基礎情報数学」</p> <p>2-2</p> <p>文字型、整数型、浮動小数点型「データサイエンス応用」「コンピュータシステム概論」「プログラミング演習Ⅰ」「プログラミング演習Ⅱ」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「データサイエンス応用」「コンピュータシステム概論」「プログラミング演習Ⅰ」「プログラミング演習Ⅱ」「基礎情報数学」「計算機科学基礎」「医療情報システム学」 ・配列、関数、引数、戻り値「データサイエンス応用」「プログラミング演習Ⅰ」「プログラミング演習Ⅱ」 ・構文、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「データサイエンス応用」「プログラミング演習Ⅰ」「プログラミング演習Ⅱ」</p> <p>2-7</p>
<p>(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。</p>	<p>1-1</p> <p>・データ駆動型社会、Society 5.0「ITリテラシー」「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」「情報技術の歴史と展開」「AI概論」「データサイエンスⅠ」「情報社会論」「情報とビジネス」 ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「データサイエンス基礎」「統計学基礎」「データサイエンスⅠ」「データサイエンスⅡ」 ・データを活用した新しいビジネスモデル「情報技術の歴史と展開」「情報社会論」「情報とビジネス」</p> <p>1-2</p> <p>・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」「クロスオーバー型課題解決プロジェクト」「社会調査法」「統計学基礎」「心理学研究法Ⅰ」「心理統計法Ⅰ」「心理学データ分析」「データサイエンスⅠ」「心理データサイエンスⅡ」「データサイエンスⅠ」「統計学基礎論」「情報法研究法演習Ⅰ」「教育科学研究法」 ・分析目的の設定「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」「クロスオーバー型課題解決プロジェクト」「社会調査法」「統計学概論」「心理学研究法Ⅰ」「心理統計法Ⅰ」「データサイエンスⅠ」「社会調査法(社会心理調査)」「心理データサイエンス演習Ⅰ」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスティングなど)「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」 ・データの収集、加工、分割、統合「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」「心理学研究法Ⅰ」「実学基礎統計」「教育科学研究法」「サンプルサイズの設計(社会調査)(社会心理調査)」</p> <p>2-1</p> <p>・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報技術の歴史と展開」「コンピュータシステム概論」「コンピュータネットワークⅠ」「情報とビジネス」「医療情報システム学」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「データサイエンス応用」「情報技術の歴史と展開」 ・ビッグデータ活用事例「情報技術の歴史と展開」 ・コンピュータの構成、動作、性能「コンピュータシステム概論」「計算機科学基礎」「医療情報システム学」 ・ネットワーク「コンピュータネットワークⅠ」「医療情報システム学」</p> <p>3-1</p> <p>・AIの歴史、理論、探索、トピック「AIの歴史、エキスパートシステム」「データサイエンス基礎」「情報技術の歴史と展開」「AI概論」 ・汎用AI「特化型AI(強いAI/弱いAI)」「データサイエンス基礎」「情報技術の歴史と展開」「AI概論」 ・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測、判断、言語、身体・運動)「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」「AI概論」 ・AI技術の活用領域の応用(教育、医療、流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「データサイエンス基礎」「AI概論」 ・フレームワーク、シンボルグラウンディング問題「AI概論」</p> <p>3-2</p> <p>・AI倫理、AIの社会的受容性「データサイエンス基礎」「情報技術の歴史と展開」「AI概論」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「データサイエンス基礎」「AI概論」</p> <p>3-3</p> <p>・家世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「情報技術の歴史と展開」「プログラミング演習Ⅱ」「AI概論」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データサイエンス応用」「AI概論」 ・ディープラーニング「AI概論」「プログラミング演習Ⅱ」</p> <p>3-4</p> <p>・家世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「データサイエンス応用」「AI概論」 ・ニューラルネットワークの表現「AI概論」 ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「AI概論」 ・学習用データと学習済みモデル「AI概論」</p> <p>3-5</p> <p>・家世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など)「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」「AI概論」 ・生成AIの産業現場(ハイクラスシミュレーションによる訓練の生成、倫理観や有害コンテンツの生成、犯罪など)「データサイエンス基礎」「AI概論」 ・生成モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「AI概論」</p> <p>3-10</p> <p>・AIの学習と理論、評価、再学習「データサイエンス基礎」「AI概論」 ・AIの社会実装、ビジネス(業務への組み込み)「データサイエンス基礎」「医療情報システム学」 ・AIの開発環境と実行環境「データサイエンス応用」「AI概論」</p>
<p>(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学習項目、応用基礎のなかでも特に重要な学習項目であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データAI活用企画・実施・評価」から構成される。</p>	<p>I</p> <p>II</p>

⑦ プログラムの学習成果(学生等に付けられる能力等)

AI「データサイエンス」の知識を深め、自身の専門的な研究活動に活用する能力を身に付ける。

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	1,043	528	240	960	297	0											297	31%
国際英語学部	469	255	120	420	130	0											130	31%
発達教育学部	585	475	140	560	154	0											154	28%
総合心理学部	295	198	90	270	100	0											100	37%
経済学部	1,050	281	240	480	269	0											269	56%
経営学部	1,138	367	260	520	302	0											302	58%
工学部	888	230	210	420	234	0											234	56%
看護学部	406	376	95	380	105	0											105	28%
健康科学部	1,088	606	236	1,034	253	0											253	24%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	6,962	3,316	1,631	5,044	1,844	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,844	37%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	233	人
(非常勤)	323	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

44	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	坂本 敏郎
(役職名)	共通教育推進室長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	共通教育推進室(数理・AI・データサイエンス教育部会)
------	-----------------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	京都橋大学共通教育推進室規程
------	----------------

⑥

共通教育推進室は、本学における共通教育にかかわる基本方針の策定・運営、自己点検・評価活動、FD活動および研究・開発課題の推進を目的としている。共通教育推進室に設置される数理・AI・データサイエンス教育部会は、情報教育等について、上記の内容を推進する役割を担う。全学共通の情報教育科目を基礎に構成される「たちばなAI・データサイエンスプログラム」の推進についても、数理・AI・データサイエンス教育部会がその役割を担っている。

⑦ 具体的な構成員

<共通教育推進室>	
共通教育推進室長	総合心理学部 教授 坂本 敏郎
国際英語学部	教授 北林 利治
経営学部	教授 平尾 毅
経営学部	准教授 西野 毅朗
工学部	准教授 片岡 裕介
教務課長	木本 在躬
国際系事務課長	吉岡 航
<数理・AI・データサイエンス教育部会>	
工学部	准教授 片岡 裕介
工学部	講師 加藤 諒

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	37%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

本プログラムは、リテラシーレベル修了要件である全学必修科目「ITリテラシー」「データサイエンス基礎」を基盤として構成し、応用基礎レベルへの円滑な接続を図っている。

プログラム構成科目には全学共通教育科目を配置し、文理を問わずすべての学部・学科の学生が履修しやすいようにしている。また、専門教育科目も併置することで、学生が自らの専門領域に引きつけて学びを発展させられるよう、継続的な興味喚起を図っている。

履修者数の拡大に向けては、本学ホームページ内に特設サイトを開設し、AI・データサイエンス教育の重要性や社会的背景をわかりやすく発信し、学生の興味関心を高めている。あわせて、入学者向けガイドブックにおいて本プログラムの目的やプログラム概要などを掲載し、入学直後から本プログラムを意識した履修計画を立てられるよう支援している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラムの修了要件である「ITリテラシー」は全学必修科目、「データサイエンス基礎」は、看護学部を除く全学部必修科目として位置づけており、所属学部による履修制限を設けていないため、希望する学生は全員受講可能である。

また、当プログラムは、全学共通科目によるプログラム修了も可能としており、学部・学科に関わらず平等に受講できる機会を保障している。

さらに、プログラム構成科目を共通教育科目と専門教育科目双方に配置することで、各学科の学生が自身のカリキュラムの中で無理なく履修できるようにし、学修状況や関心に応じて、柔軟な履修環境を整備している。

また、教務課と共通教育推進室が連携して、全学的に均一な履修機会を保証している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

1回生全員を必修とした科目の配置をはじめ、共通教育課程と専門教育課程双方の科目を配置し、「たちばなAI・データサイエンスプログラム」を構成している。これらの構成科目やプログラム概要について、大学ホームページ上で公開し、学部・学科ごとの履修方法が一目で分かるように情報整備を行っている。また、新入生ガイダンスにおいて、本プログラムの目的やプログラム概要などを掲載した、入学者向けガイドブックを配布し、入学直後から本プログラムを意識した履修計画を立てられるよう支援している。

今後は、各学年で実施している履修ガイダンスなどでも周知を行い、履修登録の促進を図ることとする。

これらの周知取組により、学生が学部・学科に関係なく本プログラムを理解し、履修を選択しやすい環境を整備している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

多くの学生が本プログラムを履修・修得できるよう、学習環境と学習継続支援の体制を整備している。ポータルサイトを活用して出席状況や課題提出状況を把握し、学習状況や理解度の把握につなげている。また、一部科目をオンデマンド形式で開講し、授業後も繰り返し視聴できる復習環境を整備することで、学生が自分のペースで学習できるよう支援している。さらに、授業アンケート等を通じて授業内容や成績評価方法の適切性を継続的に検証し、必要に応じて科目改善を行う体制を構築している。履修学生が取り組みやすいよう学習教材や課題設計の工夫を行うとともに、学習支援を担当する専任教員やラーニングアシスタント等による学習支援も行い、全学的なサポート体制も整備している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外で学生が学習指導や質問を行えるよう、複数の仕組みを整備している。

ポータルサイトおよびTeamsを通じて担当教員に直接質問ができる環境を整備し、授業時間外でも随時質問を受け付けている。また、オンデマンド授業の課題支援や学習支援のため、対面で教員に相談できる場を週1回設け、直接的な学習支援が受けられる機会を確保している。加えて、学習支援を行う全学的なラーニングアシスタントを配置し、課題に対する疑問解消や学修の進め方に関する助言を行うことで、幅広い学生の学習をサポートしている。さらに、学習支援を担当する専任教員による、スキルアップセミナー等も複数回実施している。次年度においては、ラーニングアシスタントの配置を強化し、相談内容および相談時間を拡大することで、より柔軟で手厚い学習支援を行う体制の構築を予定している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

共通教育推進室

(責任者名) 坂本 敏郎
(役職名) 共通教育推進室長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、全学生にとって履修可能な科目により構成している。修了要件の必修科目の一つである、全学必修科目の「ITリテラシー」では、Officeソフトの基礎的な活用方法等を学習する。当科目の単位修得者の割合は、91.2%である。「データサイエンス基礎」は後期開講しており、看護学科を除く全学部・学科の学生が現在履修している。
学修成果	応用基礎レベルプログラム対象者の令和7年度「ITリテラシー」の最終成績は、S: 40.52%、A: 30.08%、B: 12.54%、C: 8.06%、D: 8.80%であった。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	応用基礎レベルプログラム対象者の令和7年度「ITリテラシー」履修者の授業アンケート結果は以下の通りであった。 「私は、この科目の内容をよく理解できた」の設問に対して、そう思う41.0%、どちらかと言えばそう思う43.2%と84.2%の学生が理解できたと回答をしている。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	授業アンケートの自由記述より、以下の記載が見られた。 ・私はパソコンなど機会を使うのが苦手ですが、この授業を通して少しは使えるようになったと感じているので良かったです。 ・情報という分野は苦手だったが、覚えてできるようになったらとても面白かった。 ・パソコンの使い方を基礎から学ぶことができた点がよかった。特に印象に残っている学びは、レポート作成をしたことです。 ・授業動画をちゃんと見ていけばミニレポートや作業課題に取り組めるというのは良かったし、今後必要な知識もたくさん知れた。 ・今までパソコンの使い方が分からなかったけど、この授業を通してワードやエクセル、パワーポイントの使い方を知ることができました。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度は、アドバンスレベルの制定年度であるため、達成状況としては評価することができないが、本プログラムを構成する一部の科目は、各学部・学科において必修科目であることや、共通教育科目で構成しているため、多くの学生のプログラム履修することを目指している。 今後、学生に対しては、単に履修登録に関する推奨・促進を行うだけでなく、入学時点から本プログラムを修了する意義を伝え、学生自身が主体的に学び、考える土壌を醸成したいと考える。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	当プログラムは、2025年度以降の入学生を対象のカリキュラムでプログラム構成しているため、現時点では修了者の中に卒業生は発生していない。そのため、現時点ではプログラム修了者の進路や企業等での活躍状況等を評価することはできない。今後は、プログラム修了者の進路状況の把握や、企業等へのアンケートなどを通じて、修了者の社会での活躍状況等(課題発見能力、情報分析力といったデータを適切に扱うことができる、デジタルリテラシーが身についているか等)の調査・分析を実施していきたい。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産学公連携等の連携先や就職先の企業や自治体に対して、アンケートやインタビューなどを行い、プログラム内容や手法についての意見集約を行う予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムは全学生を対象としているため、学生一人ひとりの専門領域や関心の違いに応じて、数理・データサイエンス・AIの「学ぶ楽しさ」と「学ぶ意義」を実感できるように設計している。「ITリテラシー」および「データサイエンス基礎」では、自分の学部・学科で扱われているデータや、専門領域でのAI活用事例を調査する課題を取り入れている。これにより、学生は自分ごととしてデータ活用を捉え、将来のキャリアと学修内容がどのように結びつくかを具体的に理解できる。「データサイエンス応用」では、プログラミングによるデータ処理の効率化や自動化の効果を体験的に学ぶ内容を配置している。自ら手を動かして分析を行うことで、データから新たな知見を得る面白さ、課題解決に活かせる有用性を実感できるよう工夫している。さらに、選択必修科目として各学部・学科の特性に応じた科目を配置し、学生自身の視点で考察を加える課題を課すことで、単なる作業に終わらない学びを促している。このような段階的・体系的な構成により、学生が楽しみながら学びの価値を理解し、自ら主体的に学びを進める姿勢の育成を目指している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	「ITリテラシー」および「データサイエンス基礎」はオンデマンド形式で実施しており、学生が迷わず学べるよう、画面の見やすさや操作手順の理解しやすさを重視した学習動画を作成している。授業内容は生成AIの進展や各業界での最新事例を随時取り入れ、学生が最新動向に触れながら学べるよう工夫している。さらに、社会の変化や技術発展を踏まえ、科目内容を定期的に見直す仕組みを整え、教育効果の向上を図っている。学習動画の改善、教材更新、評価手法の再検討などを継続的に行うことで、学生が現実の技術トレンドに対応した知識や技能を習得できるよう柔軟に対応している。アンケートでも「動画で操作方法が分かりやすい」「繰り返し視聴できて助かる」といった肯定的な意見が多く寄せられており、理解促進に寄与している。一方、「データサイエンス応用」は、初心者がつまずきやすいプログラミングを扱うため、対面授業として実施する。授業ではLAを配置し、課題につまずいた学生を個別に支援する体制を整える。今後も、授業設計・教材・学習支援体制の改善を継続し、学生一人ひとりが「分かりやすく」「学びやすい」と感じられる教育環境を維持・向上させていく。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 プラス申請書

申請単位	応用基礎レベル（大学等単位）
大学等名	京都橘大学
プログラム名	たちばな AI・データサイエンスプログラム

① 授業内容

プログラムの必須科目である「IT リテラシー」「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」では、学生が自学部・自学科で扱われるデータや、専門領域における AI 活用事例を調査する課題を取り入れている。これにより、学生は自身の学びと将来のキャリアがどのように結びつくのかを具体的に理解し、学修意欲の向上につながっている。

また、本学の特色である国際・人文・教育・社会・医療・工学系といった多様な学部が 1 つのキャンパスに集う環境を活かし、学部横断的な数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを展開している。特に「クロスオーバー型課題解決学習」では、異なる分野を専攻する学生同士がチームを組み、企業や行政（これまでの連携実績：32 団体）から提示されたリアルな課題に対し、各分野の専門知識を持ち寄って解決に取り組んでいる。ヤフー株式会社と連携したプロジェクト※1 では、「身の回りの課題の解決」をテーマに、学生生活を充実させるためのアイデア創出を行い、その後、プログラミング学習とアプリ開発へと発展させた。また、株式会社デンソーとの連携プロジェクトでは、デンソー社で活躍する社員の特徴をテキストマイニングにより分析し、同業他社との比較から強みや課題を導出した。なお、これらのプロジェクトは 2025 年度までは経済学部・経営学部・工学部の 3 学部開講であったが、2026 年度からは全学開講へ拡大し、より多様な学生が参加できる体制へと発展させる予定である。

本プログラムでは、今後も多様な学生が互いに学び合い、数理・データサイエンス・AI の力を実社会の課題解決に活かせるよう、教育内容のさらなる充実と発展に継続して取り組んでいく。

（参考）

※1：ヤフー株式会社との連携プロジェクト

（URL：https://www.tachibana-u.ac.jp/crossover/project_01.html）

※2：京都橘大学情報学リスキリング講座

（URL：https://www.tachibana-u.ac.jp/research_area/general_academic/cire/cire_activities/cire_reskilling.html）

② 学生への学習支援

本プログラムでは、以下の独自の学習支援を実施している。

○学修支援システム

本学では、LMS を活用して授業運営、課題提出・管理、履修状況、授業アンケート等を一元的に管理している。各回の課題提出状況等を通じて、履修学生の理解度・習熟度を把握し、学修状況の可視化を図っている。学習状況に停滞がみられる学生や課題提出が滞る学生に対しては、担当教員が LMS 上でのメッセージ送信を行い、早期の学習支援につなげている。

○インターンシップ先での実践

本学では、2 回生以上を対象とした「インターンシップ I」を通じて、授業で学んだ知識・技能を実社会で活用する実践的な学修機会を提供している。

- ・TOPPAN 株式会社での実践：地域課題解決と ICT を組み合わせた課題探究型の実習を実施。学生はりんご農家の利益向上を題材に、調査・フィールドワーク・インタビューを通じて課題を抽出し、ICT を活用した解決策を立案、アプリのプロトタイプを作成するなど、データ活用・課題解決プロセス・サービスデザインを学んだ。

- ・株式会社ケー・エス・ディーでの実践：大学向け座席表作成システムの改善をテーマに、UI/UX 改善や新機能提案を行い、利用者目線での設計を学んだ。AWS を用いたサーバ構築体験も含まれ、クラウド基盤技術の応用力の向上につなげた。

○学修成果の可視化の導入

2024 年度までの成績評価分布やアンケート結果から IT リテラシー習熟度に個人差が確認されたため、2025 年度よりアセスメントテストを導入した。入学時と 1 回生後期終了時の年 2 回、Word・Excel・PowerPoint・AI・データサイエンスの 4 領域を測定している。結果の分析をおこない授業設計や初年次教育に活用して、学修成果の可視化により授業改善を図っている。

○補完的な教育の実施

習熟度差に対応するため、オンデマンド授業に加え週 1 回の対面相談の場を設けている。またラーニングアシスタントによる課題支援や専任教員によるスキルアップセミナーを開催し、学生が自主的に基礎スキルを補完できる機会を提供している。本学のラーニングコモンズであるクリエーションラボには 3D プリンタやレーザーカッター、VR 機器、IoT 機器、教育用ドローンなどが備えられ、ものづくりを行うことのできるファブスペースを活用し、実践的な教育や学生の独習利用を促進している。

③ その他の取組（地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携等）

本プログラムでは、地域・産業界等との連携を通じて、地域の産業を担う AI・情報人材およびグローバル人材の養成を目指し、分野横断的な教育・研究活動を推進している。

○地域企業との連携・産業界との協働

・企業主催イベントへの学生参加

京都に本社を置く企業が主催する、地域のデジタル推進と人材育成を目的としたイベント「Digital 縁日」において、本学の学生および大学院生がオリジナル作品を出展した。学生自身の研究成果を企業に向けて発表する貴重な機会となるとともに、地域の企業人や技術者との交流を通じて、実践的な視点や新たな気付きを得られる機会となっている。

・企業との共同研究

地域中小企業と連携した「中小工場向けスマートファクトリー実証実験」の共同研究を実施。

・社会人向けリスキリング講座の提供

本学の情報学教育研究センターの活動として、「情報学の体系的知識獲得を目指したリスキリング・プログラム※2」（文部科学省 成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業に採択）を実施している。この講座では、受講料無料（2025 年度）で学内外の受講生を対象に AI をはじめとする情報技術の活用、DX 推進等、「基本情報技術者試験」で求められる相当の内容を完全オンデマンドで実施している（2024 年度末時点の累計受講者数：1,049 名）。全 11 科目の充実した科目群により情報学の体系的知識を基礎から学ぶことができ、演習が 50%以上を占める授業構成であることから、実践的な技術力も身につけていただくことが期待できる。

○地域連携を促進する研究施設の整備

本学の iCS 研究デザインスタジオは、地域連携・産学協働を推進するための研究基盤として整備されている。

企業や大学等の研究者が共同で社会課題の解決に取り組む環境を整備した「iCS スタジオ」、センサーや AI を活用した社会実装実験、知財等の専門人材による研究支援スペースとして活用する「iCS オープンラボ」、社会実装研究を構想中の関係者が交流し、課題探索を行う「コモンズ」などを備えている。

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	akat11a310		
科目名	ITリテラシー < A a > 【遠隔】	単位数	1単位
担当者	片岡 裕介、外部専門講師		
授業責任教員	片岡 裕介		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員	60		
クラス指定			
教育目標	教③理論と実践を往還する中で知識を実践的に理解するとともに、課題の解決に取り組む中から新たな知を発見する能力		
科目ナンバリング	NU-151		

テーマ	高度情報社会におけるITの基礎的知識ならびに専門教育に向けた基本的なITスキルの習得		
授業の到達目標	<p>①電子メールの利用法、ならびに利用にともなうマナーを身につけ、学修上のコミュニケーションにおいて電子メールを適切に活用することができる。</p> <p>②剽窃や盗用といった不正行為の重大性を十分認識した上で、インターネットを活用した情報収集を適切におこなうことができる。</p> <p>③ITリテラシーの基礎となる、コンピュータの構成とネットワーク環境についての基本的知識が身についている。</p> <p>④タッチ・タイピングによるスムーズな文字入力ができ、文書作成ソフトウェアを用いてレジメやレポートの形式でまとめることができる。</p> <p>⑤表計算ソフトウェアを用いた、データの整理、加工をおこなうことができる。</p> <p>⑥プレゼンテーションの技法についての知識を身につけ、プレゼンテーションソフトウェアの基本的な機能を有効に活用することで、効果的なプレゼンテーションをおこなうことができる。</p>		
授業の概要	<p>現現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を、演習を通して習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養うとともに、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱ううえでのマナーを身につける。</p>		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	テキストを用いて次回授業の内容について予習を行うとともに、授業後は、授業内で教示した内容について復習を行うこと。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	学習内容に沿った課題を提出する。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	ポータルサイト		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（オンデマンド）	オリエンテーション、学内システム	
第2回	遠隔（オンデマンド）	ICT環境の理解と活用	
第3回	遠隔（オンデマンド）	インターネットと情報倫理 Word基礎	
第4回	遠隔（オンデマンド）	文書作成ソフトウェア(1) レポートの形式	
第5回	遠隔（オンデマンド）	文書作成ソフトウェア(2): レポート作成	
第6回	遠隔（オンデマンド）	文書作成ソフトウェア(3) レポート作成における注意点	
第7回	遠隔（オンデマンド）	表計算ソフトウェア(1) ソフトウェアの基本操作	

第8回	遠隔 (オンデマンド)	表計算ソフトウェア(2) ソフトウェアの基本操作
第9回	遠隔 (オンデマンド)	表計算ソフトウェア(3) ソフトウェアの基本操作
第10回	遠隔 (オンデマンド)	表計算ソフトウェア(4) ソフトウェアの基本操作
第11回	遠隔 (オンデマンド)	表計算ソフトウェア(5) 理解度確認
第12回	遠隔 (オンデマンド)	プレゼンテーションソフトウェア(1) スライド作成の手順
第13回	遠隔 (オンデマンド)	プレゼンテーションソフトウェア(2) プレゼンテーションの実践
第14回	遠隔 (オンデマンド)	まとめ
第15回	この授業に第15回の授業はありません	

履修上の注意点

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル Microsoft365・Office2021対 応	noa出版	noa出版	978-4908434792	
情報倫理ハンドブック	noa出版	noa出版		

参考書

成績評価の方法	割合 (%)
小テスト	40%
授業中課題	60%
成績評価方法の備考	授業回数14回のうち、3分の2以上の課題提出（出席とみなす）が必要。未提出が5回以上の場合は、原則、単位認定は不可とする。
参考URL	

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	akat11a450		
科目名	データサイエンス基礎 < A a > 【遠隔】	単位数	1単位
担当者	片岡 裕介、外部専門講師		
授業責任教員	片岡 裕介		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員	60		
クラス指定			
教育目標	教③理論と実践を往還する中で知識を実践的に理解するとともに、課題の解決に取り組む中から新たな知を発見する能力		
科目ナンバリング	SE102,NU102,PT111,OT-112,MT-132		

テーマ	データサイエンスに関する基礎的・汎用的能力の獲得		
授業の到達目標	①データサイエンスという単語について、背景を通じて、意味や求められるものを理解する。 ②データの中から、Excelを使って、データを加工し、分析する手法を学び、表現できる。		
授業の概要	近年、AI、ビッグデータ、IoTをはじめとするデータ利活用に関連する新技術が進展し、第4次産業革命といわれている。たとえば、産業用機械、家電、自動車等のモノがインターネットに接続する技術が可能となり、社会や産業に大きな変革が起きている。この授業では、データ分析に必要な基礎知識とコンピュータを活用した分析方法を学ぶ。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	テキストを用いて次回授業の内容について予習を行うとともに、授業後は、授業内で教示した内容について復習を行うこと。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	学習内容に沿った課題を提出する。		
課題に対するフィードバック	TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	ポータルサイト		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（オンデマンド）	・オリエンテーション ・データサイエンスとは	
第2回	遠隔（オンデマンド）	・社会におけるデータ・AI利活用①	
第3回	遠隔（オンデマンド）	・社会におけるデータ・AI利活用②	
第4回	遠隔（オンデマンド）	・社会におけるデータ・AI利活用③ ・データ活用における留意事項	
第5回	遠隔（オンデマンド）	・データ活用のプロセス	
第6回	遠隔（オンデマンド）	・データを表現する、データの視覚化	
第7回	遠隔（オンデマンド）	統計活用事例に学ぶ①	
第8回	遠隔（オンデマンド）	統計活用事例に学ぶ②	
第9回	遠隔（オンデマンド）	統計活用事例に学ぶ③	
第10回	遠隔（オンデマンド）	分析手法を知る①	
第11回	遠隔（オンデマンド）	分析手法を知る②	
第12回	遠隔（オンデマンド）	データ収集	
第13回	遠隔（オンデマンド）	データ分析の実践① オープンデータを用いたデータ分析を行う	

第14回	遠隔（オンデマンド）	データ分析の実践② オープンデータを用いたデータ分析を行う		
第15回	この授業に第15回の授業はありません			
履修上の注意点				
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス		noa出版	978-4908434761	

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
これだけは知っておきたいデータサイエンスの基本がわかる本	鈴木孝弘	オーム社	978-4274221941	
成績評価の方法		割合（％）		
小テスト		40%		
授業中課題		60%		
成績評価方法の備考	授業回数14回のうち、3分の2以上の課題提出（出席とみなす）が必要。未提出が5回以上の場合は、原則、単位認定は不可とする。			
参考URL				

科目名	配当回生	単位
データサイエンス応用	2	2

〔授業の概要〕

科学技術の急速な進歩により、現代では、社会や日常生活に様々なデータ（インターネット上の書き込みや購入履歴、位置情報など）があふれている。そのため、これらのデータを効率的に収集し、分析する能力があらゆる業界で求められている。データサイエンス基礎では、エクセルを用いてデータを分析する方法について学んだ。しかし、プログラミングができれば、より多くのデータを正確に処理することや、作業の自動化を図ることができ、大幅に作業効率を上げることができる。そこで、本講義では、データサイエンスの分野で最も利用される Python を用いて、プログラミングの基礎とデータ分析の方法を学ぶ。これにより、現代社会のニーズに応えられる知識と技術力を獲得する。

〔授業の計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、プログラミングによるデータ分析を学ぶ理由、環境構築、Society5.0、データサイエンス、ビッグデータの収集と分析
- 第 2 回 プログラミングの基礎：プログラムの作成、変数と演算子
- 第 3 回 プログラミングの基礎：条件分岐
- 第 4 回 プログラミングの基礎：繰り返し処理
- 第 5 回 プログラミングの基礎：リスト
- 第 6 回 確率統計、代表値（平均値、中央値、最頻値）、相関係数
- 第 7 回 データの分析手法、回帰分析、クラスタリングなど
- 第 8 回 データの可視化、棒グラフ、折れ線グラフ、散布図など
- 第 9 回 アルゴリズム（探索と並び替え）、ソートアルゴリズム、探索アルゴリズム
- 第 10 回 テキストマイニング、形態素解析、係り受け解析など
- 第 11 回 画像認識①
- 第 12 回 画像認識②、YOLO
- 第 13 回 データ分析の実践（最終課題）
- 第 14 回 総括

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	akbk41d410		
科目名	情報技術の歴史と展開 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	工藤 寛樹		
授業責任教員	工藤 寛樹		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教③理論と実践を往還する中で知識を実践的に理解するとともに、課題の解決に取り組む中から新たな知を発見する能力		
科目ナンバリング	GE101,NU101,PT111,OT-111,MT-111		

テーマ	我々の暮らしに必要な不可欠であるコンピュータやインターネット、またそれらを活用したアプリケーションの基盤となっている情報技術に関して、どのように発達してきたかを探求し、また、それらの活用事例を紹介します。さらに、最新鋭の情報技術の発達についても紹介するとともに今後の展開についても考察します。		
授業の到達目標	この講義では、情報技術が人間の歴史と文化にどのように組み込まれ、どのように発展してきたかを理解することが目標です。受講者の皆さんが情報技術の動向を予測し、将来の革新を推進するための洞察を提供します。		
授業の概要	この講義は、情報技術の発展を時間とともに追いかけることで、その歴史的な文脈を理解することを目指します。また、その過程で生じた技術的な革新が社会や個人の生活にどのように影響を与え、今日のデジタル化された社会をどのように形成してきたかを探求します。さらに、この知識を基に、情報技術がどのように進化し続ける可能性があるかを検討します。		
教員の実務経験・授業内容	担当教員の専門分野はモバイル・ユビキタスコンピューティング、人工知能であり、センシングや人の活動に紐づいて発生するデータを分析することにより人の暮らしをより豊かにする技術開発、研究を行っています。本講義では、情報技術の歴史的な発達の経緯に加えて、専門分野の研究活動によって得られた知見を交えながら将来の展開についても考察します。		
準備学習（予習・復習）の内容	本講義では毎回、該当の講義回に関連する課題を課します。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	実習/ICTを活用した双方向型授業		
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（オンデマンド）	情報技術とは何か	
第2回	遠隔（オンデマンド）	早期の計算機	
第3回	遠隔（オンデマンド）	デジタル革命	
第4回	遠隔（オンデマンド）	パーソナルコンピュータの時代	
第5回	遠隔（オンデマンド）	ソフトウェア革命	
第6回	遠隔（オンデマンド）	インターネットの出現と発展	
第7回	遠隔（オンデマンド）	Web 2.0	
第8回	遠隔（オンデマンド）	モバイルデバイスの誕生	
第9回	遠隔（オンデマンド）	クラウドコンピューティングとビッグデータ	
第10回	遠隔（オンデマンド）	AIと機械学習の浸透	
第11回	遠隔（オンデマンド）	ブロックチェーンと仮想通貨の登場	
第12回	遠隔（オンデマンド）	情報技術の課題	
第13回	遠隔（オンデマンド）	次世代の情報技術	
第14回	遠隔（オンデマンド）	まとめと今後の展望	

第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	本講義ではMicrosoft Teamsを用いて、オンデマンド形式により講義動画の配信および課題の提示を行います。	
教科書		

参考書		
成績評価の方法	割合 (%)	
授業中課題		50%
レポート		50%
成績評価方法の備考	成績評価は毎回の授業で課される課題とレポート課題により判定を行います。	
参考URL		

授業の実施形態	【遠隔】ハイブリッド（対面回数半数未満）		
授業コード	akbk51d510		
科目名	情報社会論【遠隔】	単位数	2単位
担当者	杉浦 昌		
授業責任教員	杉浦 昌		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教①物事を多角的な視点から客観的に理解するとともに、論理的・批判的に思考したうえで、自分自身で判断して主体的に行動することのできる能力		
科目ナンバリング	GE101		

テーマ	情報通信（情報通信技術：ICT）と社会とのかかわりを理解する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の持つさまざまな特性を学ぶ。 ・情報技術が現代社会をどのように支えているかを理解する。 ・現代社会において情報技術にどのような課題があるかを理解する。 ・情報技術の今後の発達によって社会がどのように変わっていくかを考える。 		
授業の概要	情報通信技術が現代社会をどのように支えているのか、また、現在どのような課題があるかを学び、今後社会をどのように変えていくのかを考察する。 テキストを中心に、適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、レポート課題を実施する場合がある。		
教員の実務経験・授業内容	IT企業の情報システム部門や装置・システム設計開発部門、SI・コンサルティングビジネス部門での実務経験、政府系団体での実務経験のある教員が、テキストやスライド、配布資料、種々の公開資料、レポート、論文等を用いて授業をおこなう。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、振り返り学習やレポート提出を実施する場合がある。		
準備学習（予習・復習）の内容	テキストの予習、復習と授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	イントロダクション	
第2回	遠隔（オンデマンド）	情報通信と社会	
第3回	遠隔（オンデマンド）	メディアと社会	
第4回	遠隔（オンデマンド）	情報通信の発展	
第5回	遠隔（オンデマンド）	情報通信と経済	
第6回	対面	情報通信と地域活性化	
第7回	遠隔（オンデマンド）	情報通信の未来	
第8回	遠隔（オンデマンド）	セキュリティとプライバシー	
第9回	遠隔（オンデマンド）	情報通信と産業	
第10回	対面	情報社会を支える基盤	
第11回	遠隔（オンデマンド）	情報通信と科学	

第12回	遠隔（オンデマンド）	情報社会と個人		
第13回	遠隔（オンデマンド）	デジタルコンテンツと著作権		
第14回	対面	情報倫理、知的財産、持続可能な情報社会		
第15回	この授業に第15回の授業はありません			
履修上の注意点	テキストの分量が多いので、普段から継続してこつこつと勉強しないと理解は難しい。地道に頑張ること。第一回と第十四回は対面授業を行う。それ以外はTeramsによるオンデマンド授業であるが、途中1～2回の対面授業を行い、その際に小テストを行う。実施日は授業内で最終調整する。 (やむを得ない事情で対面授業に参加出来ない可能性のある人は事前に教員に相談すること。)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
進化する情報社会（改訂版）	児玉晴男、小牧省三	放送大学教育振興会	978-4-595-31574-9	

参考書	
成績評価の方法	割合（％）
レポート	60%
小テスト	40%
成績評価方法の備考	
参考URL	

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	akbk81d810		
科目名	AI概論 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	加藤 丈和		
授業責任教員	加藤 丈和		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教①物事を多角的な視点から客観的に理解するとともに、論理的・批判的に思考したうえで、自分自身で判断して主体的に行動することのできる能力		
科目ナンバリング	GE101,NU101,PT111,OT-112,MT-111		

テーマ	人工知能の概念、その具体的手法と社会との関わりについて学ぶ		
授業の到達目標	①人工知能の基本的概念と扱う問題について理解できる。 ②人工知能を取り巻く社会的環境や人工知能の現在と将来について考察できる。 ③人工知能の基本的手法について理解し、簡単な問題に適用できる。		
授業の概要	近年、自動運転やIoT, DXなど、AIが中心的役割を果たすと言われている分野が増え、着実に社会の基盤に組み込まれつつある。このような時代において非技術系を含むあらゆる分野でAIの概念を理解できAIをツールとして利用できる人材が求められている。本講義ではAIの基本的概念やAIが取り扱う分野について体系的に学び、また基本的なAI手法について具体的データで実際に試しながら学ぶ。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<p>【事前学習】 毎回の授業中に次回の授業範囲を予告するので、教科書の該当部分や指示した資料を事前に熟読する。</p> <p>【事後学習】 授業内容を授業スライドに従って復習するとともに、授業中に出题された課題を行う。</p> <p>【その他】 人工知能は、線形代数や確率統計の理論の上に成り立ち、また基本的なコンピュータリテラシーを必要とするので、適宜これらの内容を復習しておくこと。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	毎回授業内容に関する演習問題、または、調査考察を行うレポートを課す		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。／TeamsやUNIPA等で学生個人ごとにコメントを返す。		
アクティブラーニング実施の方法	反転学習／実習／ピアインストラクション		
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（オンデマンド）	ガイダンス、AIリテラシーとAIの歴史 - AIとは？AIリテラシーとは？ - AIの起源と3回のAIブーム	
第2回	遠隔（オンデマンド）	AIの現在と将来 - 現在のAIの実力とシンギュラリティ - AIによる人間の仕事の代替"	
第3回	遠隔（オンデマンド）	AIと機械学習 - AIの実体と構成要素の体系的な理解 - 機械学習の本質と基本原理"	
第4回	遠隔（オンデマンド）	AIを実行する環境 - Pythonとは - Jupyter notebookとは - Google Colaboratory - Colab を使ったデータの読み込みと可視化	

第5回	遠隔 (オンデマンド)	プログラムによるデータの扱い		
第6回	遠隔 (オンデマンド)	基礎的な認識手法 1		
第7回	遠隔 (オンデマンド)	基礎的な認識手法 2		
第8回	遠隔 (オンデマンド)	ニューラルネットワーク 1		
第9回	遠隔 (オンデマンド)	ニューラルネットワーク 2		
第10回	遠隔 (オンデマンド)	深層学習 1		
第11回	遠隔 (オンデマンド)	深層学習 2		
第12回	遠隔 (オンデマンド)	AIとデータサイエンス		
第13回	遠隔 (オンデマンド)	AI時代を生き抜くために		
第14回	遠隔 (オンデマンド)	まとめと総括		
第15回	この授業に第15回の授業はありません			
履修上の注意点	授業中にPCを使用する課題があるのでPCを用意する。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AIリテラシーの教科書	浅岡 伴夫, 松田 雄馬, 中松 正樹	東京電機大学出版局	9784501557508	

参考書	
成績評価の方法	割合 (%)
小テスト	50%
授業中課題	40%
参加度	10%
成績評価方法の備考	
参考URL	

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	ask102f219		
科目名	クロスオーバー型課題解決プロジェクト < i >	単位数	2単位
担当者	工藤 寛樹		
授業責任教員	工藤 寛樹		
配当回生	2年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員	25		
クラス指定			
教育目標	教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成 教⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の養成		
科目ナンバリング	NU-213		

テーマ	テーマ 組織や社会の実践的な課題に触れることのできるプロジェクト基盤学修（PBL）		
授業の到達目標	①複数学科の学生が越境し合うことで、相互の違いを理解し、その違いを生かしながら一定の期限内に成果を生み出す力を養う。 ②企業や行政などから提示された実務的な課題に取り組むことで、さらなる知識や技能の獲得に向かう態度と卒業後のキャリアを考える力を養う。これらを通して、専門性への関心を高め、大学でのキャリア開発を促進し、さらには、卒業後のキャリア形成を構想する力や意欲を高める。		
授業の概要	大学生活におけるキャリア開発と卒業後のキャリア形成に関する意識や意欲の醸成、コミュニケーション能力、計画・実行力等の汎用的能力育成に加え、学部の学びに関連する専門性への関心向上と能力深化を目的とします。 授業では、企業や自治体等と連携し、連携先から提示された課題に対して、学部・学科を越えた学生が専門性を共有したりしながら取り組み、プレゼンテーションをおこないます。 ※連携先や取り組みテーマなどは、産学公連携科目ガイダンスにて配布の資料で確認してください。		
教員の実務経験・授業内容	担当教員は情報工学科所属であり、本講義ではプログラミングやデータサイエンスに関する専門的な知見から、企業や自治体等からの課題に対するアプローチについての助言を行い、学生プロジェクトチームをファシリテーションする。		
準備学習（予習・復習）の内容	本科目は企業や自治体等のリアルな課題をチーム活動（プロジェクト活動）によって解決することになるため、企業や業界などに関する情報収集や課題解決のためのプロジェクト活動などの準備活動に加え、プログラミング、データサイエンスに関する学習が不可欠となります。また、今後の学生生活やキャリア開発等につなげるために授業（プロジェクト活動）の振り返りを行います。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	毎回の授業にてリフレクション課題を課します。この授業課題は、自らのキャリア開発（能力開発）を振り返り、さらには今後の学生生活や卒業後キャリアを展望するための材料となります。 なお、最終レポートでは、本科目によるキャリア開発（能力開発）を振り返り、今後の学生生活や卒業後キャリアに向けた展望を述べることとなります。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	オリエンテーション（プロジェクト活動に必要な態度・スキル等の確認） チーム編成・チームビルディング	
第2回	対面	企業側からの課題提示：業界の概要、企業概要の説明、課題提案の主旨説明	

第3回	対面	課題解決やプロジェクトに関する解説、前提知識・分析手法に関するレクチャー①
第4回	対面	前提知識・分析手法に関するレクチャー②
第5回	対面	チーム活動（課題解決アプローチの検討、一次提案に向けた準備）
第6回	対面	企業側への一次提案：グループ発表と質疑応答、企業・教員等からのフィードバック
第7回	対面	チーム活動：企業・教員等からのフィードバックを踏まえた活動①
第8回	対面	チーム活動：さらなる情報収集、ディスカッションの深化、企業側への確認事項の検討
第9回	対面	企業への中間報告
第10回	対面	チーム活動：中間報告でのフィードバックを踏まえた活動
第11回	対面	チーム活動：中間報告でのフィードバックを踏まえた活動②
第12回	対面	チーム活動：最終提案に向けた課題解決策の準備、プレゼン資料の準備、最終提案に向けた準備
第13回	対面	企業側への最終提案と最終提案を受けての企業側からのコメント
第14回	対面	チームによる振り返り、活動の高度化に向けた解説・個人による振り返り（動画視聴とワークシートを用いた振り返りを予定）
第15回	対面	この授業に第15回の授業はありません

履修上の注意点	<p>本科目は、定員を超過する履修希望があった場合に選考が行われます（志望理由が判断材料となります）。選考や履修登録の方法は、産学公連携科目ガイダンス（オンデマンド配信）にて説明します。本科目は企業や自治体等と連携して実施するため、取り組む内容はクラス毎に異なります。このため、授業計画の詳細はクラス毎に周知します。</p> <p>※本科目は、一般社団法人日本経済団体連合会と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」が定義する「学生のキャリア形成支援活動」のにタイプ2（「キャリア教育」）に該当します。タイプ2の詳細は、以下のURLにアクセスし、資料（「何が変わるの？これからのインターンシップ」）にて確認してください。 https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/039_leaflet2.pdf</p>			
---------	---	--	--	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				

参考書	
成績評価の方法	割合（％）
参加度	28%
授業中課題	28%
授業中発表等	20%
レポート	24%

成績評価方法の備考	<p>評価の視点はプロジェクトへの取り組み（48％）とキャリアデザインへの取り組み（52％）です。具体的には以下となります。</p> <p>【プロジェクトへの取り組み（48％）】 参加度28％＝プロジェクト活動への貢献度に応じて評価 ※貢献基準は越境カルーブリックを参照 授業中発表等20％＝報告機会2回（中間・最終）×10点満点</p> <p>【キャリアデザインへの取り組み（52％）】 授業中課題28％＝授業に参加し、活動の振り返りを含む課題の提出×2点満点 レポート24％＝事後学修用「ワークシート」の作成10点満点＋レポート14点満点 ※レポート採点基準は未来構想カルーブリックを参照</p> <p>なお、「参加度」は、出席するだけでなく、プロジェクトへの積極的な参加を評価します（各授業回最大2点）。また、授業への遅刻や早退は減点となります。また、「授業中課題」は毎回あり、授業での学びや気づき、成長を振り返ります。この振り返りがキャリアデザインの際のポートフォリオ機能を持ちます。なお、提出遅れや内容の乏しい記述は減点対象となります。「授業中発表等」は、中間報告と最終報告を評価します。「事後学修」は、動画を視聴したうえで、本科目による成長などを事後学修用「ワークシート」を用いて振り返ることを予定しています。「レポート」は、事後学修用「ワークシート」を用いた振り返りをもとに、本プロジェクトで力をいれたこと、成長したことなどの自己PR（いわゆる「ガクチカ」と呼ばれるもの）と今後の学生生活や卒業キャリアに向けた展望を800～1000文字で述べることとなります。（このレポートの作成を通じて、就職活動場面で求められる自己PRやガクチカを作成するためのスキルも育成されます）</p>
-----------	---

参考URL	
-------	--

授業の実施形態	【遠隔】フルライブ中継		
授業コード	a56101d210		
科目名	社会調査法 < a > 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	山野 薫		
授業責任教員	山野 薫		
配当回生	カリキュラムにより異なります。		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教①物事を多角的な視点から客観的に理解するとともに、論理的・批判的に思考したうえで、自分自身で判断して主体的に行動することのできる能力		
科目ナンバリング	EN-102,NU-112,PT-112,OT-112,EM-112,MT-122		

テーマ			
授業の到達目標	①一般社会で行われている調査について、その意義とともに理解できるようになる。 ②社会調査を実施するために必要な知識（データの収集方法、分析手法など）を習得する。 ③調査によって得たデータが示す意味や、調査を実施することの社会的意義を読み取れるようになる。		
授業の概要	社会では、人々の生活の様子や考え方を知るために、様々な「調査」が行われています。また、社会科学を中心とする学術研究の場においても、調査は重要なものとみなされています。しかし、その調査を有意義なものにするには、科学的に信用できる方法で実施や分析がされなければなりません。本科目では、社会の様々な事柄について科学的に調査・分析する意義を学習し、科学的信用度の高い方法で調査が実施できるようになるための基礎知識を習得します。		
教員の実務経験・授業内容	シンクタンクでの勤務経験を有する教員が、社会調査の豊富な経験を生かして、実例などを交えながら社会調査の実施に必要な知識について解説する。		
準備学習（予習・復習）の内容	講義後は復習として、講義内容を自分なりにまとめる、あるいは、課題に積極的に取り組むことを通して理解を深めておくこと。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。／TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（ライブ中継）	オリエンテーション： 本講義の概要、なぜ社会調査について学ぶのか	
第2回	遠隔（ライブ中継）	社会調査の種類： 社会調査の種類と各調査の特徴	
第3回	遠隔（ライブ中継）	社会調査の手順、調査倫理： 調査の手順と各段階で気を付けること、調査者に求められる倫理観	
第4回	遠隔（ライブ中継）	社会調査で使用する資料の種類と公的統計の特徴： 資料の特徴とその評価基準、日本の公的統計の特徴と意味	
第5回	遠隔（ライブ中継）	量的調査の特徴と手順： 量的調査の特徴とアンケート調査の実施手順	
第6回	遠隔（ライブ中継）	量的調査の実施方法(1)： アンケート調査の進め方と留意点	
第7回	遠隔（ライブ中継）	量的調査の実施方法(2)： アンケート調査の設計	
第8回	遠隔（ライブ中継）	量的調査の方法(3)： アンケート調査におけるデータ整理と分析	

第9回	遠隔（ライブ中継）	質的調査の特徴と手順： 質的調査の特徴と質的調査の実施手順
第10回	遠隔（ライブ中継）	質的調査の実施方法(1)： 観察・参与観察
第11回	遠隔（ライブ中継）	質的調査の実施方法(2)： インタビュー調査
第12回	遠隔（ライブ中継）	質的調査の実施方法(3)： 質的調査におけるデータ整理と分析
第13回	遠隔（ライブ中継）	調査の終え方と報告書の作成： 調査報告書を作成し、結果を公表できるようにする
第14回	遠隔（ライブ中継）	まとめ： 社会調査の全体像を振り返る
第15回	この授業に第15回の授業はありません	

履修上の注意点

この授業はオンデマンド型ではなく、ライブ中継型の遠隔授業で実施します。動画配信は行いませんので、時間割に指定されている曜日・時間に受講してください。
 大学4年間の学びの基礎となる内容を扱う講義であるため、学修量は非常に多い。予習復習を継続的にを行い、意欲的に受講することを強く求めます。
 受講者の習熟度に応じて、授業の進捗や順序を変更したり、発展的な内容を取り上げる場合もあります。

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
適宜、資料を配布する				

参考書

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
最新・社会調査へのアプローチ	大谷 信介	ミネルヴァ書房	2500	9784623095247	冊子版
入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ 第4版	轟 亮 編	法律文化社	2500	9784589041418	冊子版
社会調査法	伊達 平和	学術図書出版社	2200	9784780607048	冊子版
はじめての社会調査	三井 さよ	世界思想社	2400	9784790717775	冊子版
初学者のための質的研究 26の教え	中 篤洋／著	医学書院	1800	9784260024051	冊子版

成績評価の方法

割合（％）

レポート	40%
授業中課題	40%
参加度	20%

成績評価方法の備考

レポート：期末レポートの提出を求める他、講義の進捗状況によって中間レポートを出題します（詳細は講義内で説明する）
 授業中課題：学修内容の実践や理解度の確認テストを実施します
 参加度：課題の提出状況やその内容、学修態度、コメントフォームへの記述状況などから総合的に評価します

参考URL

授業の実施形態	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）		
授業コード	a56101d110		
科目名	統計学基礎 < 営・他 a >	単位数	2単位
担当者	桑 海侠		
授業責任教員	桑 海侠		
配当回生	カリキュラムにより異なります。		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教①物事を多角的な視点から客観的に理解するとともに、論理的・批判的に思考したうえで、自分自身で判断して主体的に行動することのできる能力		
科目ナンバリング	PT231		

テーマ	経済・経営現象を数字で語るための基礎を学ぶ。		
授業の到達目標	①データを数値で記述し、データの特徴が説明できる。 ②相関関係と因果関係の違いが説明できる。 ③正規分布を用いて、特定の条件となる確率が算出できる。		
授業の概要	さまざまな経済・経営現象を統計学の方法に基づいて数値で表現したり、変数同士の関係性を見いだしたり、確率に基づいて判断を下すのに役立つ統計手法を学ぶ。		
教員の實務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	予習：事前に講義資料をTeamsにアップする。 内容を確認してください。 復習：課題を取り組み、講義内容に対する理解を深める。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	内容を復習するための小課題を課す。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	ディスカッション／グループワーク		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	講義内容と進め方の紹介	
第2回	対面	Excelの基本操作	
第3回	対面	記述統計学：Excelでのグラフの作成	
第4回	対面	記述統計学：統計量の計算	
第5回	対面	記述統計学：Excelによる統計量の計算	
第6回	対面	記述統計学：度数分布表	
第7回	対面	記述統計学：散布図、相関係数	
第8回	対面	記述統計学：回帰分析	
第9回	対面	確率統計学：確率の基礎	
第10回	対面	確率統計学：確率変数 確率分布	
第11回	対面	確率統計学：正規分布1	
第12回	対面	確率統計学：正規分布2	
第13回	対面	推定統計学：母平均区間推定と仮説検定	
第14回	遠隔（オンデマンド）	授業の振り返りと総括	

第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	<p>初回の講義は講義の進め方などについて説明する予定である。必ず受けること。 Excelを利用した演習を行う。 予備知識が不要であるが、パソコンの基本操作を少しずつ慣れていく必要がある。</p> <p>本科目では、授業中の飲食や早退などは禁止されている。 また、「ピー逃げ」など不正行為が見つかった場合、該当する学生には単位が与えない。 講義内容が関連しているため、連続での欠席は控えてください。 学生は講義に関する最低限のルールを守るようお願いします。</p>	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編	東京大学出版会	9784130420655	
入門統計解析法	永田 靖	日科技連	4817102667	
直感的統計学	吉田 耕作	日経BP社	4822245101	
実習統計学入門	涌井 良幸 涌井 貞美	技術評論社	4774145076	
成績評価の方法			割合 (%)	
試験			50%	
授業中課題			30%	
参加度			20%	
成績評価方法の備考	試験、授業中課題、参加度を用いて、総合的に評価する。			
参考URL				

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a55102g410		
科目名	プログラミング演習Ⅰ <CO・a>	単位数	2単位
担当者	伊藤 京子		
授業責任教員	伊藤 京子		
配当回生	カリキュラムにより異なります。		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員	38		
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得</p> <p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>済① グローバルなレベルから地域に密着したレベルまでの経済・社会・自然・文化に関する幅広い知識を身につける</p> <p>済⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>済⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける ●</p> <p>営⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>営⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける</p>		
科目ナンバリング	ICS221		

テーマ	プログラミングの楽しさをPythonで学ぶ		
授業の到達目標	<p>① プログラミング的な考え方ができるようになること。</p> <p>② プログラミングの基礎構文を理解すること。</p> <p>③ Pythonで簡単なプログラムを作成できること。</p>		
授業の概要	近年、情報システムを開発・活用できる人材が社会で求められていることから、プログラミング技術者の需要は非常に高い。本科目では、情報システムが動作する仕組みを演習形式で学び、「プログラミングとはどういったものなのか」の理解を目的とする。具体的には、比較的初学者向けのプログラミング言語「Python」を用いて、変数や条件分岐、繰り返し処理といったプログラミングの基礎を学び、プログラミングの考え方を身につける。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<p>【事前準備】</p> <p>事前にTeams等で公開されるレジュメに目を通し、授業が円滑に進められるように準備を行うこと。不明な点は教員等に授業内で質問できるよう準備すること。</p> <p>【事後学習】</p> <p>その日の内容を講義中に示した資料等で確認し、学習した内容の振り返りに取り組むこと。また、授業内に課題が完了しなかった場合、期日までに提出する必要がある。</p> <p>【その他】</p> <p>欠席した場合は、電子的に配布されるレジュメを確認して自分で演習を行い、課題を期日までに提出すること。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	実習		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	ガイダンス、プログラミングとは、環境設定	
第2回	対面	Pythonプログラムの作成・変数	
第3回	対面	いろいろな組み込み型	
第4回	対面	モジュールのインポート、クラスや関数の利用	

第5回	対面	プログラムの処理の分岐
第6回	対面	プログラムの処理の繰り返し
第7回	対面	小テスト
第8回	対面	文字列の活用
第9回	対面	リストやタプルの活用
第10回	対面	辞書と集合の操作
第11回	対面	リスト、辞書、集合を生成する内包表記
第12回	対面	関数の作成
第13回	対面	関数の活用
第14回	対面	小テスト・まとめ
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	「プログラミング演習Ⅰ＜CO＞」と、「プログラミング演習Ⅱ＜CO＞」は、両方を履修することを推奨する。「プログラミング演習Ⅱ＜CO＞」では、「プログラミング演習Ⅰ＜CO＞」の学習内容を理解していることを前提とする。また授業の進行上、上記演習Ⅰ、演習Ⅱとも同一教員クラスでの履修が望ましい。	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎Python 第2版	大津 真	インプレス	978-4295010630	
成績評価の方法		割合 (%)		
参加度		28%		
授業中課題		48%		
小テスト		24%		
成績評価方法の備考				
参考URL	東京大学：Pythonプログラミング入門（PDF） https://utokyo-ipp.github.io/IPP_textbook.pdf 京都大学：プログラミング演習 Python 2021（PDF） https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/265459			

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a55102g550		
科目名	プログラミング演習Ⅱ <CO・a>	単位数	2単位
担当者	伊藤 京子		
授業責任教員	伊藤 京子		
配当回生	カリキュラムにより異なります。		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員	38		
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>済① グローバルなレベルから地域に密着したレベルまでの経済・社会・自然・文化に関する幅広い知識を身につける 済⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける 済⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける ● 営⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける 営⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける</p>		
科目ナンバリング	ICS221		

テーマ	具体的な事例を通じてPythonによる情報処理を学ぶ		
授業の到達目標	<p>① プログラミング的な考え方ができるようになること。 ② Pythonで簡単な情報処理ができるようになること。 ③ 具体例を参考に応用的なプログラミングができるようになること。</p>		
授業の概要	<p>これからの高度IT化社会においては、職業プログラマでなくてもある程度のプログラミングスキルを持つことが望ましい。例えば、研究活動やビジネスシーンにおいては、日々収集・更新されたデータを取りまとめて分析する場面が多々ある。このうち単純な繰り返しだが手作業だと膨大に時間がかかる処理を、コンピュータに肩代わりさせることができれば作業効率は飛躍的に向上する。本科目では、比較的学習コストが低いプログラミング言語「Python」を使い、よく行われる処理の自動化やデータ解析などの具体的な事例を一通り体験し、ありふれた作業をどのようにしてコンピュータに肩代わりさせるかの考え方を学ぶ。</p>		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<p>【事前準備】 本科目は履修の前提として、初歩的なPythonプログラミングはできるものとする。具体的には「プログラミング演習Ⅰ <CO>」の単位取得済み相当の能力を要する。Pythonの基礎的な文法については、参考書などで各自予習しておくことが求められる。 また、事前にTeams等で公開されるレジュメに目を通し、授業が円滑に進められるように準備を行うこと。特に不明な点を教員等に授業内で質問できるように準備すること。 【事後学習】 その日の内容を講義中に示した資料等で確認し、学習した内容の振り返りに取り組むこと。 また、授業内に課題が完了しなかった場合、期日までに提出する必要がある。 【その他】 欠席した場合は、電子的に配布されるレジュメを確認して自分で演習を行い、課題を期日までに提出すること。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	実習		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	

第1回	対面	導入、Pythonの復習
第2回	対面	テキスト・データ処理(1)
第3回	対面	テキスト・データ処理(2)
第4回	対面	テキスト・データ処理(3)
第5回	対面	Web操作・スクレイピング(1)
第6回	対面	Web操作・スクレイピング(2)
第7回	対面	Web操作・スクレイピング(3)
第8回	対面	ワードクラウド(1)
第9回	対面	ワードクラウド(2)
第10回	対面	ワードクラウド(3)
第11回	対面	機械学習(1)
第12回	対面	機械学習(2)
第13回	対面	機械学習(3)
第14回	対面	まとめ
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	「プログラミング演習Ⅰ＜CO＞」と、「プログラミング演習Ⅱ＜CO＞」は、両方を履修することを推奨する。 「プログラミング演習Ⅱ＜CO＞」では、「プログラミング演習Ⅰ＜CO＞」の学習内容を理解していることを前提とする。 また授業の進行上、上記演習Ⅰ、演習Ⅱとも同一教員クラスでの履修が望ましい。	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎Python 第2版	大津 真	インプレス	978-4295010630	
成績評価の方法		割合 (%)		
参加度		30%		
授業中課題		60%		
レポート		10%		
成績評価方法の備考				
参考URL	東京大学, 「Pythonプログラミング入門」(PDF), https://utokyo-ipp.github.io/IPP_textbook.pdf 京都大学, 「プログラミング演習 Python 2021」(PDF), https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/265459			

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a20102g350		
科目名	統計学概論	単位数	2単位
担当者	朴 熙成		
授業責任教員	朴 熙成		
配当回生	3年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員	50		
クラス指定			
教育目標	<p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>国③ 文化・社会・経済・経営・観光などに関する幅広い知識と教養を基盤としたグローバルコミュニケーション能力の養成</p> <p>国④ 現代社会に広く関心を持ち、生涯にわたって新しい知識を吸収していく能力の養成</p>		
科目ナンバリング	EG-321		

テーマ	社会や経済現象を数字で語るための基礎を学ぶ。		
授業の到達目標	<p>By the end of this course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Understand the basic concepts of statistics, including mean, median, mode, range, and variability. 2. Collect, organize, and analyze data from real-life scenarios. 3. Use Excel to perform basic calculations, create graphs, and apply formatting tools. 4. Visualize data using appropriate charts and graphs such as bar charts, histograms, scatter plots, and pie charts. 5. Apply statistical methods to identify patterns, relationships, and trends in data. 6. Develop and present a simple data analysis project using the skills learned throughout the course. <p>このコースで習得できるスキルは：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平均、中央値、最頻値、範囲、分散などの統計学の基本概念を理解する。 2. 日常生活に基づいたデータを収集、整理、分析する方法を学ぶ。 3. Excelを使って基本的な計算を行い、グラフを作成し、フォーマットを適用するスキルを習得する。 4. 棒グラフ、ヒストグラム、散布図、円グラフなどの適切なチャートを用いてデータを視覚化する。 5. データに基づいてパターンや関係性、傾向を特定する方法を身につける。 6. コースで学んだスキルを活用して、簡単なデータ分析プロジェクトを作成・発表する。 		
授業の概要	<p>This course is designed to develop an understanding of basic statistical concepts. Topics include statistical thinking, data organization, interpretation of graphs and indicators, understanding correlations, and basic statistical inference. The course will incorporate real-life and business applications to help students build foundational statistical literacy.</p> <p>この授業では、統計学の基本概念を理解できるように学ぶ。統計の考え方、データの整理方法、グラフや指標の見方、相関関係の理解、簡単な統計的推測までを取り扱う。日常生活やビジネスにおける統計の活用例を交えながら、基礎的な統計リテラシーを身につけることを目指す。</p>		
教員の実務経験・授業内容	該当しない		
準備学習（予習・復習）の内容	<p>事前学習</p> <p>授業の前に指定された簡単な記事を読み、授業で扱うテーマについてのイメージを持っておく。</p> <p>基本的な用語の意味（例：平均、中央値、分散）を確認する。</p> <p>事後学習</p> <p>ニュースやSNSのデータを見て、学んだ統計手法で分析してみる。</p> <p>誤った統計の解釈例を考え、なぜ誤りなのかを説明する。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	<p>内容を復習するための小課題を課す。</p> <p>各回の授業後に、簡単な課題（例：「特定のデータセットをもとに平均値と中央値を求める」）を提出。</p> <p>最終課題として、身の回りの統計データを用いたミニレポートを作成（例：「最近のニュースに出た統計データを分析し、その妥当性を検討する」）。</p>		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。／TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。		

アクティブラーニング実施の方法	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション	
授業の起点となるツール	教室（対面授業）	
授業の計画	授業実施形態	授業内容
第1回	対面	Introduction & What is Statistics? イントロ&統計学とは何か。
第2回	対面	Types and Collection of Data データの種類と集め方
第3回	対面	Organizing Data データの整理
第4回	対面	Measuring Data Dispersion データの散らばり
第5回	対面	Understanding and Creating Graphs グラフの読み方と作成
第6回	対面	Basics of Probability 確率の基礎
第7回	対面	Introduction to Probability Distributions 確率分布の基本
第8回	対面	Correlation and Causation 相関関係と因果関係
第9回	対面	Introduction to Statistical Inference 統計的推測とは
第10回	対面	Concept of Estimation 推定の考え方
第11回	対面	Basics of Hypothesis Testing 仮説検定の考え方
第12回	対面	Applications of Statistics in Real Life 実社会における統計の活用
第13回	対面	Interpreting Statistical Data 統計データの読み解き
第14回	対面	Summary and Applications まとめと応用
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	初回の講義は必ず出席すること。 課題を中心に成績を評価する。毎回の配布資料の内容を十分に復習すること。	
教科書		

参考書	
成績評価の方法	割合（％）
レポート	30%
授業中課題	50%
参加度	20%
成績評価方法の備考	授業への参加・発言（20%） 課題提出（50%） 期末ミニレポート（30%）
参考URL	

授業の実施形態	【遠隔】ハイブリッド（対面回数半数未満）		
授業コード	a40101a550		
科目名	心理学研究法Ⅰ【遠隔】	単位数	2単位
担当者	岸 太一		
授業責任教員	岸 太一		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得</p> <p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教③ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>教④ 読む力や書く力、話す力や聞く力の養成</p> <p>心① 心理学全般の基礎知識をバランスよく身につける。</p> <p>心② 心理学的な視点と研究法により、社会の人-が直面している問題・課題に取り組む能力を身につける。</p> <p>心③ 自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人-と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につける。</p>		
科目ナンバリング	EN-102,NU-112,PT-112,OT-112,EM-112,MT-122		

テーマ	心理学研究の方法論の概要、および量的研究と質的研究の理解		
授業の到達目標	心理学が目標とする「実証（データ）に基づく客観的な行動理解」を実現するための方法論について理解を深める。		
授業の概要	心理学の方法論である、実験法、調査法、観察法などを理解するとともに、心理学における研究計画を身につける。またそれぞれの研究法において用いられる統計的方法（量的データへの分析方法の適用と解釈）や研究倫理についても理解を深める。		
教員の実務経験・授業内容	<p>心理学の研究手法について、特に実験及び調査を中心に講義を行う。また、どのような研究手法においても必須の作業となる研究資料（論文・文献）の収集方法ならびに研究資料を対象とした研究（いわゆる文献研究）についても説明を行う。さらに、近年では研究に関する問題として研究倫理や研究公正（研究不正）が取り上げられるようになっている。総合心理学部の学生は卒業論文の作成において何らかの研究を行うことが想定されている。よって、研究に関する倫理や研究公正（研究不正）についても取り上げる。</p> <p>本科目では上回生で配当されている「総合心理学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」や「卒業研究Ⅰ～Ⅳ」での学びを行う上で重要な科目である。また、社会調査士およびデータサイエンスに関する科目においても本科目は重要な科目である。</p>		
準備学習（予習・復習）の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、各回のテーマについて事前に教科書もしくはTeamsにて配布された資料を読んでおくこと。 ・復習として、授業の内容をノートにまとめ、整理しておくこと。 ・復習として、授業内で取り上げた研究論文・書籍を読み、内容を整理しておくこと。 	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	対面授業時にその前2回のオンデマンド動画に関する内容の課題を出す。課題提出は対面授業終了時とする。		
課題に対するフィードバック	TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。		
アクティブラーニング実施の方法	反転学習／グループワーク		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）／Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	心理学研究法概論	
第2回	遠隔（オンデマンド）	心理学研究におけるリサーチデザイン	
第3回	遠隔（オンデマンド）	研究倫理①-研究対象者に対する配慮	
第4回	対面	研究倫理②-研究不正・QRP	
第5回	遠隔（オンデマンド）	既存のデータや文献を用いた研究	
第6回	遠隔（オンデマンド）	実験法① 概論	
第7回	対面	実験法② 実験の種類	

第8回	遠隔（オンデマンド）	実験法③ 実験計画を考えてみる
第9回	遠隔（オンデマンド）	調査法① 質問紙による調査
第10回	対面	調査法② 面接による調査
第11回	遠隔（オンデマンド）	観察法① 概論
第12回	遠隔（オンデマンド）	観察法② 観察の方法
第13回	対面	疫学研究
第14回	対面	介入研究
第15回	対面	試験
履修上の注意点	本科目はオンデマンド授業と対面によるハイブリッド方式となっている。オンデマンド動画は対面授業として行った場合の日時をめぐりにアップされる。 対面時にはオンデマンドを視聴したことを前提とした課題に取り組むので、必ずオンデマンド動画を視聴したうえで出席すること。	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公認心理師スタンダードテキストシリーズ4 心理学研究方法	三浦麻子・小島康生・平井啓（編著）	ミネルヴァ書房		

参考書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ライブラリ心理学の杜3 心理学研究方法	本多明生・山本浩輔・柴田理瑛・北村美穂	サイエンス社	978-4-7819-1539-5	
なるほど！心理学実験法（心理学ベーシック第2巻）	佐藤暢哉・小川洋和	北大路書房	978-4-7628-2996-3	
なるほど！心理学調査法（心理学ベーシック第3巻）	大竹恵子・一言英文・田淵恵・箕浦有希久	北大路書房	978-4-7628-2990-1	
なるほど！心理学観察法（心理学ベーシック第4巻）	佐藤寛（編著）	北大路書房	978-4-7628-3014-3	
文献レビューのきほんー看護研究・看護実践の質を高める	大木秀一	医歯薬出版	978-4-2632-3581-2	

成績評価の方法

割合（％）

試験	70%
小テスト	20%
参加度	10%

成績評価方法の備考

参加度は授業終了後あるいは授業時間外での質問によって評価を行う。

参考URL

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a40101a650		
科目名	心理学統計法Ⅰ	単位数	2単位
担当者	前田 洋光		
授業責任教員	前田 洋光		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得</p> <p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>心① 心理学全般の基礎知識をバランスよく身につける。</p> <p>心④ 心理学的な視点と研究法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につける。</p> <p>心⑤ 自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につける。</p>		
科目ナンバリング	EN-102,NU-112,PT-112,OT-112,EM-112,MT-122		

テーマ	基礎的な統計学の理解		
授業の到達目標	基礎的な統計手法や概念について理解し、心理学統計法Ⅱ以降で前提となる知識の基盤をつくる。また、心理学における統計の必要性について理解を深める。		
授業の概要	心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の基礎的なテーマについて、講義形式と演習形式を併用しながら、理解を深めていく。本講義は、労働問題に関するシンクタンクにおいて調査経験を有する者が担当する。		
教員の実務経験・授業内容	調査会社（シンクタンク）で研究員を務めた教員が統計の実践例を交えて解説する。		
準備学習（予習・復習）の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下記参考書をはじめ、統計学に関するテキストの講読 ・ 授業の配布資料の確認 	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	イントロダクション：統計学の必要性について	
第2回	対面	尺度水準（Stevensの4つの尺度水準）	
第3回	対面	度数分布	
第4回	対面	さまざまな代表値	
第5回	対面	散布度(1)：分散と標準偏差	
第6回	対面	散布度(2)：四分位偏差などその他の散布度	
第7回	対面	前半部分のまとめと確認	
第8回	対面	変数変換（標準得点と偏差値）	
第9回	対面	共分散とピアソンの相関係数(1)	
第10回	対面	共分散とピアソンの相関係数(2)	
第11回	対面	順位相関係数	
第12回	対面	クロス集計と連関係数	

第13回	対面	データ分析演習
第14回	対面	授業全体のまとめ
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	本科目は、知識を積み上げていくという性質のものです。そのため、遅刻・欠席によって各回の内容を修得できなければ、その後の授業を理解することが困難になっていきます。欠席したり、わからないことがあれば、いつでも質問にきてください。	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本	吉田寿夫	北大路書房		
よくわかる心理統計	山田剛史・村井潤一郎 著	ミネルヴァ書房		
成績評価の方法		割合 (%)		
試験		30%		
小テスト		50%		
参加度		20%		
成績評価方法の備考				
参考URL				

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a40102d550		
科目名	心理学データ解析 < a >	単位数	2単位
担当者	浦山 郁		
授業責任教員	浦山 郁		
配当回生	2年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員	50		
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>心① 心理学全般の基礎知識をバランスよく身につける。 心③ 臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、基礎心理学のいずれかの分野の専門性の高い理論・知識・研究法を身につける。 心④ 心理学的な視点と研究方法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につける。 心⑤ 自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につける。</p> <p>作① 幅広い教養と能動的に学習する姿勢を身につける 作③ 評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能を身につける 作④ クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度を身につける 作⑤ 疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能を身につける 作⑥ 地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力を身につける</p>		
科目ナンバリング	PS221		

テーマ	SPSSを用いた統計解析の基礎		
授業の到達目標	心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、統計解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。		
授業の概要	心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法（t検定、分散分析等）について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を教授する。 単なるソフトの使用のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。		
教員の実務経験・授業内容	本講義では、心理学の研究を自ら計画し、得られたデータを効果的に活用できるようになることを目指す。また、心理学の研究法や統計の知識を確認しながら、PC用統計ソフト（SPSS）の操作方法を指導する。		
準備学習（予習・復習）の内容	授業時間内に終わらなかった課題については、一定期間内に提出しなければならない。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	実習／ICTを活用した双方向型授業		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）／Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	イントロダクション	
第2回	対面	確率論の基礎・記述統計	
第3回	対面	相関係数	
第4回	対面	ここまでのまとめと演習	
第5回	対面	対応のない場合の t 検定	

第6回	対面	対応のある場合の t 検定
第7回	対面	対応のない場合の一要因分散分析
第8回	対面	対応のある場合の一要因分散分析
第9回	対面	ここまでのまとめと演習
第10回	対面	対応のない場合の二要因分散分析（1）主効果の理解
第11回	対面	対応のない場合の二要因分散分析（2）交互作用の理解
第12回	対面	ここまでのまとめと演習
第13回	対面	総合演習（1）
第14回	対面	総合演習（2）
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	講義内では心理統計法の復習もわずかに行うが、多くの時間を割けない。そのため、心理統計法Ⅰで学んだ内容を復習しておくことが求められる。また、心理学統計法Ⅱで学ぶ分析方法について、SPSSの操作方法を教示する。そのため、本講義を受講する前に心理統計法Ⅱを履修しておくことを強く推奨する。統計的検定の知識を習得しておくことは、本講義を受けるうえで大きなアドバンテージとなる。	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
SPSSのススメ＜1＞2要因の分散分析をすべてカバー	竹原卓真	北大路書房	9784762827983	
成績評価の方法		割合（％）		
小テスト		40%		
レポート		40%		
授業中課題		20%		
成績評価方法の備考				
参考URL				

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a40102d650		
科目名	社会調査法（社会心理調査）	単位数	2単位
担当者	小野 由莉花		
授業責任教員	小野 由莉花		
配当回生	2年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成 教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>心② ことごとからだを併せ持つ人間に関する事象を、心理学的視点から捉えて、分析し、理解する能力を身につける。 心③ 臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、基礎心理学のいずれかの分野の専門性の高い理論・知識・研究方法を身につける。 心④ 心理学的な視点と研究方法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につける。 心⑤ 自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につける。</p> <p>作② 作業療法を行う上で基礎となる医学および作業の知識を身につける 作③ 評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能を身につける 作④ クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度を身につける 作⑤ 疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能を身につける 作⑥ 地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力を身につける</p>		
科目ナンバリング	PS221		

テーマ	社会調査法に関する基礎知識の習得		
授業の到達目標	社会調査の意義や類型、歴史、調査倫理、方法など、社会調査の基本についてわかりやすく解説する。また、実際の多様な調査例を紹介することで、社会調査に対する理解を深める。		
授業の概要	パワーポイントの資料をスクリーンに提示し、講義形式で授業を進める。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	社会調査の意義や累計、歴史、調査倫理、方法など、社会調査の基本について解説する。また、実際の多様な調査例を紹介することで、社会調査に対する理解を深める。また、講義内外の課題として実際に調査を行うことで、社会調査に対する理解を深める。	準備学習（予習・復習）に要する時間	その他（「履修上の注意点」に具体的に記載する。）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	実習／フィールドワーク		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	社会調査の目的と意義	
第2回	対面	社会調査史	
第3回	対面	資料・データの収集	
第4回	対面	質的調査と量的調査(1) フィールドワーク	
第5回	対面	質的調査と量的調査(2) 観察法（参与観察法、非参与観察法）、アクション・リサーチ	
第6回	対面	質的調査と量的調査(3) 質問調査法（面接調査法、郵送調査法、留置調査法、集合調査法）	

第7回	対面	質的調査と量的調査(4) パネル調査、コホート、ケース・スタディ
第8回	対面	質的調査と量的調査(5) サンプリング
第9回	対面	実際の調査例(1) 行政調査(国勢調査、官庁統計)
第10回	対面	実際の調査例(2) 世論調査
第11回	対面	実際の調査例(3) マーケティング・リサーチ
第12回	対面	実際の調査例(4) 学術調査
第13回	対面	調査倫理
第14回	対面	社会調査に向けて
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	私語などの他の学生に迷惑になる行為は慎むこと。 講義内容は社会情勢等に鑑み、変更される可能性がある。	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・社会調査へのアプローチ：論理と方法	大谷信介 他	ミネルヴァ書房		
社会調査の基礎-社会調査士A・B・C・D科目対応	篠原 清夫 他	弘文堂		
社会調査の方法論	松本 涉	丸善出版		
成績評価の方法			割合(%)	
参加度			20%	
授業中課題			40%	
レポート			40%	
成績評価方法の備考				
参考URL				

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	a55102g310		
科目名	コンピュータシステム概論 < C O > 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	濱口 清治		
授業責任教員	濱口 清治		
配当回生	カリキュラムにより異なります。		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得</p> <p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>済① グローバルなレベルから地域に密着したレベルまでの経済・社会・自然・文化に関する幅広い知識を身につける</p> <p>済⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>済⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける</p> <p>営⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>営⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける</p>		
科目ナンバリング	ICS221		

テーマ	コンピュータの基本的な構造やしきみ、動作について理解する。		
授業の到達目標	コンピュータの基本的な構造や仕組みを理解する。ハードウェア上で動作するソフトウェアやアルゴリズム、ネットワークで結ばれたコンピュータシステムやインターネットの基本的な考え方を理解し、現代社会における情報処理とコンピュータの有用性を理解する。あわせて、情報処理分野の基本的な用語や知識を習得する。		
授業の概要	この授業では、現代社会を支えるコンピュータ技術について、そのハードウェアの構成から始めて、プログラムが実行されるしくみ、オペレーティングシステムの役割を学んだ後、コンピュータネットワークについて学ぶ。最後に情報セキュリティについて概観する。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<p>【予習】 次回の内容について教科書や資料を予習して不明点を明確化しておくことが必要である。</p> <p>【復習】 授業中で行った課題について復習することが必要である。</p> <p>【その他】 演習を通じて授業中での内容の理解を目指し、計画的に復習し内容を習得していくようにすること。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（オンデマンド）	コンピュータシステムの基本構成	
第2回	遠隔（オンデマンド）	数の表現	
第3回	遠隔（オンデマンド）	データの表現	
第4回	遠隔（オンデマンド）	プログラムとアルゴリズム	
第5回	遠隔（オンデマンド）	論理式と組み合わせ回路	
第6回	遠隔（オンデマンド）	有限状態機械と順序回路	
第7回	遠隔（オンデマンド）	プロセッサ	
第8回	遠隔（オンデマンド）	先進的なプロセッサと記憶装置	

第9回	遠隔 (オンデマンド)	入力装置と信頼性
第10回	遠隔 (オンデマンド)	オペレーティングシステム
第11回	遠隔 (オンデマンド)	ファイルとデータベース
第12回	遠隔 (オンデマンド)	コンピュータネットワーク (1)
第13回	遠隔 (オンデマンド)	コンピュータネットワーク (2)
第14回	遠隔 (オンデマンド)	情報セキュリティと情報倫理
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	参考書を複数あげているが、必要な内容は授業資料のみで完結するように講義する予定である。	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解 コンピュータ概論 ハードウェア	橋本洋志 その他	オーム社	978-4-274-22144-6	
図解 コンピュータ概論 ソフトウェア・通信ネットワーク	橋本洋志 その他	オーム社	978-4-274-22143-9	
はじめて学ぶコンピュータ概論	寺嶋廣克 他	コロナ社	978-4-339-02850-8	
わかりやすいコンピュータ概論	小高智宏	森北出版	978-4-627-85741-4	
情報科学基礎	伊東俊彦	ムイスリ出版	978-4-89641-235-2	
成績評価の方法			割合 (%)	
レポート			40%	
授業中課題			60%	
成績評価方法の備考	毎回の授業課題の提出および2回のレポートによって評価する。			
参考URL				

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a40103d510		
科目名	心理データサイエンス演習Ⅰ	単位数	2単位
担当者	小野 由莉花		
授業責任教員	小野 由莉花		
配当回生	3年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件	<p>下記①②をともに満たすこと</p> <p>①「社会・集団・家族心理学Ⅰ」、「社会・集団・家族心理学Ⅱ」、「産業・組織心理学」、「消費者行動論」のうち いずれか2科目を修得済みであること</p> <p>②「心理学統計法Ⅰ」を修得し、かつ、「心理学統計法Ⅱ」または「心理学データ解析」を修得済みであること</p> <p>なお、「社会心理学実験演習Ⅰ」と「社会心理学実験演習Ⅱ」は同時に履修すること</p>		
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得</p> <p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成</p> <p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>教⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の養成</p> <p>心② ことごとからだを併せ持つ人間に関する事象を、心理学的視点から捉えて、分析し、理解する能力を身につける。</p> <p>心③ 臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、基礎心理学のいずれかの分野の専門性の高い理論・知識・研究方法を身につける。</p> <p>心④ 心理学的な視点と研究方法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につける。</p> <p>心⑤ 自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につける。</p> <p>作② 作業療法を行う上で基礎となる医学および作業の知識を身につける</p> <p>作③ 評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能を身につける</p> <p>作④ クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度を身につける</p> <p>作⑤ 疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能を身につける</p> <p>作⑥ 地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力を身につける</p>		
科目ナンバリング	PS341		

テーマ	グループで決定した研究テーマについて、実証研究を実施する。		
授業の到達目標	本講では、受講生をいくつかのグループに分け、グループ研究を実施していく。具体的には、グループごとに研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、調査によって収集されたデータを分析し、レポートにまとめる。こうした一連の研究プロセスを直接体験することによって、卒業研究で活用すべきスキルを習得していく。		
授業の概要	社会心理学分野における実証研究を共同でおこなう。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	本講義ではグループに分かれ、実験計画の立案、実施、分析、発表を行う。具体的には、グループごとに研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、データを収集、分析し、レポートにまとめる。こうした一連のプロセスを直接体験することで、卒業研究で活用すべきスキルを習得することを目的とする。基本的には授業内で作業は完了しないため、授業時間外でもグループでの活動を求める場合がある。一人一人が自身の責任を自覚し、積極的に受講することが求められる。	準備学習（予習・復習）に要する時間	その他（「履修上の注意点」に具体的に記載する。）
課題の内容	各授業回のテーマに即した課題をその都度出すことを予定している。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	グループワーク／プレゼンテーション／実習／フィールドワーク		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	

第1回	対面	オリエンテーション（グループの決定）
第2回	対面	研究テーマの決定と文献検索の方法
第3回	対面	文献講読と仮説の設定
第4回	対面	質問項目の設計
第5回	対面	質問紙の設計
第6回	対面	調査準備（印刷）
第7回	対面	調査の実施
第8回	対面	データ入力
第9回	対面	データ分析（基礎集計）
第10回	対面	データ分析（仮説の検討）
第11回	対面	データ分析（発展的検討）
第12回	対面	レポートのまとめ方
第13回	対面	結果のまとめと考察
第14回	対面	プレゼンテーション
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	<p>本講は「心理データサイエンス演習Ⅰ」と「心理データサイエンス演習Ⅱ」の両方を受講することが履修の要件となる。要件を満たしていない場合は単位が認められないため、登録の際には十分注意すること。</p> <p>グループ作業が中心のため、遅刻・欠席は厳禁である。</p> <p>フリーライダーに対しても厳正に評価をおこなう。</p> <p>論文の講読と仮説構築・データ分析・プレゼンテーションなど、研究の一連のプロセスにおいて、自分の強みを発揮できる場を自ら見つけて積極的に協力して研究を遂行すること。</p>	
教科書		

参考書	
成績評価の方法	割合（％）
授業中課題	30%
授業中発表等	40%
参加度	30%
成績評価方法の備考	
参考URL	

授業の実施形態	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）		
授業コード	a56102d110		
科目名	データサイエンスⅠ < 営 a >	単位数	2単位
担当者	桑 海侠		
授業責任教員	桑 海侠		
配当回生	2年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>教⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の養成</p> <p>営② 専門性の高い各領域を学ぶ上で不可欠となる経営学の基礎的な知識を身につける</p> <p>営⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>営⑦ 専門的知識に裏付けられた課題発見的・論理的思考によって、社会、組織および個人について分析・考察し、それをイノベーションへと展開する能力を身につける</p>		
科目ナンバリング	PT352		

テーマ	統計データの視覚化・データの構造およびデータ関連性についての学習		
授業の到達目標	<p>①データの視覚化に必要なスキルを身につける。</p> <p>②データの関連性について理解できる。</p> <p>③経営分野におけるデータサイエンスの重要性・必要性についての理解を深める。</p>		
授業の概要	この授業では、表計算ソフトExcelを用いて、ビジネス現場で発生したデータの分析方法を学ぶ。データを視覚化するための知識と技術を習得し、統計的な視点で問題発見・問題解決に活用する能力を身に付けることを目的にしている。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<p>予習：事前に講義資料をTeamsにアップする。 内容を確認してください。</p> <p>復習：課題を取り組み、講義内容に対する理解を深める。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	内容を復習するための小課題を課す。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	ディスカッション／グループワーク		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	オリエンテーション	
第2回	対面	データサイエンスの基本	
第3回	対面	データの種類と基本統計量	
第4回	対面	データの可視化	
第5回	対面	2変数解析	
第6回	対面	確率論の復習①	
第7回	対面	確率論の復習②	
第8回	対面	推定の考え方	
第9回	対面	点推定	
第10回	対面	区間推定	
第11回	対面	需要予測①	
第12回	対面	需要予測②	

第13回	対面	需要予測③
第14回	遠隔（オンデマンド）	授業の振り返りと総括
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	<p>初回の講義は必ず出席すること。 「統計学基礎」や「データサイエンス基礎」などこれまでの知識を復習しておくことが望ましい。 課題を中心に成績を評価する。毎回の配布資料や動画の内容を十分に復習すること。</p> <p>本科目では、授業中の飲食や早退などは禁止されている。 また、「ピー逃げ」など不正行為が見つかった場合、該当する学生には単位が与えない。 講義内容が関連しているため、連続での欠席は控えてください。 学生は講義に関する最低限のルールを守るようお願いいたします。</p>	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス統計分析[ビジテク] 第3版	ビジネス統計分析[ビジテク] 第3版	翔泳社	978-4798148984	
Excelでかんたん統計分析ー 「分析ツール」を使いこなそう!	近藤 宏, 末吉 正成, 村田 真樹, 淵上 美喜, 上田 太郎 (監修)	オーム社	978-4274066917	
成績評価の方法		割合 (%)		
小テスト		40%		
授業中課題		40%		
参加度		20%		
成績評価方法の備考				
参考URL				

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	a56102d250		
科目名	データサイエンスⅡ < 営 a > 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	桑 海侠		
授業責任教員	桑 海侠		
配当回生	2年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成 教⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の養成 営② 専門性の高い各領域を学ぶ上で不可欠となる経営学の基礎的な知識を身につける 営⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける 営⑦ 専門的知識に裏付けられた課題発見的・論理的思考によって、社会、組織および個人について分析・考察し、それをイノベーションへと展開する能力を身につける		
科目ナンバリング	PT352		

テーマ	仮説検定、多変量解析およびオープンデータの解析についての学習		
授業の到達目標	①仮説検定が理解できる。 ②多変量解析に関する基本的な知識が理解できる。 ③公的統計をはじめとしたオープンデータから必要とするデータの収集ができる。 ④Excelや統計ソフトを用いて、データの分析および結果の解釈ができる。		
授業の概要	ビジネス現場で発生したデータを仮説検定、多変量解析を中心に、データ分析の基礎を学ぶ。統計ソフトウェアの操作方法や結果の解釈方法も学習する。 オープンデータから経済・経営の諸問題についての知見をまとめる。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	予習：事前に講義資料をTeamsにアップする。 内容を確認してください。 復習：課題を取り組み、講義内容に対する理解を深める。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	内容を復習するための小課題を課す。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（オンデマンド）	オリエンテーション	
第2回	遠隔（オンデマンド）	仮説検定①	
第3回	遠隔（オンデマンド）	仮説検定②	
第4回	遠隔（オンデマンド）	仮説検定③	
第5回	遠隔（オンデマンド）	仮説検定④	
第6回	遠隔（オンデマンド）	重回帰分析①	
第7回	遠隔（オンデマンド）	重回帰分析②	
第8回	遠隔（オンデマンド）	重回帰分析③	
第9回	遠隔（オンデマンド）	重回帰分析④	
第10回	遠隔（オンデマンド）	ピボットテーブルの使い方	

第11回	遠隔（オンデマンド）	オープンデータの使い方①
第12回	遠隔（オンデマンド）	オープンデータの使い方②
第13回	遠隔（オンデマンド）	自社データとオープンとの融合による問題解決の応用例の紹介
第14回	遠隔（オンデマンド）	まとめ
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	初回の講義は必ず出席すること。 「データサイエンスI」などこれまでの知識を復習しておくことが望ましい。 課題および発表を中心に成績を評価する。毎回の配布資料や動画の内容を十分に復習すること。	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス統計分析[ビジテク] 第3版	末吉 正成, 末吉 美喜	翔泳社	978-4798148984	
Excelでかんたん統計分析 — 「分析ツール」を使いこなそう!	近藤 宏, 末吉 正成, 村田 真樹, 淵上 美喜, 上田 太郎 (監修)	オーム社	978-4274066917	
成績評価の方法			割合 (%)	
授業中課題			30%	
試験			40%	
参加度			30%	
成績評価方法の備考				
参考URL				

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	a55102g610		
科目名	コンピュータネットワークⅠ <CO・a> 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	工藤 寛樹		
授業責任教員	工藤 寛樹		
配当回生	カリキュラムにより異なります。		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得</p> <p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>済① グローバルなレベルから地域に密着したレベルまでの経済・社会・自然・文化に関する幅広い知識を身につける</p> <p>済⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>済⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける ●</p> <p>営⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>営⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける</p>		
科目ナンバリング	EN-102,NU-112,PT-112,OT-112,EM-112,MT-122		

テーマ	インターネットでどのようにメールが配信されるのか、海外のウェブページがどのように閲覧できるのか、この授業では、インターネットの動作原理などの基本的な仕組みを講義する。そのために、まずインターネットの基礎となるTCP/IPプロトコル（通信手順）の基本を学び、物理レベルからアプリケーションレベルまでのネットワークの7階層を学習する。次に、インターネットサービス（DNS、メールサービス、Webサービス）やネットワークセキュリティの動作原理などの基礎概念を学習し、インターネットが社会でどのように活用されているかを学習する。		
授業の到達目標	<p>① TCP/IPプロトコルの基礎を理解する。物理レベルからアプリケーションレベルまでのネットワークの7階層を理解する。</p> <p>② インターネットサービス（DNS、メールサービス、Webサービス）の基礎概念を理解し、メールサービスやWebサービスをインターネット上でどのように実現されているのかを理解する。</p> <p>③ ネットワークセキュリティの基礎概念を理解し、インターネットを安全に利用できるようにするために必要な技術やその仕組みを正しく理解する。</p>		
授業の概要	インターネットの基礎となるTCP/IPプロトコルの基本を学ぶ。物理レベルにおける通信の基本を理解したうえで、ネットワークトポロジやデータの階層構造、パケット通信の概念、ベストエフォート、アドレス体系などの基本的な考え方を理解し、通信の手順やパケット構造、アドレスやポート番号、シーケンス番号等の各種の重要なパラメータやフラグの役割を理解する。IPv4やv6、DNS、DHCP、NAT等、データ転送に関するプロトコルやルーティングの基本的な仕組みを理解したうえで、インターネット通信やイントラネット通信の仕組みを理解する。代表的なアプリケーションのプロトコルを学び、その考え方や特徴を理解する。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定授業曜日を設定し、その前日までにオンライン授業で利用する資料のpdfをTeamsにアップするので、事前にその資料や資料に記載の教科書の該当ページを予習しておいてください。 ・ 毎週のオンライン授業で、その授業に関するレポート課題を提示するので、次週の授業の前々日までに、その課題に対する回答をTeamsの課題から提出してください。 ・ レポート課題の解答については、その次の週のオンライン授業の最初に解説しますので、各自提出した回答が正しかったかどうかを確認し、間違っていた場合は、前回の授業の該当する部分を視聴し直して、どの部分が理解できていなかったかを各自確認するようにしてください。 	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	授業中にその授業の内容などに関するレポート課題を出すので、教科書や講義資料などを参考に期限までにレポート（回答）を提出して下さい。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	反転学習／実習		

授業の起点となるツール	Microsoft Teams	
授業の計画	授業実施形態	授業内容
第1回	遠隔 (オンデマンド)	情報のデジタル化、コンピュータネットワークとは
第2回	遠隔 (オンデマンド)	デジタル通信を支える技術、携帯電話の仕組み
第3回	遠隔 (オンデマンド)	情報通信ネットワークの形態と基本設計
第4回	遠隔 (オンデマンド)	情報通信ネットワークの階層構造
第5回	遠隔 (オンデマンド)	物理層プロトコル、データリンク層プロトコル
第6回	遠隔 (オンデマンド)	ネットワーク層プロトコル(IP)、ルーティング
第7回	遠隔 (オンデマンド)	演習と小テスト
第8回	遠隔 (オンデマンド)	トランスポート層
第9回	遠隔 (オンデマンド)	アプリケーション層、インターネットサービス (DNS、メールサービス、Webサービス)
第10回	遠隔 (オンデマンド)	プライバシー、ELSI、ネットワークセキュリティ
第11回	遠隔 (オンデマンド)	マルチメディア通信、ネットワークの性能(QoS)、IP電話(VoIP)、モノのインターネット (IoT)
第12回	遠隔 (オンデマンド)	5G・ローカル5Gと近未来のネットワーク (データサイエンスの時代)
第13回	遠隔 (オンデマンド)	12回目までの授業のまとめ
第14回	遠隔 (オンデマンド)	小テスト
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	一部授業 (小テスト) を対面で実施する可能性があります。その場合、対面で行う授業の日時や教室などの情報をTeams等で事前にお知らせします。	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本からわかる情報通信ネットワーク講義ノート	大塚裕幸、小川猛志、金井敦、久保田周治、馬場健一、宮保憲治	オーム社	978-4-274-21835-4	

参考書

成績評価の方法	割合 (%)
小テスト	50%
レポート	50%
成績評価方法の備考	
参考URL	

授業の実施形態	【遠隔】ハイブリッド（対面回数半数未満）		
授業コード	a55102g750		
科目名	情報セキュリティⅠ <CO> 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	寺田 雅之		
授業責任教員	寺田 雅之		
配当回生	カリキュラムにより異なります。		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得</p> <p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成</p> <p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>済① グローバルなレベルから地域に密着したレベルまでの経済・社会・自然・文化に関する幅広い知識を身につける</p> <p>済⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>済⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける</p> <p>営⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力を身につける</p> <p>営⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度を身につける</p>		
科目ナンバリング	ICS221		

テーマ	情報セキュリティの代表的な技術、攻撃と防御の思考法、法律や制度、産業との関わりを理解する。		
授業の到達目標	<p>1) 暗号と認証の基本技術、それに対する攻撃と防御を理解する。</p> <p>2) 情報を産業や公共政策に活用する際のリスクとその対策を理解する。</p> <p>3) 技術の進歩と産業の発展における情報セキュリティの役割を理解する。</p> <p>4) 情報セキュリティ技術と法律、制度との補完関係、相互の影響を理解する。</p>		
授業の概要	<p>情報セキュリティは、情報を社会で活用するための必須の概念であり、ビッグデータの利用やIoT（Internet of Things）の広がりに伴って、その重要性はますます高まっている。本科目では、情報セキュリティの重要性を理解し、技術の概要を学ぶ。最初に、メールや自動運転等の身近な例を用いて、情報セキュリティの役割を理解する。また、情報リスクについて学び、リスクに対処するための法制度と技術の補完関係を理解する。その上で、技術の具体例として、情報セキュリティの基礎技術である暗号、認証、電子署名、およびネットワークセキュリティの概要を学ぶ。</p>		
教員の実務経験・授業内容	<p>授業担当者は、日本電信電話（株）および（株）NTTドコモにおいて、情報セキュリティ技術やプライバシー保護技術の研究開発に取り組み、その成果をIETFでの標準化や「モバイル空間統計」などの商用サービスに結びつけてきました。それらの経験に基づき、本科目で説明する技術がどのように実用化されるか、その実用化は社会にどのようなメリットをもたらすのかを説明し、技術の必要性を理解してもらいたいと思います。</p>		
準備学習（予習・復習）の内容	<p>時間割の時間にオンデマンド教材（動画）をアップしますので視聴してください。</p> <p>事後には、課題に取り組むとともに、質問があればTeamsで質問してください。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	授業中に内容について質問を出し、回答してもらいます。		
課題に対するフィードバック	TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	ガイダンス・情報セキュリティとは	
第2回	遠隔（オンデマンド）	情報セキュリティとCIA / 事例：パスワード管理における機密性と可用性	
第3回	遠隔（オンデマンド）	情報資産とリスク / 脅威とその事例	
第4回	遠隔（オンデマンド）	第1部（前半）のまとめと補足 / マルウェアとは	
第5回	遠隔（オンデマンド）	マルウェアの形態による分類と事例 / マルウェアの動作による分類と事例（その1）	
第6回	遠隔（オンデマンド）	マルウェアの動作による分類と事例（その2） / 第1部（後半）のまとめと補足	

第7回	遠隔（ライブ中継）	小テスト（第1部）
第8回	遠隔（オンデマンド）	小テスト（第1部）の答えと解説 / 暗号技術の概要
第9回	遠隔（オンデマンド）	共通鍵暗号 / 鍵交換プロトコル
第10回	遠隔（オンデマンド）	公開鍵暗号 / 第2部のまとめと補足
第11回	遠隔（ライブ中継）	小テスト（第2部）
第12回	遠隔（オンデマンド）	小テスト（第2部）の答えと解説 / AI とセキュリティ
第13回	遠隔（オンデマンド）	全体のまとめ
第14回	遠隔（ライブ中継）	試験
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	第1回授業・小テスト・試験は対面またはオンラインで（時間割の時間に）実施し、それ以外の回はオンデマンドの予定です。授業スケジュールや実施の形態は変更となる可能性があります。	
教科書		

参考書		
	成績評価の方法	割合（％）
	小テスト	30%
	授業中課題	20%
	試験	50%
成績評価方法の備考	欠席回数が7回以上の場合、試験や小テスト、授業中課題の点数がよくても単位を出さない場合があります。	
参考URL		

授業の実施形態	【遠隔】ハイブリッド（対面回数半数未満）		
授業コード	a60101a310		
科目名	情報とビジネス 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	杉浦 昌		
授業責任教員	杉浦 昌		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教②ひろく世界に目を向け、他者の価値観や世界のあり方を尊重しつつ、相互に理解しながら協力して物事に取り組む能力</p> <p>情①情報技術を社会のなかで活かす際に必要となる文系・理系の枠を超えた幅広い教養</p> <p>情⑧技術の革新に対して常に意識を向け、新しい情報技術を学び続けようとする意欲、態度</p> <p>情⑨社会が直面する諸課題に関心を持ち、情報技術を応用してその解決に取り組もうとする意欲、態度</p>		
科目ナンバリング	ICS111		

テーマ	情報通信技術とビジネスとのかかわりを理解する。		
授業の到達目標	情報技術の高度化が、さまざまな産業のビジネスを大きく発展させていることを学ぶ。また、ビジネスの発展が逆に情報技術の新たな高度化を促し、それによって情報技術にまつわる活動自体も大きな産業として成り立っていることを理解する。さらに、情報技術によってこれまで存在しなかった新たな価値が創造され、それがまた新たなビジネスを生みだしていることを、具体的な事例を交えて学ぶ。		
授業の概要	情報技術は、その発展により高度化するだけでなく、それが活用される分野を拡大させてきた。情報技術はかつてのように情報通信という特定の産業にのみ関連するものではなく、旧来の製造業からサービス産業にまで深く浸透し、eコマースやIoTなどといった言葉に象徴されるような、あらゆる領域を含む巨大な情報ビジネスを生み出しているとも言える。本科目では、情報ビジネスを以上のように広義のものとして捉えて、包括的に議論することで、情報を活用したビジネスのあり方について理解するとともに、情報技術をビジネスに融合的に応用するための必要な知識を身につける。		
教員の実務経験・授業内容	IT企業の情報システム部門や装置・システム設計開発部門、SI・コンサルティングビジネス部門での実務経験、政府系団体での実務経験のある教員が、テキストやスライド、配布資料、種々の公開資料、レポート、論文等を用いて授業をおこなう。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、振り返り学習やレポート提出、複数回の理解度テストを実施する場合がある。		
準備学習（予習・復習）の内容	テキストの予習、復習と授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	授業内容の区切りごとにレポート課題を課す。期限内に提出すること。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	ガイダンスとイントロダクション	
第2回	遠隔（オンデマンド）	情報通信産業の状況と経済効果	
第3回	遠隔（オンデマンド）	インターネット等の情報通信サービスの動向	
第4回	遠隔（オンデマンド）	国の政策と規制、基準、国際標準	
第5回	遠隔（オンデマンド）	振り返り学習 ビジネス事例にもとづく学習（1）金融	
第6回	対面	ビジネス事例にもとづく学習（2）医療	
第7回	遠隔（オンデマンド）	ビジネス事例にもとづく学習（3）製造、自動車	
第8回	遠隔（オンデマンド）	ビジネス事例にもとづく学習（4）IT	
第9回	遠隔（オンデマンド）	ビジネス事例にもとづく学習（5）エネルギー	
第10回	対面	振り返り学習 ビジネス事例にもとづく学習（6）社会インフラ、IoT	

第11回	遠隔（オンデマンド）	ビジネス事例にもとづく学習（7）流通
第12回	遠隔（オンデマンド）	ビジネス事例にもとづく学習（8）小売り
第13回	遠隔（オンデマンド）	ビジネス事例にもとづく学習（9）農業
第14回	対面	ビジネス事例にもとづく学習（10）教育、総括
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	<p>テキストの分量が多いので、普段から継続してこつこつと勉強しないと理解は難しい。地道に頑張ること。レポートやミニ課題を出すので、指定された期日までに提出すること。</p> <p>授業は講義スライド動画配信型の遠隔授業で実施する。授業で用いる資料（pdfファイル等）をTeamsあるいはユニバで配布するので、それらをプリントアウトし、マーカーペンや赤ボールペンなどでメモを記入しながら学ぶ。</p> <p>なお、情報ビジネスの最新動向や社会状況の変化を勘案し、各回のテーマの順序等を変更することがある。</p> <p>第一回と第十四回は対面授業を行う。それ以外はTeramsによるオンデマンド授業であるが、途中1～2回の対面授業を行い、その際に小テストを行う。実施日は授業内で最終調整する。</p> <p>（やむを得ない事情で対面授業に参加出来ない可能性のある人は事前に教員に相談すること。）</p>	
教科書		

参考書	
成績評価の方法	割合（％）
レポート	60%
授業中課題	40%
成績評価方法の備考	学習の状況や新型コロナウイルスの感染状況などを考慮して、評価割合の変更や追加の課題レポートの出題を行う場合がある。
参考URL	

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a60101a410		
科目名	基礎情報数学 < a >	単位数	2単位
担当者	片岡 裕介		
授業責任教員	片岡 裕介		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教①物事を多角的な視点から客観的に理解するとともに、論理的・批判的に思考したうえで、自分自身で判断して主体的に行動することのできる能力</p> <p>情②情報工学を学ぶうえで不可欠となる数理および自然科学の基礎知識</p> <p>情⑤現実世界のさまざまな事象を抽象化して捉え、モデルを構築して分析する能力</p>		
科目ナンバリング	ICS111		

テーマ	コンピュータサイエンスのための数学理論の基本		
授業の到達目標	<p>①情報数学における基本的な演算ができる。</p> <p>②コンピュータの動作原理や仕組みを知る上で必要となる、集合、写像、関係の概念について説明することができる。</p> <p>③グラフ理論や数学的帰納法の知識を通して、コンピュータの処理手続きとしてのアルゴリズムに対する理解を深める。</p>		
授業の概要	<p>本科目では、連続的な事象を離散的に扱うというコンピュータの性質をふまえ、コンピュータサイエンスを学ぶうえで必要となる数学理論を学ぶ。主に、情報量の表現、集合と論理、離散関係、グラフ理論の項目を通して、本科目の受講後に配置されている他の科目の理論的背景を理解するための基本的事項を身につける。論理の応用事例として、顔認識システムや迷惑メールフィルタリングで用いられるパターン認識の例、そして購買履歴にもとづいた推薦システムのなかでも最も基本的な技術である協調フィルタリングの例など、情報数学を基礎とした社会に広く浸透している技術に関する話題を交えつつ、数学的なものの考え方や問題解決へのアプローチを学ぶ。</p>		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<p>【事前学習】 配付資料について確認しておく。</p> <p>【事後学習】 授業内容の復習をおこなうとともに、授業中に扱った演習問題を解き直しておく。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	授業中に指示する演習問題を中心とした課題に取り組む。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	数学的準備	
第2回	対面	数の表現	
第3回	対面	集合	
第4回	対面	写像	
第5回	対面	命題	
第6回	対面	論理	
第7回	対面	関係	
第8回	対面	代数系	
第9回	対面	ブール代数	
第10回	対面	帰納法	

第11回	対面	グラフ理論
第12回	対面	木と根付き木
第13回	対面	有限オートマトンと形式言語
第14回	対面	まとめ
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
例題と演習でわかる離散数学	加納幹雄	森北出版	978-4627061514	

参考書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報基礎数学	佐藤泰介・高橋篤司・伊東利哉・上野修一	オーム社	978-4274216107	
はじめての離散数学	小倉久和	近代科学社	978-4764910546	
基礎 情報数学	横森貴・小林聡	サイエンス社	978-4781912073	
イラストで学ぶ離散数学	伊藤大雄	講談社	978-4065170014	

成績評価の方法

割合 (%)

小テスト	60%
授業中課題	30%
参加度	10%
成績評価方法の備考	
参考URL	

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	a60101a610		
科目名	計算機科学基礎 【遠隔】	単位数	2単位
担当者	中村 嘉隆		
授業責任教員	中村 嘉隆		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教①物事を多角的な視点から客観的に理解するとともに、論理的・批判的に思考したうえで、自分自身で判断して主体的に行動することのできる能力</p> <p>情③コンピュータ・アーキテクチャ、プログラミング言語、情報ネットワーク等の情報工学の各領域における専門的な知識</p> <p>情⑥所与の問題の解決手順を定式化して表現し、具体的なソフトウェアとして構築することのできる実践的なプログラミング能力</p>		
科目ナンバリング	ICS111		

テーマ	コンピュータは論理回路を基本として、それらを組み合わせた大規模なハードウェアである。この講義では基本となるデータ表現および論理回路の基本的な性質をまなぶとともに、それらを組み合わせてコンピュータを構成するまでの各段階について順を追って学ぶ。		
授業の到達目標	<p>①アセンブリ言語の仕組みを理解している</p> <p>②計算機の基本構成とその動作の仕組みを理解している</p> <p>③計算機への命令をアセンブリ言語で記述できる</p>		
授業の概要	<p>計算機を使う立場から計算機的基本的な仕組みや機械語の概念の理解を深めるとともに、アセンブリ言語レベルのプログラミングの基本的な手法やアセンブラなどの基本事項について習得することをめざす。「コンピュータシステム概論」で学んだ演算装置、制御装置、記憶装置、入力装置、出力装置の役割と、その上で動作するアセンブリ言語レベルのプログラムの関係を理解し、オペレーティング・システム（OS）の役割などの理解を深める。さらに、アセンブリ言語でのプログラミングを実際に確認することで、より理解を深める。これらの学習を通してコンピュータの基本的な動作概念を理解することをめざす。</p>		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<p>【事前学習】 配付資料について確認しておく。</p> <p>【事後学習】 授業中に提示した課題に解答するとともに、授業内容の復習をおこなう。</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（オンデマンド）	イントロダクション	
第2回	遠隔（オンデマンド）	計算機内部データ表現	
第3回	遠隔（オンデマンド）	加減算・論理演算・シフト	
第4回	遠隔（オンデマンド）	算術論理演算回路	
第5回	遠隔（オンデマンド）	計算機の構成と動作原理	
第6回	遠隔（オンデマンド）	前半のまとめおよび理解度確認	
第7回	遠隔（オンデマンド）	機械語命令	
第8回	遠隔（オンデマンド）	基本命令（加減乗除演算、ロード・ストア）	
第9回	遠隔（オンデマンド）	基本命令（算術論理演算、分岐）	

第10回	遠隔 (オンデマンド)	機械語の実行
第11回	遠隔 (オンデマンド)	割り込み
第12回	遠隔 (オンデマンド)	メモリ
第13回	遠隔 (オンデマンド)	プロセッサとネットワーク
第14回	遠隔 (オンデマンド)	まとめ
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点		
教科書		

参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【第6版】コンピュータの構成と設計 ハードウェアとソフトウェアのインタフェース 上	パターソン/著 ヘネシー/著 成田光彰/訳	日経B Pマーケティング	4300	9784296070091	冊子版
【第6版】コンピュータの構成と設計 ハードウェアとソフトウェアのインタフェース 下	パターソン/著 ヘネシー/著 成田光彰/訳	日経B Pマーケティング	4300	9784296070107	冊子版
コンピュータシステム入門	都倉 信樹	岩波書店	3400	9784000053839	冊子版
成績評価の方法			割合 (%)		
小テスト			70%		
授業中課題			30%		
成績評価方法の備考					
参考URL					

授業の実施形態	【遠隔】フルオンデマンド		
授業コード	a70101ak10		
科目名	疫学保健統計 < a > 【遠隔】	単位数	1単位
担当者	黒瀧 安紀子、外部専門講師		
授業責任教員	黒瀧 安紀子		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教①物事を多角的な視点から客観的に理解するとともに、論理的・批判的に思考したうえで、自分自身で判断して主体的に行動することのできる能力</p> <p>教②ひろく世界に目を向け、他者の価値観や世界のあり方を尊重しつつ、相互に理解しながら協力して物事に取り組む能力</p> <p>看①創造的な発想、多角的な視点を持ち、新しい看護を生み出し社会に発信できる力を身につけている。</p> <p>看②あらゆる環境において、歴史的・社会的・文化的に多様な背景を持った、生活を営む人々について考えられる力を身につけている。</p> <p>看④自然との関係の中で人ととらえ、生命機能のメカニズムや生命の尊さを考えることができる力を身につけている。</p>		
科目ナンバリング	NU-152		

テーマ			
授業の到達目標	一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。保健統計調査の基礎的な知識、活用できる能力を身に付ける。		
授業の概要	社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められており、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、効果的に情報を活用する方法を学習する。また、これらを踏まえて、地域保健・看護活動に役立つ保健統計調査の知識と方法を学習する。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	テキストを用いて次回授業の内容について予習を行うとともに、授業後は、授業内で教示した内容について復習を行うこと。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。		
アクティブラーニング実施の方法			
授業の起点となるツール	ポータルサイト		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	遠隔（オンデマンド）	情報活用力とは	
第2回	遠隔（オンデマンド）	ICT 利活用力診断テストRasti試験	
第3回	遠隔（オンデマンド）	情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。	
第4回	遠隔（オンデマンド）	情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。	
第5回	遠隔（オンデマンド）	数値分析Ⅰ：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。	
第6回	遠隔（オンデマンド）	数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。	
第7回	遠隔（オンデマンド）	数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。	
第8回	遠隔（オンデマンド）	ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う。（ファイル容量とメディア、ファイル形式）	
第9回	遠隔（オンデマンド）	保健統計学の基礎を理解する。（人口統計の基礎：主な健康指標）	
第10回	遠隔（オンデマンド）	保健統計学の基礎を理解する。（人口静態統計：日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口）	

第11回	遠隔（オンデマンド）	保健統計学の基礎を理解する。 （人口動態統計：死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚）
第12回	遠隔（オンデマンド）	保健統計学の基礎を理解する。（保健統計調査：業務統計、調査統計）
第13回	遠隔（オンデマンド）	保健統計学の基礎を理解する。 （指定統計：国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計）
第14回	遠隔（オンデマンド）	保健統計学の基礎を理解する。 （その他の統計調査：感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者（児）実態調査）
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	前期にて使用した「イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Office2021対応」も使用します。	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス		noa出版	978-4908434761	

参考書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
これだけは知っておきたい データサイエンスの基本がわかる本	鈴木孝弘	オーム社	978-4274221941	2018年

成績評価の方法

割合（％）

小テスト	40%
授業中課題	60%
成績評価方法の備考	・ 授業回数14回のうち3分の2以上の提出（出席とみなす）が必要。未提出が5回以上の場合は、原則、単位認定は不可。
参考URL	

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	azam11d312		
科目名	統計学基礎論 <健>	単位数	2単位
担当者	浦山 郁		
授業責任教員	浦山 郁		
配当回生	1年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教①物事を多角的な視点から客観的に理解するとともに、論理的・批判的に思考したうえで、自分自身で判断して主体的に行動することのできる能力 理①主体的に学習する姿勢と幅広く豊かな教養を身につける。		
科目ナンバリング	NU-151		

テーマ			
授業の到達目標	統計学の概念と方法を理解し、看護、地域保健に役立てる基礎的な知識を習得する。		
授業の概要	看護、地域保健に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。		
教員の実務経験・授業内容	統計学の基礎知識や基本的な統計手法について講義を行う。 またそのうえで、より実践的なデータ分析を体験してもらうため、統計分析の実習も行う。		
準備学習（予習・復習）の内容	授業中に実施した課題は必ず復習しましょう。また、講義中課題が時間内に終わらなかった場合、講義時間外で取り組んでもらいます。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。		
アクティブラーニング実施の方法	実習/ICTを活用した双方向型授業		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）/Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	ガイダンス	
第2回	対面	調査方法とデータの種類	
第3回	対面	度数分布表とヒストグラム	
第4回	対面	基本統計量：代表値	
第5回	対面	基本統計量：ちらばり	
第6回	対面	確率分布（二項分布）	
第7回	対面	確率分布（正規分布）	
第8回	対面	グラフ化と分割表	
第9回	対面	散布図と相関係数	
第10回	対面	散布図と相関係数	
第11回	対面	回帰分析（分散分析表）	
第12回	対面	分割表の分析（オッズ比、連関係数）	
第13回	対面	分割表の検定（カイ2乗検定）	
第14回	対面	偏差値。まとめ。	
第15回	この授業に第15回の授業はありません		

履修上の注意点	<p>* 講義では、実際に統計分析をご自身で行ってもらう回があります。毎回ではありませんが、事前に指示する講義回についてはご自身のノートPC（インターネット接続が可能で、Excel・WordおよびTeamsがインストールされているもの。インストールについては、本学HP《https://cai6.tachibana-u.ac.jp/media/service/microsoft365apps》を参照ください。）を必ず持参するようにしてください。持参しなかった場合は各講義課題やレポートに取り組むことができません。</p> <p>* 授業中課題は3分の2以上の回で提出する必要があります。これを下回る場合、単位を認定できない場合があります。</p> <p>* レポートを提出しない場合、レポート点はあります（やむを得ない理由でない限り、代替手段での評価は行いません）。</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
講義中に指示します				

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
看護系学生のためのやさしい統計学	石村貞夫・今福恵子・田沼美杉	共立出版		
よくわかる統計学Ⅰ基礎編	金子治平・上藤一郎編	ミネルヴァ書房		
基本からわかる看護統計学入門	大木秀一	医歯薬出版株式会社		
マンガでわかるナースの統計学	田久浩志・小島隆矢	オーム社		
成績評価の方法		割合（％）		
授業中課題		40%		
レポート		60%		
成績評価方法の備考	<p>* 講義中に行う課題40%、授業中に実施する小レポート2回60%（30点×2回の予定。配点は変更の場合あり）の結果で判断いたします。</p> <p>* 履修や開講状況により、やむを得ず、成績評価方法に変更を行う場合は、口頭・Teams上で周知いたします。</p>			
参考URL				

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a90103a110		
科目名	理学療法研究法Ⅰ < * a >	単位数	1単位
担当者	村田 伸		
授業責任教員	村田 伸		
配当回生	3年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員	15		
クラス指定			
教育目標	教③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 教④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成 理⑤ 常に探求心を持ち、表出した問題や課題を解決できる方法を身につける。		
科目ナンバリング	MT-212		

テーマ	理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ		
授業の到達目標	①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。		
授業の概要	研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。		
教員の実務経験・授業内容	実務経験（臨床経験）を生かした研究指導を行う。特に、理学療法研究における臨床視点の重要性について教授する。		
準備学習（予習・復習）の内容	自分の研究テーマに即した先行研究を積極的に読み込み、研究デザインや統計手法を自分の研究に活かせるように参考にすることが望ましい。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容	具体的に各回の課題を記載する		
課題に対するフィードバック	その他（「履修上の注意点」に具体的に記述する）		
アクティブラーニング実施の方法	ディスカッション／グループワーク		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	理学療法分野における研究について学ぶ	
第2回	対面	研究課題と見つけ方について学ぶ	
第3回	対面	研究計画の立て方について学ぶ	
第4回	対面	研究デザインの種類について学ぶ	
第5回	対面	評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）	
第6回	対面	研究倫理について学ぶ	
第7回	対面	文献の収集方法と読解方法について学ぶ	
第8回	対面	研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ	
第9回	対面	研究の進め方2（介入研究）について学ぶ	
第10回	対面	研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ	
第11回	対面	研究の進め方4（質的研究）について学ぶ	
第12回	対面	統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ	
第13回	対面	統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ	
第14回	対面	研究成果の公表方法について学ぶ。プレゼンテーション方法について学ぶ。なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。	

第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点		
教科書		

参考書		
成績評価の方法	割合 (%)	
授業中課題		20%
授業中発表等		30%
参加度		50%
成績評価方法の備考	3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。	
参考URL		

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a90353a310		
科目名	作業療法研究法演習Ⅰ < * >	単位数	1単位
担当者	菅沼 一平、佐川 佳南枝		
授業責任教員	菅沼 一平		
配当回生	3年		
講義期間	2025年度前期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成 教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成 教⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の養成 作⑤ 疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能を身につける		
科目ナンバリング	EN-201,NU-213,PT-211,OT-211,EM-211,MT-221		

テーマ	疑問をみつけ、それを科学的に検証しようとする態度を身につける。		
授業の到達目標	1. 受講生は、興味のある研究論文を読み、批判的吟味を加えた要約を発表できる。 2. 受講生は、実践可能な卒業研究論文のテーマを複数あげることができる。		
授業の概要	作業療法という専門技術の研究・発展に必要な研究法を演習形式で学習する。演習Ⅰでは、科学論文および科学的な研究法について学習する。そのうえで作業療法あるいは保健医療福祉領域の学術雑誌から、学習者自身が興味をもった研究論文を選び、これを要約し批判的吟味を交えて発表し質疑応答を行う機会をもつ。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	授業時に適時予習、復習する内容は指示します。	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり1時間程度（例：「1単位、14回」「2単位、27回」等）
課題の内容	研究論文を1つ選び要旨と批判的吟味を加え10分程度で発表する。		
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。／TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。／TeamsやUNIPA等で学生個人ごとにコメントを返す。		
アクティブラーニング実施の方法	ディスカッション／プレゼンテーション		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	なぜ研究をするのか。論文とレポートの違い、研究論文の構成、研究論文の読み方(批判的吟味)、学術誌、文献検索について（菅沼）	
第2回	対面	量的研究と質的研究、調査、実践報告、事例研究、研究倫理について（佐川）	
第3回	対面	・研究のエビデンス：統計の考え方、ランダムサンプリング（無作為抽出）、有意差検定、p値とは、サンプリングの適切さ、盲検化、ランダム化比較研究、研究デザインのレベル分類（エビデンスレベル）。 ・研究の種類：量的研究、質的研究、コホート研究、縦断研究（前向き研究、後ろ向き研究）、横断研究（佐川）	
第4回	対面	量的研究1：母集団、実験群と対照群について（菅沼）	
第5回	対面	量的研究2：変数の尺度、独立変数と従属変数、統計処理（パラ・ノンパラメトリック検定）（菅沼）	
第6回	対面	質的研究：エスノグラフィー、MGTA、KJ法、ライフストーリー、アクションリサーチ等について（佐川）	
第7回	対面	・研究計画を書く：研究活動の流れ、研究デザイン、研究倫理、 ・論文を書く：文献レビュー、文献検索、引用の仕方、共同研究、研究助成（科研費等）（佐川）	
第8回	対面	疫学研究（回帰分析）・介入研究（単変量解析）・論文の読み方	

第9回	対面	研究論文を選んで要約し,批判的吟味を交えて発表する(準備1)(菅沼,佐川)
第10回	対面	研究論文を選んで要約し,批判的吟味を交えて発表する(準備2)(菅沼,佐川)
第11回	対面	研究論文を選んで要約し,批判的吟味を交えて発表する(発表1)(菅沼,佐川)
第12回	対面	研究論文を選んで要約し,批判的吟味を交えて発表する(発表2)(菅沼,佐川)
第13回	対面	・生データ表の作り方 ・論文図表の書き方(生データ表から平均値・中央値をエクセルにて算出し表にする)(菅沼)
第14回	対面	論文図表の書き方(エクセルで単変量解析を行い表にする)(菅沼)
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	卒業論文に不可欠な知識・技術です。10回以上の参加がないと成績評価の対象となりません。	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリント配布				

参考書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
作業療法士のための研究法入門	鎌倉矩子, 宮前珠子, 清水一	三輪書店	978-4-89590-068-3	
標準作業療法学 作業療法研究法 第2版	山田孝	医学書院	4-260-26712-4	
成績評価の方法		割合(%)		
授業中発表等		100%		
成績評価方法の備考				
参考URL				

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a90403e350		
科目名	救急救命研究法 < * a >	単位数	2単位
担当者	大和田 均		
授業責任教員	大和田 均		
配当回生	3年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	<p>教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成</p> <p>教⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成</p> <p>教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成</p> <p>教⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の養成</p> <p>救① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能を身につける。</p> <p>救② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップを身につける。</p> <p>救③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力を身につける。</p> <p>救④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心を身につける。</p>		
科目ナンバリング	EM362		

テーマ	学生個々の研究能力を確立する。		
授業の到達目標	個々の研究テーマについて自主的な研究活動を行う。その過程において、専門領域の知識を得るのみならず、論文の読解能力、統計解析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを育成する。		
授業の概要	研究指導教員による少人数の演習形式により、救急救命学に関する研究能力を身につける。研究方法やデータ処理法などとともに、実際の論文の作成までのプロセスと方法について学習する。学生各々の興味や課題意識をもとに4年次の卒業研究に向けて、その足がかりとなる実施計画案を策定する。研究の目的と意義づけ、先行研究のレビュー、その課題を明らかにする方法(対象、手順、倫理的配慮)等、研究を進めるため研究計画を立案する。		
教員の実務経験・授業内容			
準備学習（予習・復習）の内容	<p>先行文献の収集</p> <p>研究計画書の作成</p> <p>科目担当教員との研究相談（2025年3月の履修登録期間までに実施しておくこと）</p>	準備学習（予習・復習）に要する時間	1授業回あたり4時間半程度（例：「1単位、7回」「2単位、14回」等）
課題の内容			
課題に対するフィードバック	次回授業において履修者全体に対して、口頭もしくはプリント等の配布により講評する。／TeamsやUNIPA等で履修者全体に講評を配信する。／TeamsやUNIPA等で学生個人ごとにコメントを返す。		
アクティブラーニング実施の方法	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク		
授業の起点となるツール	教室（対面授業）／Microsoft Teams		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	研究概論	
第2回	対面	研究計画の確認 データ収集(データ入力と統計処理)	
第3回	対面	データ収集(データ入力と統計処理)	
第4回	対面	データ収集(データ入力と統計処理)	
第5回	対面	結果の分析・考察	
第6回	対面	抄読会(英語抄録含)	
第7回	対面	抄読会(英語抄録含)	
第8回	対面	学会発表方法(抄録記載方法)	
第9回	対面	学会発表方法(スライド作成方法)	

第10回	対面	抄録・論文の骨子の作成
第11回	対面	抄録・論文の骨子の作成
第12回	対面	論文の執筆
第13回	対面	論文の執筆と修正
第14回	対面	報告と討論
第15回	この授業に第15回の授業はありません	
履修上の注意点	個人のPCを毎回必ず携行する（救急救命学科で指定するWindowsスペック）。	
教科書		

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本臨床救急医学会雑誌		へるす出版		
みんなの医療統計	新谷 歩	講談社	9784061563148	
救急救命士ジャーナル	日本救急救命学会準機関誌	へるす出版		
成績評価の方法			割合（％）	
授業中発表等			30%	
参加度			20%	
授業中課題			30%	
レポート			20%	
成績評価方法の備考	論文作成の方法、学会発表の際の抄録、スライド作成を考慮する。			
参考URL	日本救急医学会 https://www.jaam.jp/ 日本臨床救急医学会 https://jsem.me/ 日本災害医学会 https://jadm.or.jp/ 日本救急救命学会 https://www.jsels.jp/			

授業の実施形態	【対面】フル対面		
授業コード	a90502c250		
科目名	医療情報システム学	単位数	2単位
担当者	杉村 宗典、井口 健		
授業責任教員	杉村 宗典		
配当回生	2年		
講義期間	2025年度後期		
履修条件			
定員			
クラス指定			
教育目標	教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 臨① 臨床検査技師に必要な専門的な知識および技術を身につける		
科目ナンバリング	MT-231		

テーマ	医療情報リテラシーを体系的に学ぶ。 病院・診療所等の医療施設または地域医療で稼働している様々な医療情報システムを網羅的に学ぶ。 医療で活用されるAI(人工知能)の概要を学ぶ。		
授業の到達目標	①医療情報に関わるリテラシーを説明できる。 ②病院情報システム(HIS)、電子カルテの概要を説明できる。 ③医事会計システムの概要を説明できる。 ④臨床検査情報システム(LIS)、医療用画像管理システム(PACS)、院内物流等の部門システムの概要を説明できる。 ⑤地域連携情報システムの概要を説明できる。 ⑥患者安全リスクマネジメント(個人情報保護、医療情報セキュリティほか)の概要を説明できる。 ⑦医療情報システム関連する標準規格、ガイドラインの概要を説明できる。 ⑧医療で活用されるAI(人工知能)の概要を説明できる。		
授業の概要	医療情報システム学では情報のリテラシーとして情報科学の概念と情報収集・処理、ハードウェア・ソフトウェア、コンピュータネットワークの基盤、情報セキュリティなどを修得するとともに、病院情報システム(HIS)に帰属するオーダーリングシステム、電子カルテシステム、医事会計システム、臨床検査情報システム(LIS)、検査画像のPACSやDICOM、物流システム、医療情報セキュリティ、医療情報倫理と医療情報危機管理などを体系的に学ぶことで医療情報科学の理論と実際を習得する。		
教員の実務経験・授業内容	担当教員(杉村)は医療施設にて臨床検査技師・臨床工学技士として勤務し、現在はITを活用した生体シミュレーション研究等を行っている。これらの実務経験に基づき、医療情報リテラシーおよび医療情報システム学、医療AIとAIを用いた画像認識について概説する。 また、外部講師(井口)は長年、大学病院に勤務しており、十分な臨床経験を有する。これら経験に基づき、医療情報システムの詳細を概説する。		
準備学習(予習・復習)の内容	配布資料、教科書により予習をすること。また、配布資料、教科書、授業内容を復習し、内容の整理・確認をすること。	準備学習(予習・復習)に要する時間	1授業回あたり4時間半程度(例:「1単位、7回」「2単位、14回」等)
課題の内容	授業内で内容に即した確認問題を提示し、学生はそれらに回答する。		
課題に対するフィードバック	その他(「履修上の注意点」に具体的に記述する)		
アクティブラーニング実施の方法	ディスカッション		
授業の起点となるツール	教室(対面授業)		
授業の計画	授業実施形態	授業内容	
第1回	対面	医療情報リテラシー① 情報理論の基礎【担当:杉村】	
第2回	対面	医療情報リテラシー② AD変換と論理演算【担当:杉村】	
第3回	対面	医療情報リテラシー③ ハードウェアとソフトウェア【担当:杉村】	
第4回	対面	医療情報リテラシー④ コンピュータネットワーク【担当:杉村】	
第5回	対面	医療情報リテラシー⑤ 情報セキュリティ【担当:杉村】	
第6回	対面	病院情報システム オーダーリングシステムと電子カルテ【担当:杉村】	

第7回	対面	管理部門システム_医事会計システム【担当:杉村】
第8回	対面	検査部門システム_臨床検査情報システム【担当:杉村】
第9回	対面	物流システムと患者安全リスクマネジメント【担当:杉村】
第10回	対面	医療AIの実態とAIを用いた検査法【担当:杉村】
第11回	対面	医療機関で使用される医療情報システム①【担当:井口】
第12回	対面	医療機関で使用される医療情報システム②【担当:井口】
第13回	対面	臨床検査分野における医療情報システム【担当:井口】
第14回	対面	臨床検査技師に必要な医療情報システム知識・用語と関わる資格制度【担当:井口】
第15回	この授業に第15回の授業はありません	

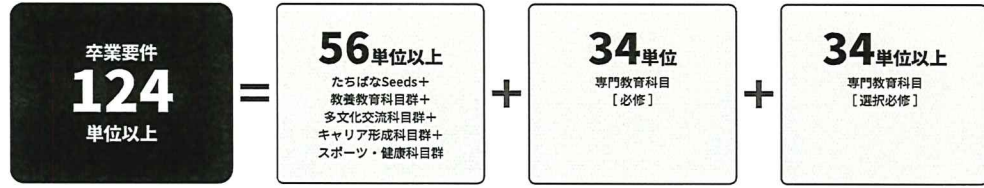
履修上の注意点	<p>医療分野における情報システム化は凄まじい勢いで進歩を遂げている。臨床検査においてシステムは必要不可欠である。この授業で取り上げる医療情報システムは、現代の医療現場に必須の基本的な知識であり、習得していることが望ましいため、各々の教科書を精読し、内容を理解しておく。</p> <p>また、AI(人工知能)に関する教科書は設定していないが、配布資料を活用して理解を深める。</p> <p>本授業は2/3以上の出席が無い場合は評価対象としない。</p> <p>授業では、重要なトピックに関する確認問題を提示し、学生はそれらに回答する。確認問題の解説も授業内容に盛り込むことで、各自が理解を深める。</p> <p>授業中の途中入場および途中退場は認めない。ただし、担当教員が許可した場合はこの限りでは無い。</p> <p>本シラバスに掲載した参考書はすべて本学図書館に蔵書されている。ぜひ、有効に図書館を活用し修学の一助にして欲しい。</p>	
---------	--	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療情報システム入門2023	一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会(JAHIS)(編集)	社会保険研究所	9784789428705	
最新臨床検査学講座 情報科学	松戸隆之(著)	医歯薬出版	9784263223574	

参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療情報 第6版 医療情報システム編	日本医療情報学会医療情報技師育成部会(編集)	篠原出版新社	9784867058015	
医療情報 第6版 情報処理技術編	日本医療情報学会医療情報技師育成部会(編集)	篠原出版新社	9784884122966	
医療情報 第6版 医学・医療編	日本医療情報学会医療情報技師育成部会(編集)	篠原出版新社	9784884122904	
医療情報サブノート 第4版	日本医療情報学会医療情報技師育成部会(編集)	篠原出版新社	9784884123987	
医療情報技師能力検定試験過去問題・解説集2020	日本医療情報学会医療情報技師育成部会(編集)	南江堂	9784524227341	
ディープラーニングG検定公式テキスト	浅川 伸一(著)ほか	翔泳社	9784798157559	
医療AI入門	山下 康行(著)	金原出版	9784307004855	

成績評価の方法	割合(%)
試験	80%
参加度	20%
成績評価方法の備考	
参考URL	

2025年度生用 文学部 日本語日本文学科 書道コース カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修 [10単位]

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
たちばなBasis I	2 1~	● 外国語科目	
たちばなBasis II	2 1~	英語 I A	1 1~
ITリテラシー	1 1~	英語 I B	1 1~
データサイエンス基礎	1 1~	英語 II A	1 1~
		英語 II B	1 1~

選択必修 [46単位以上]

教養教育科目群の「人間を理解する」「社会を生きる」「自然科学にふれる」からそれぞれ4単位以上

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
シンキングスキル	2 1~	● 外国語科目	
プレゼンテーションスキル	2 1~	英語 III A	1 1~
ライティング基礎	2 1~	英語 III B	1 1~
データサイエンス応用	2 2~	英語 IV A	1 1~
		英語 IV B	1 1~
		中国語入門 I	2 1~
		中国語入門 II	2 1~
		中国語会話 I	2 1~
		中国語会話 II	2 1~
		韓国語入門 I	2 1~
		韓国語入門 II	2 1~
		韓国語会話 I	2 1~
		韓国語会話 II	2 1~
		フランス語入門 I	2 1~
		フランス語入門 II	2 1~
		ドイツ語入門 I	2 1~
		ドイツ語入門 II	2 1~
		※日本語 I	2 1~
		※日本語 II	2 1~
		※日本語 III	2 2~
		※日本語 IV	2 2~
		● 多文化交流実践科目	
		異文化交流演習 I	2 2~
		異文化交流演習 II	2 3~
		外国語現地演習 I	2 1~
		外国語現地演習 II	2 1~
		多文化協働ワークショップ I	2 1~
		多文化協働ワークショップ II	2 2~
		※日本語 I	2 1~
		※日本語 II	2 1~
		※日本語 III	2 2~
		※日本語 IV	2 2~
		● 書道領域	
		書道領域	2 1~
		篆刻 I	2 1~
		篆刻 II	2 1~
		書刺・鑑賞 I	2 2~
		書刺・鑑賞 II	2 2~
		中国書道史	2 2~
		日本書道史	2 2~
		書論特講 a	2 3~
		書論特講 b	2 3~
		書論特講 c	2 3~
		書論特講 d	2 3~
		現代書研究 I	2 3~
		現代書研究 II	2 3~
		中学書写 I	1 1~
		中学書写 II	1 1~
		● 日本語領域	
		日本語領域	2 2~
		日本語講義 I (日本語文法)	2 2~
		日本語講義 II (日本語文法)	2 2~
		日本語講義 III (社会言語学)	2 2~
		日本語講義 IV (日本語史)	2 2~
		日本語教授法 I	2 1~
		日本語教授法 II	2 2~
		日本語教授法 III	2 2~
		日本語教授法 IV	2 2~
		日本語教授法 V	2 3~
		日本語教授法 VI	2 3~
		日本語教材研究	2 4
		日本語教育実習	2 4
		アナウンス技術演習 I	2 2~
		アナウンス技術演習 II	2 2~
		● 日本文化領域	
		古典文学講義 I (平安)	2 2~
		古典文学講義 II (平安)	2 2~
		古典文学講義 III (中近世)	2 2~
		古典文学講義 IV (中近世)	2 2~
		近現代文学講義 I	2 2~
		近現代文学講義 II	2 2~
		近現代文学講義 III	2 2~
		近現代文学講義 IV	2 2~
		文章創作演習	2 2~
		● 国際日本文化領域	
		日本文化演習 I	2 1~
		日本文化演習 II	2 1~
		サブカルチャー研究 I	2 2~
		サブカルチャー研究 II	2 2~
		アニメと文化 I	2 2~
		アニメと文化 II	2 2~
		MANGA論	2 3~
		ゲーム文化論	2 3~
		デジタルメディア制作演習	2 3~
		マンガ・アニメ制作演習	2 3~
		京都産業文化論 I	2 1~
		京都産業文化論 II	2 2~
		京都総合演習	2 3~
		文化交流史	2 2~
		古都学 I	2 2~
		古都学 II	2 3~

キャリア形成科目群		スポーツ・健康科目群	
● キャリアデザイン科目		● 資格取得支援科目	
キャリア開発リテラシー基礎	2 1~	就業体験準備実習 I	2 2~
キャリア開発演習 I	2 1~	就業体験準備実習 II	2 2~
キャリア開発演習 II	2 2~	中等教職教育講義 III	2 3~
キャリア開発演習 III	2 2~	中等教職教育講義 IV	2 4
キャリア開発演習 IV	1 2~	教育原論	2 1~
キャリア開発演習 V	2 3~	キャリア入門	2 1~
新時代のキャリア開発	2 4	教育制度論	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト I	2 1~	教育心理学	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト II	2 1~	特別支援教育論	1 2~
キャリア開発発展プロジェクト III	2 1~	教育課程論	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト IV	2 1~	遠隔教育の理論と方法	2 2~
		総合的学習の時間の指導法	1 2~
		特別活動論	2 2~
		館の歴史と現在(京都府立総合資料館)	2 2~
		生徒・進路指導	2 3~
		教育相談	2 2~
		就職実践演習(中等)	2 4
		学校等体験活動	1 1~
		● 宗学公選携科目	
		就業体験準備実習	2 1~
		就業体験実習 I	2 2~
		就業体験実習 II	2 3~
		就業体験実習 III	2 4
		海外就業体験実習 I	2 2~
		海外就業体験実習 II	2 2~
		● 宗学公選携科目	
		就業体験準備実習	2 1~
		就業体験実習 I	2 2~
		就業体験実習 II	2 3~
		就業体験実習 III	2 4
		海外就業体験実習 I	2 2~
		海外就業体験実習 II	2 2~
		● 資格取得支援科目	
		就業体験準備実習 I	2 2~
		就業体験準備実習 II	2 2~
		中等教職教育講義 III	2 3~
		中等教職教育講義 IV	2 4
		教育原論	2 1~
		キャリア入門	2 1~
		教育制度論	2 2~
		教育心理学	2 2~
		特別支援教育論	1 2~
		教育課程論	2 2~
		遠隔教育の理論と方法	2 2~
		総合的学習の時間の指導法	1 2~
		特別活動論	2 2~
		館の歴史と現在(京都府立総合資料館)	2 2~
		生徒・進路指導	2 3~
		教育相談	2 2~
		就職実践演習(中等)	2 4
		学校等体験活動	1 1~

56 単位以上

2. 専門教育科目

必修 [34単位]

演習科目群		演習科目群	
● 1回生		● 2回生	
研究入門ゼミ I	2 1~	漢学古典研究 I	2 2~
研究入門ゼミ II	2 1~	漢学古典研究 II	2 2~
書法 I	1 1~	かな古典研究 I	2 2~
書法 II	1 1~	かな古典研究 II	2 2~
書法 III	1 1~		
書法 IV	1 1~		
言語文化総合演習 III	2 1~		
言語文化総合演習 IV	2 1~		
● 3回生		● 4回生	
書法 V	1 3~	作品研究 I	1 4
書法 VI	1 3~	作品研究 II	1 4
書法 VII	1 3~	作品研究 III	1 4
書法 VIII	1 3~	作品研究 IV	1 4
		卒業研究	6 4

選択必修 [34単位以上]

基幹科目群から4単位以上、展開科目群から26単位以上

基幹科目群		展開科目群	
日本語学概説 I	2 1~	● 書道領域	
日本語学概説 II	2 1~	書道領域	2 1~
日本文学史 I	2 1~	篆刻 I	2 1~
日本文学史 II	2 1~	篆刻 II	2 1~
国際日本文化講義 I	2 1~	書刺・鑑賞 I	2 2~
国際日本文化講義 II	2 1~	書刺・鑑賞 II	2 2~
		中国書道史	2 2~
		日本書道史	2 2~
		書論特講 a	2 3~
		書論特講 b	2 3~
		書論特講 c	2 3~
		書論特講 d	2 3~
		現代書研究 I	2 3~
		現代書研究 II	2 3~
		中学書写 I	1 1~
		中学書写 II	1 1~
		● 日本語領域	
		日本語領域	2 2~
		日本語講義 I (日本語文法)	2 2~
		日本語講義 II (日本語文法)	2 2~
		日本語講義 III (社会言語学)	2 2~
		日本語講義 IV (日本語史)	2 2~
		日本語教授法 I	2 1~
		日本語教授法 II	2 2~
		日本語教授法 III	2 2~
		日本語教授法 IV	2 2~
		日本語教授法 V	2 3~
		日本語教授法 VI	2 3~
		日本語教材研究	2 4
		日本語教育実習	2 4
		アナウンス技術演習 I	2 2~
		アナウンス技術演習 II	2 2~
		● 日本文化領域	
		古典文学講義 I (平安)	2 2~
		古典文学講義 II (平安)	2 2~
		古典文学講義 III (中近世)	2 2~
		古典文学講義 IV (中近世)	2 2~
		近現代文学講義 I	2 2~
		近現代文学講義 II	2 2~
		近現代文学講義 III	2 2~
		近現代文学講義 IV	2 2~
		文章創作演習	2 2~
		● 国際日本文化領域	
		日本文化演習 I	2 1~
		日本文化演習 II	2 1~
		サブカルチャー研究 I	2 2~
		サブカルチャー研究 II	2 2~
		アニメと文化 I	2 2~
		アニメと文化 II	2 2~
		MANGA論	2 3~
		ゲーム文化論	2 3~
		デジタルメディア制作演習	2 3~
		マンガ・アニメ制作演習	2 3~
		京都産業文化論 I	2 1~
		京都産業文化論 II	2 2~
		京都総合演習	2 3~
		文化交流史	2 2~
		古都学 I	2 2~
		古都学 II	2 3~

専門関連科目群

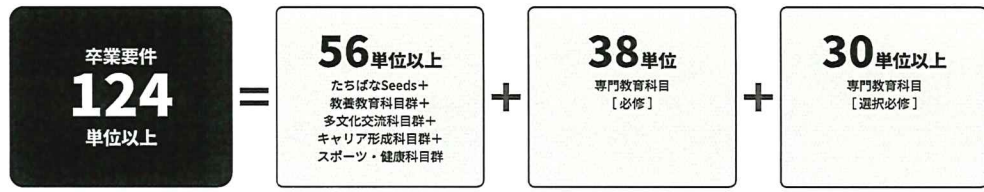
漢文学 I	2 1~
漢文学 II	2 1~
日本史概説 I	2 1~
日本史概説 II	2 1~
民俗学	2 1~
日本美術史 I	2 1~
日本美術史 II	2 1~
東洋美術史	2 1~
日本女性史特講 I	2 2~
日本女性史特講 II	2 2~
京都の歴史と文化遺産	2 1~
古都の歴史と文化	2 2~
木簡・金石文学	2 3~

クロスオーバー科目群

プログラミング演習 I	2 2~
プログラミング演習 II	2 2~
視光学	2 3~
コンテンツ産業論	2 3~
文化経済論	2 3~
広告とメディア	2 3~
知的財産マネジメント	2 3~

68 単位以上

2025年度生用 文学部 日本語日本文学科 国際日本文化コース カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修 [10 単位]

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
たちばなBasis I	2 1~	● 外国語科目	単位 回生
たちばなBasis II	2 1~	英語 I A	1 1~
ITリテラシー	1 1~	英語 I B	1 1~
データサイエンス基礎	1 1~	英語 II A	1 1~
		英語 II B	1 1~

選択必修 [46 単位以上]

教養教育科目群の「人間を理解する」「社会を生きる」「自然科学にふれる」からそれぞれ4単位以上

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
シンキングスキル	2 1~	● 外国語科目	単位 回生
プレゼンテーションスキル	2 1~	英語 III A	1 2~
ライティング基礎	2 1~	英語 III B	1 2~
データサイエンス応用	2 2~	英語 IV A	1 2~
		英語 IV B	1 2~
		中国語入門 I	2 1~
		中国語入門 II	2 1~
		中国語会話 I	2 1~
		中国語会話 II	2 1~
		韓国語入門 I	2 1~
		韓国語入門 II	2 1~
		韓国語会話 I	2 1~
		韓国語会話 II	2 1~
		フランス語入門 I	2 1~
		フランス語入門 II	2 1~
		ドイツ語入門 I	2 1~
		ドイツ語入門 II	2 1~
		日本語 I	2 1~
		日本語 II	2 1~
		日本語 III	2 2~
		日本語 IV	2 2~
		● 多文化交流実践科目	単位 回生
		異文化交流演習 I	2 2~
		異文化交流演習 II	2 3~
		外国語現地演習 I	2 1~
		外国語現地演習 II	2 1~
		多文化協働ワークショップ I	2 1~
		多文化協働ワークショップ II	2 2~
		※ 日本語 II	2 1~
		※ 日本語 III	2 2~
		※ 日本語 IV	2 2~
		● 自然科学にふれる	単位 回生
		数学的思考を身につける	2 1~
		地球の環境と自然	2 1~
		日本の伝統的建築と庭園	2 1~
		くすりのサイエンス	1 1~
		くらしの中の看護	1 1~
		こどもの発達とこころの健康	1 1~
		生活支援技術と社会参加	1 1~
		ヒトの身体と栄養の科学	2 1~
		数学基礎 I	2 1~
		数学基礎 II	2 1~
		物理学基礎	2 1~
		化学基礎	2 1~
		生物学基礎	2 1~
		生物多様性概論	2 1~
		地理学概論	2 1~
		A1概論	2 1~
		経済学概論 I	2 1~
		経済学概論 II	2 1~
		経営学概論	2 1~
		自然科学で考える	2 2~

キャリア形成科目群

キャリアデザイン科目		産学連携科目		資格取得支援科目	
キャリア開発リテラシー基礎	2 1~	就業体験準備実習	2 1~	中等教職教養講義 I	2 2~
キャリア開発演習 I	2 1~	就業体験実習 I	2 2~	中等教職教養講義 II	2 2~
キャリア開発演習 II	2 1~	就業体験実習 II	2 2~	中等教職教養講義 III	2 2~
キャリア開発演習 III	2 2~	クロスオーバー理解講座プロジェクト	2 2~	中等教職教養講義 IV	2 4
キャリア開発演習 IV	1 2~	海外就業体験実習 I	2 2~	教育原論	2 1~
キャリア開発演習 V	2 3~	海外就業体験実習 II	2 2~	教職入門	2 1~
キャリア開発演習 VI	2 4			教育制度論	2 2~
キャリア開発演習 VII	2 1~			教育心理学	2 1~
キャリア開発演習 VIII	2 1~			特別支援教育論	1 2~
キャリア開発演習 IX	2 1~			教育課程論	2 2~
キャリア開発演習 X	2 1~			遠隔教育の理論と方法	2 2~
キャリア開発演習 XI	2 1~			総合学習の時間の指導法	1 2~
キャリア開発演習 XII	2 1~			特別活動論	2 2~
キャリア開発演習 XIII	2 1~			特別活動実践(総合学習)	2 2~
キャリア開発演習 XIV	2 1~			生徒・進路指導	2 3~
				教育相談	2 2~
				教職実践演習(中等)	2 4
				学校等体験活動	1 1~

※は外国人留学生科目

スポーツ・健康科目群

スポーツ・健康科目群	
体育理論	2 1~
福祉とボランティア	2 1~
人権と教育	2 2~
生物学習概論 I	2 1~
図書概論	2 1~
図書館制度・経営論	2 2~
図書館情報資源概論	2 2~
博物館概論	2 1~
博物館経営論	2 2~
博物館資料論	2 2~
博物館資料保存論	2 2~
博物館学	2 2~
博物館教育論	2 1~
博物館実習 I	1 3~
博物館実習 II	1 3~
社会調査法	2 2~
統計学基礎	2 2~

2. 専門教育科目

必修 [38 単位]

1回生		2回生	
研究入門ゼミ I	2 1~	基礎演習 I	2 2~
研究入門ゼミ II	2 1~	基礎演習 II	2 2~
言語文化総合演習 I	2 1~	言語文化総合演習 V	2 2~
言語文化総合演習 II	2 1~	言語文化総合演習 VI	2 2~
言語文化総合演習 III	2 1~	言語文化総合演習 VII	2 2~
言語文化総合演習 IV	2 1~	言語文化総合演習 VIII	2 2~

選択必修 [30 単位以上]

基幹科目群から6単位以上、展開科目群から20単位以上

基幹科目群

日本語学概説 I	2 1~
日本語学概説 II	2 1~
日本文学史 I	2 1~
日本文学史 II	2 1~
国際日本文化講義 I	2 1~
国際日本文化講義 II	2 1~

展開科目群

● 日本文学領域		● 日本語学領域		● 国際日本文化領域		● 書道領域	
古典文学講義 I (平安)	2 2~	日本語学講義 I (日本語文法)	2 2~	日本文化演習 I	2 1~	中学書写 I	1 1~
古典文学講義 II (平安)	2 2~	日本語学講義 II (日本語文法)	2 2~	日本文化演習 II	2 1~	中学書写 II	1 1~
古典文学講義 III (中近世)	2 2~	日本語学講義 III (社会言語学)	2 2~	アニメと文化 I	2 2~		
古典文学講義 IV (中近世)	2 2~	日本語学講義 IV (日本語史)	2 2~	アニメと文化 II	2 2~		
近現代文学講義 I	2 2~	日本語教授法 I	2 1~	サブカルチャー研究 I	2 2~		
近現代文学講義 II	2 2~	日本語教授法 II	2 1~	サブカルチャー研究 II	2 2~		
近現代文学講義 III	2 2~	日本語教授法 III	2 2~	MANGA論	2 3~		
近現代文学講義 IV	2 2~	日本語教授法 IV	2 2~	ゲーム文化論	2 3~		
文芸創作演習	2 2~	日本語教授法 V	2 3~	デジタルメディア制作演習	2 3~		
		日本語教授法 VI	2 3~	マンガ・アニメ制作演習	2 3~		
		日本語教材研究	2 4	京都産業文化論 I	2 1~		
		日本語教育実習	2 4	京都産業文化論 II	2 2~		
		アナウンス技術演習 I	2 2~	京都総合演習	2 3~		
		アナウンス技術演習 II	2 2~	文化交流史	2 2~		
				吉都学 I	2 2~		
				吉都学 II	2 3~		

専門関連科目群

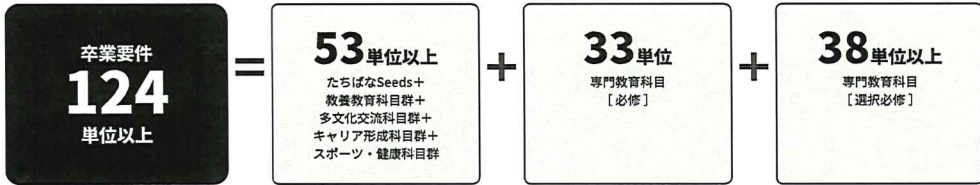
漢文学 I	2 1~
漢文学 II	2 1~
日本史概説 I	2 1~
日本史概説 II	2 1~
民俗学	2 1~
日本美術史 I	2 1~
日本美術史 II	2 1~
東洋美術史	2 1~
日本女性史特講 I	2 2~
日本女性史特講 II	2 2~
京都の歴史と文化遺産	2 1~
京都の歴史と文化	2 2~
木簡・金石文学	2 3~

クロスオーバー科目群

プログラミング演習 I	2 2~
プログラミング演習 II	2 2~
朝光学	2 3~
コンテンツ産業論	2 3~
文化経済論	2 3~
広告とメディア	2 3~
知的財産マネジメント	2 3~

68 単位以上

2025年度生用 文学部 歴史学科 世界史コース カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修 [18単位]

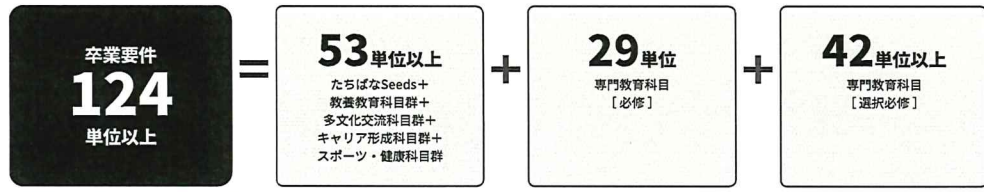
たばなSeeds		多文化交流科目群	
たばなBasis I	2 1~	●外国語科目	
たばなBasis II	2 1~	英語 I A	1 1~
シンキングスキル	2 1~	英語 I B	1 1~
ライティング基礎	2 1~	英語 II A	1 1~
ITリテラシー	1 1~	英語 II B	1 1~
データサイエンス基礎	1 1~	英語 III A	1 2~
		英語 III B	1 2~
		英語 IV A	1 2~
		英語 IV B	1 2~

選択必修 [35単位以上]

教養教育科目群の「人間を理解する」から4単位以上、「社会を生きる」から4単位以上、「自然科学にふれる」およびスポーツ・健康科目群から4単位以上、多文化交流科目群の選択必修科目から4単位以上

たばなSeeds		歴史学領域		社会学領域 I		●外国語科目		●多文化交流実践科目	
プレゼンテーションスキル	2 1~	歴史学概論	2 1~	社会学概論 I	2 1~	中国語入門 I	2 1~	異文化交流演習 I	2 2~
データサイエンス応用	2 2~	真文化コミュニケーション論	2 1~	社会学概論 II	2 1~	中国語入門 II	2 1~	異文化交流演習 II	2 3~
		人間を考える	2 2~	社会学概論 III	2 1~	中国語会話 I	2 1~	外国語圏演習 I	2 1~
		●社会を生きる		社会学概論 IV	2 1~	中国語会話 II	2 1~	外国語圏演習 II	2 1~
		日本国憲法	2 1~	●自然科学にふれる		韓国語入門 I	2 1~	多文化協働ワークショップ I	2 1~
		民法	2 1~	数学的思考を身につける	2 1~	韓国語入門 II	2 1~	多文化協働ワークショップ II	2 2~
		日常生活と法	2 1~	地球の環境と自然	2 1~	韓国語会話 I	2 1~	※日本事情 I	2 1~
		情報技術の歴史と展開	2 1~	日本の伝統的建築と庭園	2 1~	韓国語会話 II	2 1~	※日本事情 II	2 1~
		私たちがくらしと行政	2 1~	くすりのサイエンス	1 1~	フランス語入門 I	2 1~	※日本事情 III	2 2~
		時事問題にふれる	2 1~	くらしの中の看護	1 1~	フランス語入門 II	2 1~	※日本事情 IV	2 2~
		日本と国際社会	2 1~	くらしと経済	1 1~	ドイツ語入門 I	2 1~		
		文字から人生を考える	2 1~	こどもの発達とこころの健康	1 1~	ドイツ語入門 II	2 1~		
		芸術と文化	2 1~	生活支援技術と社会参加	1 1~	※日本語 I	2 1~		
		現代のメディアと表現	2 1~	ヒトの身体と栄養の科学	2 1~	※日本語 II	2 1~		
		京都の歴史・文化 I	2 1~	数学基礎 I	2 1~	※日本語 III	2 1~		
		京都の歴史・文化 II	2 1~	数学基礎 II	2 1~	※日本語 IV	2 2~		
		言語コミュニケーション論	2 1~	物理学基礎	2 1~				
		ジェンダーとダイバーシティ	2 1~	化学基礎	2 1~				
		哲学概論	2 1~	生物学基礎	2 1~				
		倫理学概論	2 1~	生物多様性概論	2 1~				
		宗教学概論	2 1~	地理学概論	2 1~				
		芸術学概論	2 1~	AI概論	2 1~				
		比較文化論	2 1~	社会学概論	2 1~				
		言語学概論	2 1~	社会学概論 II	2 1~				
		文化人類学	2 1~	社会学概論 III	2 1~				
				社会学概論 IV	2 1~				
				社会学概論 V	2 1~				
				社会学概論 VI	2 1~				
				社会学概論 VII	2 1~				
				社会学概論 VIII	2 1~				
				社会学概論 IX	2 1~				
				社会学概論 X	2 1~				
				社会学概論 XI	2 1~				
				社会学概論 XII	2 1~				
				社会学概論 XIII	2 1~				
				社会学概論 XIV	2 1~				
				社会学概論 XV	2 1~				
				社会学概論 XVI	2 1~				
				社会学概論 XVII	2 1~				
				社会学概論 XVIII	2 1~				
				社会学概論 XIX	2 1~				
				社会学概論 XX	2 1~				
				社会学概論 XXI	2 1~				
				社会学概論 XXII	2 1~				
				社会学概論 XXIII	2 1~				
				社会学概論 XXIV	2 1~				
				社会学概論 XXV	2 1~				
				社会学概論 XXVI	2 1~				
				社会学概論 XXVII	2 1~				
				社会学概論 XXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXIX	2 1~				
				社会学概論 XXX	2 1~				
				社会学概論 XXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXX	2 1~				
				社会学概論 XXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIX	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXV	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVI	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXVIII	2 1~				
				社会学概論 XXXXXXXXXXIX	2 1~	</			

2025年度生用 文学部 歴史学科 日本史コース カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修【18単位】

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
たちばなBasis I	2 1~	●外国語科目	単位 回生
たちばなBasis II	2 1~	英語 I A	1 1~
シンキングスキル	2 1~	英語 I B	1 1~
ライティング基礎	2 1~	英語 II A	1 1~
ITリテラシー	1 1~	英語 II B	1 1~
データサイエンス基礎	1 1~	英語 III A	1 2~
		英語 III B	1 2~
		英語 IV A	1 2~
		英語 IV B	1 2~

選択必修【35単位以上】

教養教育科目群の「人間を理解する」から4単位以上、「社会を生きる」から4単位以上、「自然科学にふれる」およびスポーツ・健康科目群から4単位以上、多文化交流科目群の選択必修科目から4単位以上

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
プレゼンテーションスキル	2 1~	歴史学概論	2 1~
データサイエンス応用	2 2~	異文化コミュニケーション論	2 1~
		人間を考える	2 2~
		●社会を生きる	単位 回生
		日本国憲法	2 1~
		民法	2 1~
		日常生活と法	2 1~
		情報技術の歴史と展開	2 1~
		私たちのくらしと行政	2 1~
		時事問題にふれる	2 1~
		日本と国際社会	2 1~
		くらしと経済	2 1~
		素顔の奥に生きる心のはらき	1 1~
		現代のメディアと表現	2 1~
		京都の歴史・文化 I	2 1~
		京都の歴史・文化 II	2 1~
		言語コミュニケーション論	2 1~
		ジェンダーとダイバーシティ	2 1~
		哲学概論	2 1~
		倫理学概論	2 1~
		宗教学概論	2 1~
		芸術学概論	2 1~
		比較文化論	2 1~
		言語学概論	2 1~
		文化人類学	2 1~
		●自然科学にふれる	単位 回生
		数学的思考を身につける	2 1~
		地球の環境と自然	2 1~
		日本の伝統的建築と庭園	2 1~
		くすりのサイエンス	1 1~
		くらしの中の看護	1 1~
		こどもの発達とこころの健康	1 1~
		生活支援技術と社会参加	1 1~
		ヒトの身体と栄養の科学	2 1~
		数学基礎 I	2 1~
		数学基礎 II	2 1~
		物理学基礎	2 1~
		化学基礎	2 1~
		生物学基礎	2 1~
		生物多様性概論	2 1~
		地理学概論	2 1~
		AI概論	2 1~
		住居学概論	2 1~
		自然科学で考える	2 2~
		●外国語科目	単位 回生
		中国語入門 I	2 1~
		中国語入門 II	2 1~
		中国語会話 I	2 1~
		中国語会話 II	2 1~
		韓国語入門 I	2 1~
		韓国語入門 II	2 1~
		韓国語会話 I	2 1~
		韓国語会話 II	2 1~
		フランス語入門 I	2 1~
		フランス語入門 II	2 1~
		ドイツ語入門 I	2 1~
		ドイツ語入門 II	2 1~
		※日本語 I	2 1~
		※日本語 II	2 2~
		※日本語 III	2 2~
		※日本語 IV	2 2~
		●多文化交流実践科目	単位 回生
		異文化交流演習 I	2 2~
		異文化交流演習 II	2 3~
		外国語圏地演習 I	2 1~
		外国語圏地演習 II	2 1~
		多文化協働ワークショップ I	2 1~
		多文化協働ワークショップ II	2 2~
		※日本事情 I	2 1~
		※日本事情 II	2 2~
		※日本事情 III	2 2~
		※日本事情 IV	2 2~
		※日本語 I	2 1~
		※日本語 II	2 2~
		※日本語 III	2 2~
		※日本語 IV	2 2~

キャリア形成科目群		スポーツ・健康科目群	
●キャリアデザイン科目	単位 回生	海外就業体験実習 I	2 2~
キャリア開発リテラシー基礎	2 1~	海外就業体験実習 II	2 2~
キャリア開発演習 I	2 1~	●資格取得支援科目	単位 回生
キャリア開発演習 II	2 1~	中等教職教育実習 I	2 2~
キャリア開発演習 III	2 2~	中等教職教育実習 II	2 2~
キャリア開発演習 IV	1 2~	中等教職教育実習 III	2 3~
キャリア開発演習 V	2 3~	中等教職教育実習 IV	2 4~
新時代のキャリア開発	2 4~	教育原論	2 1~
キャリア開発プロジェクト I	2 1~	教育入門	2 1~
キャリア開発プロジェクト II	2 1~	教育制度論	2 2~
キャリア開発プロジェクト III	2 1~	教育心理学	2 2~
キャリア開発プロジェクト IV	2 1~	特別支援教育論	1 2~
		教育課程論	2 2~
		連携教育の理論と方法	2 2~
		統合的な学習の時間の指導法	2 2~
		特別活動論	2 2~
●産学公連携科目	単位 回生	健康に生きる	2 1~
就業体験準備実習	2 1~	スポーツコース I	1 1~
就業体験実習 I	2 2~	スポーツコース II	1 1~
就業体験実習 II (後期インターンシップ)	2 3~	健康と運動の科学	2 1~
クロスオーバー問題解決プロジェクト	2 2~	ストレス科学概論	1 1~
		博物館資料保存論	2 2~
		博物館展示論	2 2~
		博物館教育論	2 1~
		博物館実習 I	1 3~
		博物館実習 II	1 3~
		考古学概論 I	2 1~
		福祉とボランティア	2 1~
		人権と教育	2 2~
		生涯学習概論	2 1~
		図書館概論	2 2~
		図書館制度・経営論	2 2~
		図書館情報資源概論	2 2~
		博物館学概論	2 2~
		博物館学実習	2 4~
		日本語教育実習	2 2~
		社会調査法	2 2~
		統計学基礎	2 2~

※は外国人留学生科目

2. 専門教育科目

71 単位以上

必修【29単位】

1回生		2回生		3回生		4回生	
研究入門ゼミ I	2 1~	日本史基礎ゼミ I	2 2~	日本史演習 I	2 3~	日本史演習 III	2 4
研究入門ゼミ II	2 1~	日本史基礎ゼミ II	2 2~	日本史演習 II	2 3~	日本史演習 IV	2 4
歴史基礎演習	1 1~			日本史講義 I	2 3~	卒業研究	6 4
歴史学入門講義	2 1~			日本史講義 II	2 3~		

選択必修【42単位以上】

基礎科目群から6単位以上、基幹科目群から4単位以上、応用科目群から2単位以上、展開科目群の日本史領域およびオプショナルコース各領域から18単位以上、世界史領域から4単位以上

基礎科目群		基幹科目群		応用科目群	
日本史概説 I	2 1~	古文書学A I (古代・中世)	2 2~	アーカイブス学	2 2~
日本史概説 II	2 1~	古文書学A II (古代・中世)	2 2~	木簡・金石文学	2 3~
東洋史概説 I	2 1~	古文書学B I (近世)	2 2~	古文書演習	2 2~
東洋史概説 II	2 1~	古文書学B II (近世)	2 2~		
西洋史概説 I	2 1~				
西洋史概説 II	2 1~				
考古学概説 I	2 1~				
考古学概説 II	2 1~				

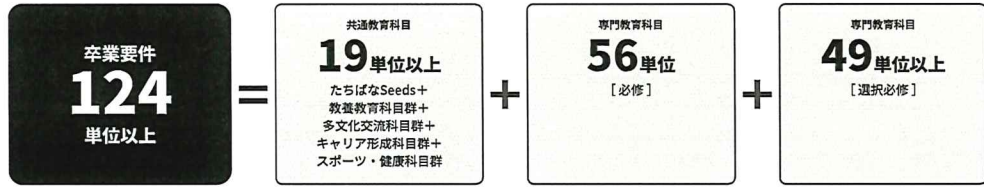
展開科目群

●日本史領域	単位 回生	●オプショナルコース/グローバル・ヒストリー領域	単位 回生	●世界史領域	単位 回生
日本史特講 a (古代史)	2 2~	近現代史特講 a (日本)	2 2~	世界史特講 a (東アジア史 I)	2 2~
日本史特講 b (古代史)	2 2~	近現代史特講 b (日本)	2 2~	世界史特講 b (東アジア史 II)	2 2~
日本史特講 c (中世史)	2 2~	近現代史特講 c (世界)	2 2~	世界史特講 c (東アジア史 III)	2 2~
日本史特講 d (中世史)	2 2~	近現代史特講 d (世界)	2 2~	世界史特講 d (東アジア史 IV)	2 2~
日本史特講 e (近世史)	2 2~	文化交交流史	2 2~	世界史特講 e (中央・西アジア史 I)	2 2~
日本史特講 f (近世史)	2 2~	20世紀の日本と世界	2 2~	世界史特講 f (中央・西アジア史 II)	2 2~
京都の歴史と文化遺産	2 1~	グローバル・ヒストリー研究 I	2 3~	世界史特講 g (中央・西アジア史 III)	2 2~
京都フィールドワーク	2 1~	グローバル・ヒストリー研究 II	2 3~	世界史特講 h (中央・西アジア史 IV)	2 2~
				世界史特講 i (ヨーロッパアメリカ史 I)	2 2~
				世界史特講 j (ヨーロッパアメリカ史 II)	2 2~
				世界史特講 k (ヨーロッパアメリカ史 III)	2 2~
				世界史特講 l (ヨーロッパアメリカ史 IV)	2 2~

専門関連科目群

歴史地理学	2 2~	建築遺産論	2 2~	古典文学講義 IV (中近世)	2 2~
自然地理学	2 2~	古都の歴史と文化	2 2~	近現代文学講義 I	2 2~
地誌	2 2~	海外文化遺産事情	2 2~	近現代文学講義 II	2 2~
人文地理学	2 2~	古都学 I	2 2~	近現代文学講義 III	2 2~
民俗学	2 1~	古都学 II	2 3~	近現代文学講義 IV	2 2~
日本美術史 I	2 1~	地域文化論	2 3~	国際日本文化講義 I	2 1~
日本美術史 II	2 1~	遺産環境論	2 3~	国際日本文化講義 II	2 1~
東洋美術史	2 1~	日本語概説 I	2 1~	漢文学 I	2 1~
西洋美術史	2 1~	日本語概説 II	2 1~	漢文学 II	2 1~
世界遺産論	2 1~	日本語学 I (日本語文法)	2 2~	京都産業文化論 I	2 1~
文化財行政論	2 2~	日本語学 II (日本語文法)	2 2~	京都産業文化論 II	2 2~
考古学研究 I	2 2~	日本語学講義 I (日本語文法)	2 2~	京都総合演習	2 3~
考古学研究 II	2 3~	日本語学講義 II (日本語文法)	2 2~		
文献史料学 I	2 2~	日本語学講義 III (日本語文法)	2 2~		
文献史料学 II	2 3~	日本語学講義 IV (日本語文法)	2 2~		
美術工芸史研究 I	2 2~	古典文学講義 I (平安)	2 2~		
美術工芸史研究 II	2 2~	古典文学講義 II (平安)	2 2~		
建築遺産研究 I	2 2~	古典文学講義 III (中近世)	2 2~		
歴史遺産研究 I	2 2~				

2025年度生用 発達教育学部 児童教育学科 児童教育コース カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修 たちばなSeeds・多文化交流科目群より10単位

たちばなSeeds/6単位		多文化交流科目群/4単位	
たちばなBasis I	2 1~	英語 I A★	1 1~
たちばなBasis II	2 1~	英語 I B★	1 1~
ITリテラシー★	1 1~	英語 II A	1 1~
データサイエンス基礎★	1 1~	英語 II B	1 1~

選択必修 教養教育科目群の「人間を理解する」「社会を生きる」「自然科学にふれる」から各2単位以上、キャリア形成科目群から2単位以上、スポーツ・健康科目群から1単位以上

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
シンキングスキル	2 1~	言語学概論	2 1~
プレゼンテーションスキル	2 1~	文化人類学	2 1~
ライティング基礎	2 1~	歴史学概論	2 1~
データサイエンス応用	2 2~	異文化コミュニケーション論	2 1~
		人間を考える	2 2~

キャリア形成科目群		スポーツ・健康科目群	
● 外国語科目	単位 回数	● 資格取得支援科目	単位 回数
キャリア開発リテラシー基礎	2 1~	特別支援教育論	1 1~
キャリア開発演習 I	2 1~	学校等体育活動	1 1~
キャリア開発演習 II	2 1~	体育理論★	2 2~
キャリア開発演習 III	2 2~	福祉とボランティア	2 2~
キャリア開発演習 IV	2 2~	人権と教育	2 2~
キャリア開発演習 V	2 2~	生涯学習概論 I	2 2~
キャリア開発演習 VI	2 2~	図書館概論	2 2~
キャリア開発演習 VII	2 2~	図書館制度・経営論	2 2~
キャリア開発演習 VIII	2 2~	図書館情報技術論	2 2~
新時代のキャリア開発	2 4	図書館サービス概論	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト I	2 1~	情報サービス論	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト II	2 1~	児童サービス論	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト III	2 1~	情報サービス演習 I	1 1~
キャリア開発発展プロジェクト IV	2 1~	情報サービス演習 II	1 1~
		図書館情報資源概論	2 2~
		情報資源総論	2 2~
		情報資源総論演習 I	2 2~
		情報資源総論演習 II	1 1~
		図書館情報資源特論	1 1~
		図書館施設論	1 1~
		図書館実習	2 2~
		学校経営と学校図書館	2 2~
		学校図書館メディアの構成	2 2~
		学習指導と学校図書館	2 2~

2. 専門教育科目

必修 【56単位】

1回生		2回生		3回生		4回生	
研究入門ゼミ I	2 1~	基礎演習	2 2~	教育演習 II	2 3~	教育演習 IV	2 4 -
研究入門ゼミ II	2 1~	教育演習 I	2 2~	教育演習 III	2 3~	教育演習 V	2 4 -
教育原論	2 1~	教育課程論	2 2~	教科教育法 (国語)	2 3~	教育相談	2 4 -
子どもと発達教育	2 1~	道徳教育の理論と方法	2 2~	教科教育法 (社会)	2 3~	卒業研究	6 4 -
		特別活動論	2 2~	教科教育法 (生活)	2 3~		
		特別活動の理論と実践	2 2~	教科教育法 (図画工作)	2 3~		
		生徒・進路指導	2 2~	教科教育法 (体育)	2 3~		
		教科教育法 (算数)	2 2~				
		教科教育法 (理科)	2 2~				
		教科教育法 (音楽)	2 2~				
		教科教育法 (家庭)	2 2~				

選択必修 【49単位以上】

1回生		2回生		3回生		4回生	
教職入門	2 1~	教育制度論	2 2~	教育実習指導	1 3~	教育実習 (小学校) II	2 4 -
教育心理学	2 1~	教科教育法 (英語)※	2 2~	教育実習※	4 3~	教職実践演習 (初等)	2 4 -
自然科学概論	1 1~	小中英語指導法※	2 2~	小中教育実習※	4 3~		
音楽概論	1 1~	国語概論	1 2~	特別支援教育論	2 3~		
美術概論	1 1~	社会科概論	1 2~	総合的な学習の時間の指導	1 3~		
数学概論	1 1~	生活科概論	1 2~	保育内容総論	1 3~		
体育概論	1 1~	家庭科概論	1 2~	保育内容演習 (環境) I	1 3~		
英語概論	1 1~	こども理解 (幼児)	2 2~	保育内容演習 (環境) II	1 3~		
幼児と健康	1 1~	幼児体育指導法 I	1 2~	保育内容演習 (表現) I	1 3~		
幼児と人間関係	1 1~	幼児体育指導法 II	1 2~	保育内容演習 (表現) II	1 3~		
幼児と言語	1 1~	音楽演習 II	2 2~	保育内容演習 (健康) I	1 3~		
幼児と表現	1 1~	学級担任論	2 2~	保育内容演習 (健康) II	1 3~		
音楽演習入門	2 1~	小学校ICT教育演習	2 2~	保育内容演習 (人間関係) I	1 3~		
音楽演習 I	2 1~	English Skills I	2 2~	保育内容演習 (人間関係) II	1 3~		
音楽演習 II	2 1~	English Skills II	2 2~	保育内容演習 (言語)	1 3~		
絵画・工芸演習	2 1~	学校・地域調査 (国内)	1 2~	保育の言語表現	1 3~		
こども理解 II (児童)	2 1~	学校・地域調査 (海外)	1 2~	音楽演習 III	2 3~		
タイプト印刷技術 (学外)	2 1~			音楽演習 IV	2 3~		
				表現教育論	2 3~		
				教育・保育で使える統計	1 3~		
				児童文学研究	2 3~		
				児童文化論	2 3~		
				海外子ども事情	1 3~		
				学校・地域調査 (国内) II	1 3~		

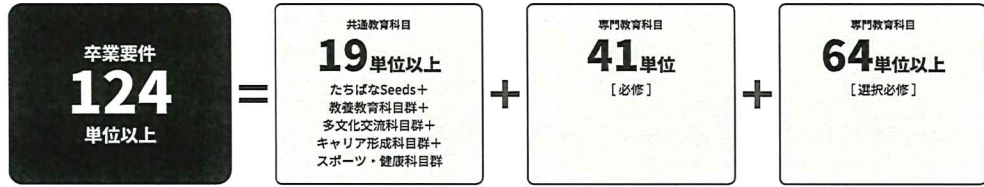
※印はどちらか1科目を必修とする

●…小学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状取得に必須となる科目
 ○…小学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状取得に選択となる科目
 △…小学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状取得に必須または選択とされていないが、小学校教諭を目指すために児童教育学科が推奨する科目
 ★…小学校教諭一種免許状および幼稚園一種免許状取得に必須または選択となる科目

選択の条件等については、履修の手引き免許・資格+取得可能一覧の各カリキュラム表を確認すること

注) ○の科目は、時間別において、クラス名の後ろに(S)と表記されている科目を履修しなければなりません。
 (△)と表記されている科目は、中等教職課程の科目とする(単位数が異なる)ので注意してください。

2025年度生用 発達教育学部 児童教育学科 幼児教育コース カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修 たちばなSeeds・多文化交流科目群より10単位

たちばなSeeds/6単位		多文化交流科目群/4単位	
たちばなBasis I	2 1~	英語 I A *	1 1~
たちばなBasis II	2 1~	英語 I B *	1 1~
ITリテラシー*	1 1~	英語 II A	1 1~
データサイエンス基礎 *	1 1~	英語 II B	1 1~

選択必修 教養教育科目群の「人間を理解する」「社会を生きる」「自然科学にふれる」から各2単位以上、キャリア形成科目群から2単位以上、スポーツ・健康科目群から1単位以上

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
シンキングスキル	2 1~	言語学概論	2 1~
プレゼンテーションスキル	2 1~	文化人類学	2 1~
ライティング基礎	2 1~	歴史学概論	2 1~
データサイエンス応用	2 2~	異文化コミュニケーション論	2 1~
		人間を考える	2 2~
		●社会を生きる	
		日本国憲法 *	2 1~
		民法	2 1~
		日常生活と法	2 1~
		情報技術の歴史と展開	2 1~
		私たちのくらしと行政	2 1~
		時事問題にふれる	2 1~
		日本と国際社会	2 1~
		くらしと経済	2 1~
		家康の徳川に生きる心のはたらき	1 1~
		ビジネスの心理	2 1~
		食と農から社会を考える	2 1~
		法學概論 I	2 1~
		法學概論 II	2 1~
		コミュニケーション論	2 1~
		ジェンダー・ダイバーシティ	2 1~
		哲学概論	2 1~
		倫理学概論	2 1~
		宗教学概論	2 1~
		芸術学概論	2 1~
		比較文化論 *	2 1~
		●自然科学にふれる	
		数学的思考を身につける	2 1~
		生活の中の化学	2 1~
		地球の環境と自然	2 1~
		日本の伝統的建築と庭園	2 1~
		くすりのサイエンス	1 1~
		くらしの中の看護	1 1~
		こどもの発達支援とこころの健康	1 1~
		生活支援技術と社会参加	1 1~
		ヒトの身体と栄養の科学	2 1~
		数学基礎 I	2 1~
		数学基礎 II	2 1~
		物理学基礎	2 1~
		化学基礎	2 1~
		生物学基礎	2 1~
		生物多様性概論	2 1~
		地理学概論	2 1~
		AI概論	2 1~
		住居学概論	2 1~
		自然科学で考える	2 2~
		●外国語科目	
		英語 IIIA	1 2~
		英語 III B	1 2~
		英語 IVA	1 2~
		英語 IV B	1 2~
		中国語入門 I	2 1~
		中国語入門 II	2 1~
		中国語会話 I	2 1~
		中国語会話 II	2 1~
		韓国語入門 I	2 1~
		韓国語入門 II	2 1~
		韓国語会話 I	2 1~
		韓国語会話 II	2 1~
		フランス語入門 I	2 1~
		フランス語入門 II	2 1~
		ドイツ語入門 I	2 1~
		ドイツ語入門 II	2 1~
		日本語 I	2 1~
		日本語 II	2 1~
		日本語 III	2 2~
		日本語 IV	2 2~
		●多文化交流実践科目	
		異文化交流演習 I	2 2~
		異文化交流演習 II	2 2~
		外国語圏地演習 I	2 1~
		外国語圏地演習 II	2 1~
		多文化協働ワークショップ I	2 1~
		多文化協働ワークショップ II	2 1~
		日本語習得 I	2 1~
		日本語習得 II	2 1~
		日本語事情 I	2 1~
		日本語事情 II	2 2~
		日本語事情 III	2 2~
		日本語事情 IV	2 2~

キャリア形成科目群		スポーツ・健康科目群	
●外国語科目		健康に生きる	2 1~
キャリア開発リテラシー基礎	2 1~	スポーツコース I *	1 1~
キャリア開発演習 I	2 1~	スポーツコース II *	1 1~
キャリア開発演習 II	2 1~	健康と運動の科学	2 1~
キャリア開発演習 III	2 2~	ストレス科学概論	1 1~
キャリア開発演習 IV	2 2~		
キャリア開発演習 V	2 2~	●資格取得支援科目	
キャリア開発演習 VI	2 3~	特別支援教育論	1 1~
キャリア開発演習 VII	2 4	読書と豊かな人間性	1 1~
キャリア開発演習 VIII	2 4	体育理論 *	2 2~
新時代のキャリア開発	2 4	福祉とボランティア	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト I	2 1~	人と教育	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト II	2 1~	生涯学習概論 I	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト III	2 1~	図書館概論	2 2~
キャリア開発発展プロジェクト IV	2 1~	図書館制度・経営論	2 2~
		図書館情報概論	2 2~
		図書館情報技術論	2 2~
		図書館サービス概論	2 2~
		情報サービス論	2 2~
		児童サービス論	2 2~
		情報サービス演習 I	1 1~
		情報サービス演習 II	1 1~
		図書館情報資源概論	2 2~
		情報資源組織論	2 2~
		情報資源組織演習 I	1 1~
		情報資源組織演習 II	1 1~
		図書館情報資源特論	1 1~
		図書館施設論	1 1~
		図書館実習	1 1~
		学校経営と学校図書館	2 2~
		学校図書館メディアの構成	2 2~
		●産学連携科目	
就業体験実習	2 1~	学習指導と学校図書	2 2~
就業体験実習 I	2 2~	図書と豊かな人間性	2 2~
就業体験実習 II (長期インターンシップ)	2 2~	情報メディアの活用	2 2~
クロスオーバー課題解決プロジェクト	2 2~	博物館概論	2 2~
海外就業体験実習 I	2 2~	博物館学概論	2 2~
海外就業体験実習 II	2 2~	博物館経営論	2 2~
		博物館資料論	2 2~
		博物館資料保存論	2 2~
		博物館学特論	2 2~
		博物館教育論	2 2~
		博物館実習 I	1 1~
		博物館実習 II	1 1~
		人文地理学	2 2~
		社会調査法	2 2~
		統計学基礎	2 2~
		日本語教授法 I	2 2~
		日本語教授法 II	2 2~
		日本語教授法 III	2 2~
		日本語教授法 IV	2 2~
		日本語教授法 V	2 2~
		日本語教授法 VI	2 2~
		日本語教授法研究	2 2~
		日本語教育実習	2 2~

2. 専門教育科目

必修 [41単位]

1回生		2回生		3回生		4回生	
研究入門ゼミ I	2 1~	基礎演習	2 2~	教育演習 II	2 3~	教育演習 IV	2 4 -
研究入門ゼミ II	2 1~	教育演習 I	2 2~	教育演習 III	2 3~	教育演習 V	2 4 -
教育原論	2 1~	保育内容演習 (環境 I)	1 2~	教育相談(初級)	2 3~	教育相談	2 4 ●○
子ども発達教育	2 1~	保育内容演習 (環境 II)	1 2~	教育課程論	2 3~	卒業研究	6 4 -
		保育内容演習 (表現 I)	1 2~				
		保育内容演習 (表現 II)	1 2~				
		保育内容演習 (健康 I)	1 2~				
		保育内容演習 (健康 II)	1 2~				
		保育内容演習 (人間関係 I)	1 2~				
		保育内容演習 (人間関係 II)	1 2~				
		保育内容演習 (言語 I)	1 2~				

選択必修 [64単位]

1回生		2回生		3回生		4回生	
社会福祉	2 1~	保育原理	2 2~	障害児保育	2 3~	教育実習 (小学校) II	2 4 ●●
保育の心理学	2 1~	子ども家庭福祉	2 2~	社会的養護 II	1 3~	教職実践演習 (初等)	2 4 ●●
子どもの保健	2 1~	子ども家庭福祉の心理学	2 2~	子育て支援	1 3~		
教育心理学	2 1~	社会的養護 I	2 2~	子ども家庭支援論	2 3~		
絵画・工芸演習	2 1~	子どもの健康と安全	1 2~	保育実習指導 I-2	1 3~		
音楽演習入門	2 1~	子どもの食と栄養	2 2~	保育実習指導 I-2	2 3~		
音楽演習 II	2 1~	子どもの理解と援助	1 2~	保育実習指導 II	1 3~		
教職入門	2 1~	乳児保育 I	2 2~	保育実習 II	2 3~		
幼児と健康	1 1~	乳児保育 II	1 2~	保育実習指導 III	1 3~		
幼児と人間関係	1 1~	保育の言語表現	1 2~	保育実習 III	2 3~		
幼児と環境	1 1~	幼児体育指導法 I	1 2~	音楽演習 III	2 3~		
幼児と言語	1 1~	幼児体育指導法 II	1 2~	音楽演習 IV	2 3~		
幼児と表現	1 1~	こども理解 (幼児)	2 2~	保育内容総論	2 3~		
保育実践入門	1 1~	保育実習指導 I-1	1 2~	教育制度論	2 3~		
		保育実習 I-1	2 2~	特別支援教育論	2 3~		
		体育実技	1 2~	教育実習指導	1 3~		
		音楽演習 II	2 2~	教育実習	4 3~		
		保育英語 I	2 2~	表現教育論	2 3~		
		保育英語 II	2 2~	教育・保育で使える統計	1 3~		
		学校・地域調査 (海外)	1 2~	児童文学研究	2 3~		
		保育実践演習 I	1 2~	児童文化論	2 3~		
				海外子ども事情	1 3~		
				保育実践演習 II	1 3~		

●…幼稚園教諭一種免許状または保育士資格取得に必須となる科目
 ○…幼稚園教諭一種免許状または保育士資格取得に選択となる科目
 △…幼稚園教諭一種または保育士資格取得に必須または選択とされていないが、幼稚園教諭や保育士を目指すために児童教育学科が推奨する科目
 ★…幼稚園一種免許状または保育士資格取得に必須または選択となる科目

選択の条件等については、履修の手引き免許・資格と取得可能一覧の各カリキュラム表で確認をすること

注: (S) の科目は、時間割において、クラス名の後ろに (S) と表記されている科目を履修しなければなりません。
 (C) と表記されている科目は、中等教育課程の科目となる (単位数が異なる) ので注意してください。

2025年度生用 総合心理学部 総合心理学科 カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

教養教育科目

36単位以上

必修 コア科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群より12単位

コア科目群/10単位

●思考コア

クリティカルシンキング 2 1~

●スキルコア

ライティング基礎 2 1~
ITリテラシー 1 1~
データサイエンス基礎 1 1~
英語I A 1 1~
英語I B 1 1~
英語II A 1 1~
英語II B 1 1~

教養教育科目群/2単位

知へのマインドセット 2 1~

選択必修 コア科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群より24単位以上

コア科目群

●思考コア

数学的思考を身につける 2 1~

●スキルコア

アカデミックライティング 2 2~
AIリテラシー 2 2~
情報社会論 2 2~
データサイエンス応用 2 2~

教養教育科目群

●現代社会とそのルーツを探る

歴史から学ぶ 2 1~
ジェンダーとダイバーシティ 2 1~
現代のメディアと表現 2 1~
国際関係入門 2 2~

●社会のなかで自立して生きる

日本国憲法 2 1~
くらしと経済 2 1~
私たちのくらしと行政 2 2~

●地域の価値を知る

京都の歴史・文化I 2 1~
京都の歴史・文化II 2 1~
文学と京都 2 1~

●心とからだの健康をはくくむ

健康に生きる 2 1~
スポーツコースI 1 1~
スポーツコースII 1 1~

●自然と共生する

地球の環境と自然 2 1~
生命と生態系 2 1~

●異文化との共生

比較文化論 2 1~
異文化コミュニケーション論 2 1~
芸術と文化 2 1~
文化人類学 2 1~
言語コミュニケーション論 2 1~
日本文化演習I 2 1~
日本文化演習II 2 1~
日本語I 2 1~
日本語II 2 1~
日本語III 2 2~

日本語IV 2 2~

日本語I 2 1~
日本語II 2 1~
日本語III 2 1~
英語III A 1 2~
英語III B 1 2~
英語IV A 1 2~
英語IV B 1 2~
中国語I 2 1~
中国語II 2 1~
中国語III 2 1~
中国語IV 2 1~
韓国語I 2 1~
韓国語II 2 1~
韓国語III 2 1~
韓国語IV 2 1~
フランス語I 2 1~
フランス語II 2 1~
ドイツ語I 2 1~
ドイツ語II 2 1~
外国語圏地演習 2 1~

キャリア教育科目群

●自律型キャリアの育成

キャリア開発基礎講座 2 1~
キャリア開発演習I 2 1~
キャリア開発演習II 2 1~
キャリア開発演習III 2 2~
キャリア開発演習IV 2 3~

●産学公連携教育

インターンシップI 2 2~
インターンシップII 2 3~
海外インターンシップ 2 2~
クロスオーバー型課題解決プロジェクト 2 2~
ワークエクスピリエンス 2 3~

●キャリア構築支援

キャリアアドバイザー演習I 2 1~
キャリアアドバイザー演習II 2 1~
キャリアアドバイザー演習III 2 2~
キャリアアドバイザー演習IV 2 2~
教職入門 2 1~
教育原論 2 1~
教育心理学 2 1~
総合的な学習の時間の指導法 1 2~
教育制度論 2 2~
教育課程論 2 2~
道徳教育の理論と方法 2 2~
特別活動論 2 2~
教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む) 2 2~

生徒・進路指導 2 3~

教職実践演習(中等) 2 4
福祉とボランティア 2 1~
人権と教育 2 2~
教職・保育職教養講義I 2 3~
教職・保育職教養講義II 2 3~
教職・保育職教養講義III 2 3~
教職・保育職教養講義IV 2 4
学校等体験活動 1 1~
体育理論 2 1~
生涯学習概論I 2 1~
図書館概論 2 1~
図書館情報資源概論 2 2~
図書館制度・経営論 2 2~

専門教育科目

88単位以上

必修 26単位

1回生/16単位

心理学概論 2 前
心理学実験演習I(心理学実験I) 2 前
自己表現研究I 2 前

総論心理学概説 2 後
心理学実験演習II(心理学実験II) 2 後
心理学研究法I 2 後
心理学研究法II 2 後
臨床心理学概論 2 後

2回生/10単位

社会・集団・家族心理学I 2 前
発達心理学I 2 前
学習・言語心理学 2 前
健康・医療心理学 2 前
心理的アセスメントI 2 後

選択必修 62単位 (選択必修のうち、共通領域、臨床心理学領域、社会・産業心理学領域、発達・教育心理学領域、行動・脳科学領域、健康・福祉心理学領域より、52単位以上を含むこと)

※ [指定] と付いた科目は「履修指定科目」です。必修科目ではありませんが、総合心理学科の方針のために履修が強く推奨されており、原則として削除することはできません。

共通領域

●1回生

自己表現研究II [指定] 2 後

●2回生

心理実践講義 [指定] 2 前
心理学史 2 前
心理学統計法II 2 前
総合心理学基礎研究I [指定] 2 前
心理実践演習 2 後
心理学データ解析 [指定] 2 後
社会調査法(社会心理調査) 2 後
総合心理学基礎研究II [指定] 2 後

●3回生

心理的アセスメントII 2 前
心理学研究法II 2 前
心理学統計法III(多変量解析) 2 前
心理データサイエンス演習I 2 前
心理データサイエンス演習II 2 前
卒業研究I [指定] 2 前
英書講読 2 後
卒業研究II [指定] 2 後

●4回生

卒業研究III [指定] 2 前
卒業研究IV [指定] 2 後

臨床心理学領域

●1回生

パーソナリティ心理学 2 後
公認心理師の職業 2 後

●2回生

カウンセリング 2 前
対人援助論 2 前
コミュニティ心理学 2 前
関係行政論 2 後
総合心理演習I 2 後

●3回生

心理学的支援法 2 前
異常心理学 2 前
司法・犯罪心理学 2 後
心理演習 2 後

●4回生

心理実習 2 通

社会・産業心理学領域

●2回生

産業・組織心理学 2 前
社会・集団・家族心理学II 2 前
チームワークの心理学 2 後
消費者行動論 2 後
総合心理演習II 2 後

●3回生

広告と消費の心理学 2 前
環境心理学 2 前
マーケティング調査演習 2 後
コーチング心理学 2 後

発達・教育心理学領域

●2回生

発達心理学II 2 後
教育・学校心理学 2 後
総合心理演習III 2 後

●3回生

発達臨床心理学 2 前

行動・脳科学領域

●2回生

感情・人格心理学 2 前
実験心理学 2 前
知覚・認知心理学 2 後
行動分析学 2 後
総合心理演習IV 2 後

●3回生

こころの脳科学 2 前
神経・生体心理学 2 前

健康・福祉心理学領域

●1回生

人体の構造と機能及び疾病 2 後

●2回生

福祉心理学 2 後
総合心理演習V 2 後

●3回生

障害者・障害児心理学 2 前
メンタルヘルス・マネジメント 2 前
医療と生命の倫理 2 後
精神疾患とその治療 2 後

専門関連領域

●専門関連科目群

法学概論I 2 1~
法学概論II 2 1~
政治学概論I 2 1~
政治学概論II 2 1~
社会学概論I 2 1~
社会学概論II 2 1~

●経済学概論

経済学概論I 2 1~
経済学概論II 2 1~
哲学概論 2 1~
倫理学概論 2 1~
宗教学概論 2 2~

●クロスオーバー科目群

経済心理学 2 3~
行動経済学 2 3~
マーケティング入門I 2 2~
広告とマスメディア 2 2~
マーケティングコミュニケーション 2 3~
特別支援教育論 1 2~

こども理解I(幼児) 2 3~
こども理解II(児童) 2 3~
教育相談 2 2~
コンピュータシステム概論 2 2~
プログラミング演習I 2 2~
プログラミング演習II 2 2~

2025年度生用 経済学部 経済学科 カリキュラム表

1. 共通教育科目

必修 たちばなSeeds・多文化交流科目群・キャリア形成科目群より12単位

たちばなSeeds / 6単位

科目名	単位数	区分
たちばなBasis I	2	1~
たちばなBasis II	2	1~
ITリテラシー	1	1~
データサイエンス基礎	1	1~

多文化交流科目群 / 4単位

科目名	単位数	区分
英語 I A	1	1~
英語 I B	1	1~
英語 II A	1	1~
英語 II B	1	1~

キャリア形成科目群 / 2単位

科目名	単位数	区分
キャリアデザイン科目	2	1~
キャリア開発演習 I	2	1~

選択必修 たちばなSeeds・教養教育科目群・多文化交流科目群・キャリア形成科目群・スポーツ・健康科目群から18単位以上

たちばなSeeds

科目名	単位数	区分
シンキングスキル	2	1~
プレゼンテーションスキル	2	1~
ライティング基礎	2	1~
データサイエンス応用	2	2~

教養教育科目群

科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分
●人間を理解する			●社会を生きる			●自然科学にふれる		
現代日本の思想	2	1~	日本国憲法	2	1~	数学的思考を身につける	2	1~
日本人と宗教	2	1~	民法	2	1~	生活の中の化学	2	1~
文学から人生を考える	2	1~	日常生活と法	2	1~	地球の環境と自然	2	1~
芸術と文化	2	1~	情報技術の歴史と展開	2	1~	日本の伝統的建築と庭園	2	1~
現代のメディアと表現	2	1~	私たちのくらしと行政	2	1~	くすりのサイエンス	1	1~
京都の歴史・文化 I	2	1~	時事問題にふれる	2	1~	くらしの中の看護	1	1~
京都の歴史・文化 II	2	1~	日本と国際社会	2	1~	子どもの発達支援とこころの健康	1	1~
言語コミュニケーション論	2	1~	くらしと経済	2	1~	生活支援技術と社会参加	1	1~
ジェンダーとダイバーシティ	2	1~	家族の機能に生きる心のはたらき	1	1~	ヒトの身体と栄養の科学	2	1~
哲学概論	2	1~	ビジネスの心理	2	1~	数学基礎 I	2	1~
倫理学概論	2	1~	食と農から社会を考える	2	1~	数学基礎 II	2	1~
宗教学概論	2	1~	法学概論 I	2	1~	物理学基礎	2	1~
芸術学概論	2	1~	法学概論 II	2	1~	化学基礎	2	1~
比較文化論	2	1~	政治学概論 I	2	1~	生物学基礎	2	1~
言語学概論	2	1~	政治学概論 II	2	1~	生物多様性概論	2	1~
文化人類学	2	1~	情報社会学	2	1~	地理学概論	2	1~
歴史学概論	2	1~	国際関係入門	2	1~	AI概論	2	1~
異文化コミュニケーション論	2	1~	経済学概論 I	2	1~	住居学概論	2	1~
人間を考える	2	2~	経済学概論 II	2	1~	自然科学で考える	2	2~
			経営学概論	2	1~			
			会計学概論	2	1~			
			社会学概論 I	2	1~			
			社会学概論 II	2	1~			
			心理学入門	2	1~			
			社会を考える	2	2~			

多文化交流科目群

科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分
●外国語科目			●多文化交流実践科目					
英語 III A	1	2~	異文化交流演習 I	2	2~			
英語 III B	1	2~	異文化交流演習 II	2	3~			
英語 IV A	1	2~	外国語圏地演習 I	2	1~			
英語 IV B	1	2~	外国語圏地演習 II	2	1~			
中国語入門 I	2	1~	多文化協働ワークショップ I	2	1~			
中国語入門 II	2	1~	多文化協働ワークショップ II	2	2~			
中国語会話 I	2	1~	日本語 I	2	1~			
中国語会話 II	2	1~	日本語 II	2	1~			
韓国語入門 I	2	1~	日本語 III	2	2~			
韓国語入門 II	2	1~	日本語 IV	2	2~			

キャリア形成科目群

科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分
●キャリアデザイン科目			●資格取得支援科目					
キャリア開発リテラシー基礎	2	1~	教職入門	2	1~	東洋史概説 I	2	1~
キャリア開発演習 I	2	1~	教育原論	2	1~	西洋史概説 I	2	1~
キャリア開発演習 II	2	2~	教育心理学	2	1~	医療概論	2	1~
キャリア開発演習 III	2	2~	特別支援教育論	1	2~	解剖生理学	2	1~
キャリア開発演習 IV	2	2~	総合的な学習の時間の指導法	1	2~	診療情報管理論 I	2	2~
キャリア開発演習 V	2	3~	教育相談	2	2~	診療情報管理論 II	2	2~
新時代のキャリア開発	2	4	教育制度論	2	2~	臨床医学 I	2	2~
キャリア開発発展プロジェクト I	2	1~	教育課程論	2	2~	臨床医学 II	2	2~
キャリア開発発展プロジェクト II	2	1~	遠隔教育の理論と方法	2	2~	臨床医学 III	2	2~
キャリア開発発展プロジェクト III	2	1~	特別活動論	2	2~	臨床医学 IV	2	2~
キャリア開発発展プロジェクト IV	2	1~	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2	2~	臨床医学 V	2	2~
			生徒・進路指導	2	3~	臨床医学総論	2	3~
			教職実践演習(中等)	2	4	病院実務実習	1	3~
			就業体験実習 I	2	1~	国際統計分類	4	3~
			就業体験実習 II	2	2~			
			就業体験実習 III(長期インターンシップ)	2	3~			
			クロスオーバー型課題解決プロジェクト	2	3~			
			海外就業体験実習 I	2	2~			
			海外就業体験実習 II	2	2~			

スポーツ・健康科目群

科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分
健康に生きる	2	1~	スポーツコース II	1	1~
スポーツコース I	1	1~	健康と運動の科学	2	1~
			ストレス科学概説	1	1~

30 単位以上

2. 専門教育科目

78 単位以上

必修 演習科目群・基礎科目群より26単位

演習科目群 / 16単位

科目名	単位数	区分
アカデミックスキル I	2	1~
アカデミックスキル II	2	1~
プロジェクトマネジメント	2	2~

基礎科目群 / 10単位

科目名	単位数	区分
プロジェクト演習 I	2	2~
プロジェクト演習 II	2	3~
プロジェクト演習 III	2	3~
プロジェクト演習 IV	2	4
プロジェクト演習 V	2	4

基礎科目群 / 10単位

科目名	単位数	区分
経済を読む I	2	1~
経済を読む II	2	1~
経済学入門 I	2	1~
経済学入門 II	2	1~
データサイエンス I	2	2~

選択必修 演習科目群・基礎科目群・基幹科目群・展開科目群・専門関連科目群・クロスオーバー科目群より52単位以上

演習科目群

科目名	単位数	区分
卒業研究	4	4

基幹科目群

科目名	単位数	区分
ミクロ経済学	2	1~
応用ミクロ経済学	2	2~
マクロ経済学	2	1~
応用マクロ経済学	2	2~
経済政策論	2	2~
観光学	2	2~
非営利経済論	2	2~
労働経済論	2	2~
公共政策論	2	2~

基幹科目群

科目名	単位数	区分
財政学	2	2~
経済学史	2	2~
経済史	2	2~
計量経済学	2	2~
金融論	2	2~
地域経済論	2	2~
日本経済論	2	2~
グローバル経済論	2	2~
産業論	2	2~

展開科目群

科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分
●食・産業			●地域・国際			●公共経済・政策		
国際金融論	2	2~	地域政策論	2	2~	租税論	2	2~
地域金融論	2	3~	中小企業論	2	2~	地方自治論	2	2~
証券市場論	2	3~	開発経済論	2	3~	自治体経営論	2	3~
コーポレート・ファイナンス	2	3~	貿易論	2	3~	政策過程論	2	3~
			都市政策論	2	3~	地方行政論	2	3~
			国際経済論	2	3~	政策評価論	2	3~
			食料経済論	2	3~	環境政策論	2	3~
			行動経済学	2	3~			
			産業政策論	2	3~			

専門関連科目群

科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分
実践英語演習	2	2~	医療管理論 I	2	1~
現代経済演習 I	2	1~	医療管理論 II	2	2~
現代経済演習 II	2	1~	医療管理論 III	2	2~
現代経済演習 III	2	2~	保健医療情報学	2	2~
現代経済演習 IV	2	2~	簿記 I	2	1~
現代経済演習 V	2	3~	簿記 II	2	1~
現代経済演習 VI	2	3~	地誌	2	2~
医療統計学	2	1~	現代の経済と社会	2	1~

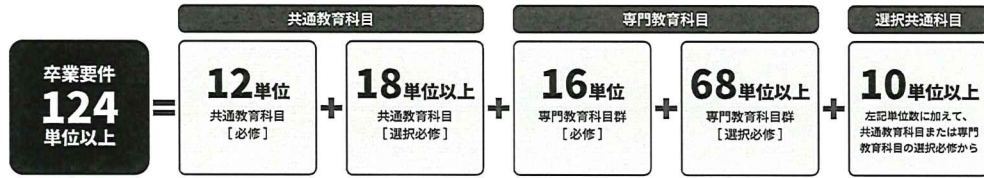
クロスオーバー科目群

科目名	単位数	区分	科目名	単位数	区分
国際日本文化講義 I	2	2~	コンピュータシステム概論	2	2~
国際日本文化講義 II	2	2~	プログラミング演習 I	2	2~
会社法	2	2~	プログラミング演習 II	2	2~
地域経営論	2	2~	コンピュータネットワーク I	2	2~
管理会計論	2	2~	情報セキュリティ I	2	2~
労働法	2	3~	保険論	2	2~
税法	2	3~	グローバル・マーケティング	2	2~



※ 過隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

2025年度生用 経営学部 経営学科 経営学専攻 カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修 たちばなSeeds・多文化交流科目群・キャリア形成科目群より12単位

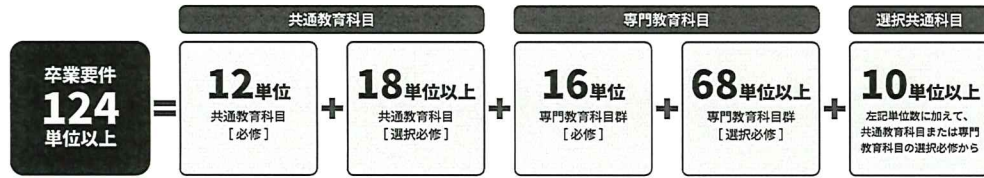
たちばなSeeds/6単位		多文化交流科目群/4単位		キャリア形成科目群/2単位	
たちばなBasis I	2 1~	英語 I A	1 1~	●キャリアデザイン科目	単位 単位
たちばなBasis II	2 1~	英語 I B	1 1~	キャリア開発演習 I	2 1~
ITリテラシー	1 1~	英語 II A	1 1~		
データサイエンス基礎	1 1~	英語 II B	1 1~		

選択必修 たちばなSeeds・教養教育科目群・多文化交流科目群・キャリア形成科目群・スポーツ・健康科目群から18単位以上

たちばなSeeds		教養教育科目群				多文化交流科目群	
シンキングスキル	2 1~	●人間を理解する	単位 単位	●社会を生きる	単位 単位	●外国語科目	単位 単位
プレゼンテーションスキル	2 1~	現代日本の思想	2 1~	現代日本の思想	2 1~	英語 III A	1 2~
ライティング基礎	2 1~	日本人と宗教	2 1~	民法	2 1~	英語 III B	1 2~
データサイエンス応用	2 2~	文学から人生を考える	2 1~	日常生活と法	2 1~	英語 IV A	2 1~
		芸術と文化	2 1~	情報技術の歴史と未来	2 1~	英語 IV B	1 2~
		現代のメディアと表現	2 1~	私たちのくらしと行政	1 1~	中国語入門 I	2 1~
		京都の歴史・文化 I	2 1~	くらしの中の看護	1 1~	中国語入門 II	2 1~
		京都の歴史・文化 II	2 1~	日本と国際社会	2 1~	中国語会話 I	2 1~
		言語コミュニケーション論	2 1~	くらしと経済	2 1~	中国語会話 II	2 1~
		ジェンダーとダイバーシティ	2 1~	最新の最先端に生きる心のはたらき	1 1~	韓国語入門 I	2 1~
		哲学概論	2 1~	ビジネスの心理	2 1~	韓国語入門 II	2 1~
		倫理学概論	2 1~	数字基礎 I	2 1~	韓国語会話 I	2 1~
		宗教学概論	2 1~	数字基礎 II	2 1~	韓国語会話 II	2 1~
		芸術学概論	2 1~	物理学基礎	2 1~		
		比較文化論	2 1~	化学基礎	2 1~		
		言語学概論	2 1~	生物学基礎	2 1~		
		文化人類学	2 1~	生物多様性理論	2 1~		
		歴史学概論	2 1~	地理学概論	2 1~		
		異文化コミュニケーション論	2 1~	AI概論	2 1~		
		人間を考える	2 2~	住居学概論	2 1~		
				自然科学で考える	2 2~		

キャリア形成科目群				スポーツ・健康科目群			
●キャリアデザイン科目	単位 単位	●資格取得支援科目	単位 単位	健康に生きる	単位 単位	●東洋史概説 I	2 1~
キャリア開発リテラシー基礎	2 1~	教職入門	2 1~	スポーツコース I	1 1~	●西史概説 I	2 1~
キャリア開発演習 II	2 1~	教育実論	2 1~	スポーツコース II	1 1~	医療概論	2 1~
キャリア開発演習 III	2 2~	教育心理学	2 1~	健康と運動の科学	2 1~	解剖生理学	2 1~
キャリア開発演習 IV	2 2~	特別支援教育論	1 2~	生涯学習概論 I	2 2~	診療情報管理論 I	2 2~
キャリア開発演習 V	2 3~	総合的な学習の時間の指導法	1 2~	図書館概論	2 1~	診療情報管理論 II	2 2~
新時代のキャリア開発	2 4	教育相談	2 2~	図書館情報学概論	2 2~	臨床医学 I	2 2~
キャリア開発演習プロジェクト I	2 1~	教育実論 II	2 2~	図書館実践・経営論	2 2~	臨床医学 II	2 2~
キャリア開発演習プロジェクト II	2 1~	教育課程論	2 2~	博物館学概論	2 1~	臨床医学 III	2 2~
キャリア開発演習プロジェクト III	2 1~	道徳教育の理論と方法	2 2~	博物館学 II	2 1~	臨床医学 IV	2 2~
キャリア開発演習プロジェクト IV	2 1~	特別活動論	2 2~	博物館学 III	2 1~	臨床医学 V	2 2~
		特別活動 II	2 2~	博物館学 IV	2 2~	臨床医学 VI	2 2~
		特別活動 III	2 2~	博物館学 V	2 2~	臨床医学 VII	2 2~
		特別活動 IV	2 2~	博物館学 VI	2 2~	臨床医学 VIII	2 2~
		特別活動 V	2 2~	博物館学 VII	2 2~	臨床医学 IX	2 2~
		特別活動 VI	2 2~	博物館学 VIII	2 2~	臨床医学 X	2 2~
		特別活動 VII	2 2~	博物館学 IX	2 2~	臨床医学 XI	2 2~
		特別活動 VIII	2 2~	博物館学 X	2 2~	臨床医学 XII	2 2~
		特別活動 IX	2 2~	博物館学 XI	2 2~	臨床医学 XIII	2 2~
		特別活動 X	2 2~	博物館学 XII	2 2~	臨床医学 XIV	2 2~
		特別活動 XI	2 2~	博物館学 XIII	2 2~	臨床医学 XV	2 2~
		特別活動 XII	2 2~	博物館学 XIV	2 2~	臨床医学 XVI	2 2~
		特別活動 XIII	2 2~	博物館学 XV	2 2~	臨床医学 XVII	2 2~
		特別活動 XIV	2 2~	博物館学 XVI	2 2~	臨床医学 XVIII	2 2~
		特別活動 XV	2 2~	博物館学 XVII	2 2~	臨床医学 XIX	2 2~
		特別活動 XVI	2 2~	博物館学 XVIII	2 2~	臨床医学 XX	2 2~
		特別活動 XVII	2 2~	博物館学 XIX	2 2~	臨床医学 XXI	2 2~
		特別活動 XVIII	2 2~	博物館学 XX	2 2~	臨床医学 XXII	2 2~
		特別活動 XIX	2 2~	博物館学 XXI	2 2~	臨床医学 XXIII	2 2~
		特別活動 XX	2 2~	博物館学 XXII	2 2~	臨床医学 XXIV	2 2~
		特別活動 XXI	2 2~	博物館学 XXIII	2 2~	臨床医学 XXV	2 2~
		特別活動 XXII	2 2~	博物館学 XXIV	2 2~	臨床医学 XXVI	2 2~
		特別活動 XXIII	2 2~	博物館学 XXV	2 2~	臨床医学 XXVII	2 2~
		特別活動 XXIV	2 2~	博物館学 XXVI	2 2~	臨床医学 XXVIII	2 2~
		特別活動 XXV	2 2~	博物館学 XXVII	2 2~	臨床医学 XXIX	2 2~
		特別活動 XXVI	2 2~	博物館学 XXVIII	2 2~	臨床医学 XXX	2 2~
		特別活動 XXVII	2 2~	博物館学 XXIX	2 2~	臨床医学 XXXI	2 2~
		特別活動 XXVIII	2 2~	博物館学 XXX	2 2~	臨床医学 XXXII	2 2~
		特別活動 XXIX	2 2~	博物館学 XXXI	2 2~	臨床医学 XXXIII	2 2~
		特別活動 XXX	2 2~	博物館学 XXXII	2 2~	臨床医学 XXXIV	2 2~
		特別活動 XXXI	2 2~	博物館学 XXXIII	2 2~	臨床医学 XXXV	2 2~
		特別活動 XXXII	2 2~	博物館学 XXXIV	2 2~	臨床医学 XXXVI	2 2~
		特別活動 XXXIII	2 2~	博物館学 XXXV	2 2~	臨床医学 XXXVII	2 2~
		特別活動 XXXIV	2 2~	博物館学 XXXVI	2 2~	臨床医学 XXXVIII	2 2~
		特別活動 XXXV	2 2~	博物館学 XXXVII	2 2~	臨床医学 XXXIX	2 2~
		特別活動 XXXVI	2 2~	博物館学 XXXVIII	2 2~	臨床医学 XXXX	2 2~
		特別活動 XXXVII	2 2~	博物館学 XXXIX	2 2~	臨床医学 XXXXI	2 2~
		特別活動 XXXVIII	2 2~	博物館学 XXXX	2 2~	臨床医学 XXXXII	2 2~
		特別活動 XXXIX	2 2~	博物館学 XXXXI	2 2~	臨床医学 XXXXIII	2 2~
		特別活動 XXXX	2 2~	博物館学 XXXXII	2 2~	臨床医学 XXXXIV	2 2~
		特別活動 XXXXI	2 2~	博物館学 XXXXIII	2 2~	臨床医学 XXXXV	2 2~
		特別活動 XXXXII	2 2~	博物館学 XXXXIV	2 2~	臨床医学 XXXXVI	2 2~
		特別活動 XXXXIII	2 2~	博物館学 XXXXV	2 2~	臨床医学 XXXXVII	2 2~
		特別活動 XXXXIV	2 2~	博物館学 XXXXVI	2 2~	臨床医学 XXXXVIII	2 2~
		特別活動 XXXXV	2 2~	博物館学 XXXXVII	2 2~	臨床医学 XXXXIX	2 2~
		特別活動 XXXXVI	2 2~	博物館学 XXXXVIII	2 2~	臨床医学 XXXXX	2 2~
		特別活動 XXXXVII	2 2~	博物館学 XXXXIX	2 2~	臨床医学 XXXXXI	2 2~
		特別活動 XXXXVIII	2 2~	博物館学 XXXXX	2 2~	臨床医学 XXXXXII	2 2~
		特別活動 XXXXIX	2 2~	博物館学 XXXXXI	2 2~	臨床医学 XXXXXIII	2 2~
		特別活動 XXXXX	2 2~	博物館学 XXXXXII	2 2~	臨床医学 XXXXXIV	2 2~
		特別活動 XXXXXI	2 2~	博物館学 XXXXXIII	2 2~	臨床医学 XXXXXV	2 2~
		特別活動 XXXXXII	2 2~	博物館学 XXXXXIV	2 2~	臨床医学 XXXXXVI	2 2~
		特別活動 XXXXXIII	2 2~	博物館学 XXXXXV	2 2~	臨床医学 XXXXXVII	2 2~
		特別活動 XXXXXIV	2 2~	博物館学 XXXXXVI	2 2~	臨床医学 XXXXXVIII	2 2~
		特別活動 XXXXXV	2 2~	博物館学 XXXXXVII	2 2~	臨床医学 XXXXXIX	2 2~
		特別活動 XXXXXVI	2 2~	博物館学 XXXXXVIII	2 2~	臨床医学 XXXXXX	2 2~
		特別活動 XXXXXVII	2 2~	博物館学 XXXXXIX	2 2~	臨床医学 XXXXXI	2 2~
		特別活動 XXXXXVIII	2 2~	博物館学 XXXXXX	2 2~	臨床医学 XXXXXII	2 2~
		特別活動 XXXXXIX	2 2~	博物館学 XXXXXI	2 2~	臨床医学 XXXXXIII	2 2~
		特別活動 XXXXXX	2 2~	博物館学 XXXXXII	2 2~	臨床医学 XXXXXIV	2 2~
		特別活動 XXXXXI	2 2~	博物館学 XXXXXIII	2 2~	臨床医学 XXXXXV	2 2~
		特別活動 XXXXXII	2 2~	博物館学 XXXXXIV	2 2~	臨床医学 XXXXXVI	2 2~
		特別活動 XXXXXIII	2 2~	博物館学 XXXXXV	2 2~	臨床医学 XXXXXVII	2 2~
		特別活動 XXXXXIV	2 2~	博物館学 XXXXXVI	2 2~	臨床医学 XXXXXVIII	2 2~
		特別活動 XXXXXV	2 2~	博物館学 XXXXXVII	2 2~	臨床医学 XXXXXIX	2 2~
		特別活動 XXXXXVI	2 2~	博物館学 XXXXXVIII	2 2~	臨床医学 XXXXXX	2 2~
		特別活動 XXXXXVII	2 2~	博物館学 XXXXXIX	2 2~	臨床医学 XXXXXI	2 2~
		特別活動 XXXXXVIII	2 2~	博物館学 XXXXXX	2 2~	臨床医学 XXXXXII	2 2~
		特別活動 XXXXXIX	2 2~	博物館学 XXXXXI	2 2~	臨床医学 XXXXXIII	2 2~
		特別活動 XXXXXX	2 2~	博物館学 XXXXXII	2 2~	臨床医学 XXXXXIV	2 2~
		特別活動 XXXXXI	2 2~	博物館学 XXXXXIII	2 2~	臨床医学 XXXXXV	2 2~
		特別活動 XXXXXII	2 2~	博物館学 XXXXXIV	2 2~	臨床医学 XXXXXVI	2 2~
		特別活動 XXXXXIII	2 2~	博物館学 XXXXXV	2 2~	臨床医学 XXXXXVII	2 2~
		特別活動 XXXXXIV	2 2~	博物館学 XXXXXVI	2 2~	臨床医学 XXXXXVIII	2 2~
		特別活動 XXXXXV	2 2~	博物館学 XXXXXVII	2 2~	臨床医学 XXXXXIX	2 2~
		特別活動 XXXXXVI	2 2~	博物館学 XXXXXVIII	2 2~	臨床医学 XXXXXX	2 2~
		特別活動 XXXXXVII	2 2~	博物館学 XXXXXIX	2 2~	臨床医学 XXXXXI	2 2~
		特別活動 XXXXXVIII	2 2~	博物館学 XXXXXX	2 2~	臨床医学 XXXXXII	2 2~
		特別活動 XXXXXIX	2 2~	博物館学 XXXXXI	2 2~	臨床医学 XXXXXIII	2 2~
		特別活動 XXXXXX	2 2~	博物館学 XXXXXII	2 2~	臨床医学 XXXXXIV	2 2~
		特別活動 XXXXXI	2 2~	博物館学 XXXXXIII	2 2~	臨床医学 XXXXXV	2 2~
		特別活動 XXXXXII	2 2~	博物館学 XXXXXIV	2 2~	臨床医学 XXXXXVI	2 2~
		特別活動 XXXXXIII	2 2~	博物館学 XXXXXV	2 2~	臨床医学 XXXXXVII	2 2~
		特別活動 XXXXXIV	2 2~	博物館学 XXXXXVI	2 2~	臨床医学 XXXXXVIII	2 2~
		特別活動 XXXXXV	2 2~	博物館学 XXXXXVII	2 2~	臨床医学 XXXXXIX	2 2~
		特別活動 XXXXXVI	2 2~	博物館学 XXXXXVIII	2 2~	臨床医学 XXXXXX	2 2~
		特別活動 XXXXXVII	2 2~	博物館学 XXXXXIX	2 2~	臨床医学 XXXXXI	2 2~
		特別活動 XXXXXVIII	2 2~	博物館学 XXXXXX	2 2~	臨床医学 XXXXXII	2 2~
		特別活動 XXXXXIX	2 2~	博物館学 XXXXXI	2 2~	臨床医学 XXXXXIII	2 2~
		特別活動 XXXXXX	2 2~	博物館学 XXXXXII	2 2~	臨床医学 XXXXXIV	2 2~
		特別活動 XXXXXI	2 2~	博物館学 XXXXXIII	2 2~	臨床医学 XXXXXV	2 2~
		特別活動 XXXXXII	2 2~	博物館学 XXXXXIV	2 2~	臨床医学 XXXXXVI	2 2~
		特別活動 XXXXXIII	2 2~	博物館学 XXXXXV	2 2~	臨床医学 XXXXXVII	2 2~
		特別活動 XXXXXIV	2 2~	博物館学 XXXXXVI	2 2~	臨床医学 XXXXXVIII	2 2~
		特別活動 XXXXXV	2 2~	博物館学 XXXXXVII	2 2~	臨床医学 XXXXXIX	2 2~
		特別活動 XXXXXVI	2 2~	博物館学 XXXXXVIII	2 2~	臨床医学 XXXXXX	2 2~
		特別活動 XXXXXVII	2 2~	博物館学 XXXXXIX	2 2~	臨床医学 XXXXXI	2 2~
		特別活動 XXXXXVIII	2 2~	博物館学 XXXXXX	2 2~	臨床医学 XXXXXII	2 2~
		特別活動 XXXXXIX	2 2~	博物館学 XXXXXI	2 2~	臨床医学 XXXXXIII	2 2~
		特別活動 XXXXXX	2 2~	博物館学 XXXXXII	2 2~	臨床医学 XXXXXIV	2 2~
		特別活動 XXXXXI	2 2~	博物館学 XXXXXIII	2 2~	臨床医学 XXXXXV	2 2~
		特別活動 XXXXXII	2 2~	博物館学 XXXXXIV	2 2~	臨床医学 XXXXXVI	2 2~
		特別活動 XXXXXIII	2 2~	博物館学 XXXXXV	2 2~	臨床医学 XXXXXVII	2 2~
		特別活動 XXXXXIV	2 2~	博物館学 XXXXXVI	2 2~	臨床医学 XXXXXVIII	2 2~
		特別活動 XXXXXV	2 2~	博物館学 XXXXXVII	2 2~	臨床医学 XXXXXIX	2 2~
		特別活動 XXXXXVI	2 2~	博物館学 XXXXXVIII	2 2~	臨床医学 XXXXXX	2 2~
		特別活動 XXXXXVII	2 2~	博物館学 XXXXXIX	2 2~	臨床医学 XXXXXI	2 2~
		特別活動 XXXXXVIII	2 2~	博物館学 XXXXXX	2 2~	臨床医学 XXXXXII	2 2~
		特別活動 XXXXXIX	2 2~	博物館学 XXXXXI	2 2~	臨床医学 XXXXXIII	2 2~
		特別活動 XXXXXX	2 2~	博物館学 XXXXXII	2 2~	臨床医学 XXXXXIV	2 2~
		特別活動 XXXXXI	2 2~	博物館学 XXXXXIII	2 2~	臨床医学 XXXXXV	2 2~
		特別活動 XXXXXII	2 2~	博物館学 XXXXXIV	2 2~	臨床医学 XXXXXVI	2 2~
		特別活動 XXXXXIII	2 2~	博物館学 XXXXXV	2 2~	臨床医学 XXXXXVII	2 2~
		特別活動 XXXXXIV	2 2~	博物館学 XXXXXVI			

2025年度生用 経営学部 経営学科 スポーツ経営学専攻 カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修 たちばなSeeds・多文化交流科目群・キャリア形成科目群より12単位

たちばなSeeds / 6単位

たちばなBasis I	2	1~
たちばなBasis II	2	1~
ITリテラシー	1	1~
データサイエンス基礎	1	1~

多文化交流科目群 / 4単位

英語 I A	1	1~
英語 I B	1	1~
英語 II A	1	1~
英語 II B	1	1~

キャリア形成科目群 / 2単位

● キャリアデザイン科目	単位	回数
キャリア開発演習 I	2	1~

選択必修 たちばなSeeds・教養教育科目群・多文化交流科目群・キャリア形成科目群・スポーツ・健康科目群から18単位以上

たちばなSeeds

シンキングスキル	2	1~
プレゼンテーションスキル	2	1~
ライティング基礎	2	1~
データサイエンス応用	2	2~

教養教育科目群

● 人間を理解する	単位	回数
現代日本の思想	2	1~
日本人と宗教	2	1~
文学から人生を考える	2	1~
芸術と文化	2	1~
現代のメディアと表現	2	1~
京都の歴史・文化 I	2	1~
京都の歴史・文化 II	2	1~
言語コミュニケーション論	2	1~
ジェンダーとダイバーシティ	2	1~
哲学概論	2	1~
倫理学概論	2	1~
宗教学概論	2	1~
芸術学概論	2	1~
比較文化論	2	1~
言語学概論	2	1~
文化人類学	2	1~
歴史学概論	2	1~
異文化コミュニケーション論	2	1~
人間を考える	2	2~

多文化交流科目群

● 外国語科目	単位	回数
英語 III A	1	2~
英語 III B	1	2~
英語 IV A	1	2~
英語 IV B	1	2~
中国語入門 I	2	1~
中国語入門 II	2	1~
中国語会話 I	2	1~
中国語会話 II	2	1~
韓国語入門 I	2	1~
韓国語入門 II	2	1~
韓国語会話 I	2	1~
韓国語会話 II	2	1~
フランス語入門 I	2	1~
フランス語入門 II	2	1~
ドイツ語入門 I	2	1~
ドイツ語入門 II	2	1~

キャリア形成科目群

● キャリアデザイン科目	単位	回数
キャリア開発リテラシー基礎	2	1~
キャリア開発演習 I	2	1~
キャリア開発演習 II	2	1~
キャリア開発演習 III	2	2~
キャリア開発演習 IV	2	2~
キャリア開発演習 V	2	3~
新時代のキャリア開発	2	4
キャリア開発演習プロジェクト I	2	1~
キャリア開発演習プロジェクト II	2	1~
キャリア開発演習プロジェクト III	2	1~
キャリア開発演習プロジェクト IV	2	1~

スポーツ・健康科目群

● 資格取得支援科目	単位	回数
教職入門	2	1~
教育原論	2	1~
教育心理学	2	1~
特別支援教育論	1	2~
総合的な学習の時間の指導法	1	2~
教育相談	2	2~
教育制度論	2	2~
教育課程論	2	2~
道徳教育の理論と方法	2	2~
特別活動論	2	2~
特別活動実践(指導者向け)	2	2~
生徒・進路指導	2	2~
教職実践演習(中等)	2	4
学校等体験活動	1	1~
体育理論	2	1~
福祉とボランティア	2	1~
人権と教育	2	2~

スポーツ・健康科目群

● 資格取得支援科目	単位	回数
中級教職教養講義 I	2	2~
中級教職教養講義 II	2	2~
中級教職教養講義 III	2	3~
中級教職教養講義 IV	2	4
進路学習概論 I	2	1~
図書情報資源概論	2	2~
図書館制度・経営論	2	2~
博物館学概論	2	1~
博物館教育論	2	1~
博物館資料論	2	2~
博物館経営論	2	2~
博物館展示論	2	2~
博物館資料保存論	2	2~
博物館実習 I	1	3~
博物館実習 II	1	3~
日本史概説 I	2	1~
日本史概説 II	2	1~

30 単位以上

2. 専門教育科目

必修 演習科目群より16単位

演習科目群 / 16単位	
アカデミックスキル I	2 1~
アカデミックスキル II	2 1~
プロジェクトマネジメント	2 2~
プロジェクト演習 I	2 2~
プロジェクト演習 II	2 3~
プロジェクト演習 III	2 3~
プロジェクト演習 IV	2 4
プロジェクト演習 V	2 4

選択必修 演習科目群・スキル科目群・基礎科目群・領域科目群・クロスオーバー科目群より68単位以上 (スキル科目群より6単位以上、基礎科目群より10単位以上、スポーツマネジメント領域より26単位以上を含む。)

スキル科目群・基礎科目群を中心に、一部の科目は履修指定科目となっています。必修科目ではありませんが、経営学科のカリキュラム上履修を推奨しており、削除することはできません。詳細は別途ガイダンスや履修登録関係の資料等で確認ください。

演習科目群		スキル科目群 / 6単位以上		基礎科目群 / 10単位以上	
卒業研究	4 4	統計学基礎	2 1~	経営学入門	2 1~
		社会調査法	2 1~	経済学入門	2 1~
		データサイエンス I	2 2~	簿記入門	2 1~
		データサイエンス II	2 2~	会計学入門	2 1~
		ビジネス英語 I	2 2~	金融入門	2 1~
		ビジネス英語 II	2 2~	マーケティング入門 I	2 1~
				経営組織論 I	2 1~
				経営戦略論 I	2 1~

領域科目群	
● 会計・ファイナンス領域	単位 回数
財務会計論	2 2~
会社法	2 2~
初級簿記	2 2~
中級簿記	2 2~
上級簿記	2 3~
金融論	2 2~
税法	2 3~
● マーケティング・イノベーション領域	単位 回数
マーケティング入門 II	2 2~
マーケティング・リサーチ I	2 2~
アントレプレナーシップ I	2 2~
ビジネス環境とマーケティング	2 2~
グローバル・マーケティング	2 3~
サステナビリティとコミュニケーション	2 3~
デジタル・マーケティング	2 3~
知的財産マネジメント	2 3~
● 戦略・組織領域	単位 回数
現代企業論 I	2 2~
現代企業論 II	2 2~
経営組織論 I	2 2~
経営戦略論 II	2 2~
経営史	2 2~
人的資源管理論	2 2~
中小企業論	2 2~
グローバル経営論 I	2 2~
グローバル経営論 II	2 3~
● スポーツマネジメント領域 / 26単位以上	単位 回数
スポーツマネジメント入門	2 1~
スポーツと社会	2 1~
スポーツマネジメント論	2 2~
スポーツマーケティング	2 2~
スポーツとメディア	2 2~
スポーツ行政論	2 2~
スポーツと流通	2 2~
コーティング論	2 2~
生涯スポーツ論	2 2~
スポーツツーリズム	2 2~
スポーツとヘルスケア	2 3~
スポーツプロダクト論	2 3~
スポーツクラブ経営論	2 3~
スポーツイベントマネジメント	2 3~
スポーツとテックノロジー	2 3~
スポーツプロダクト演習	2 3~
スポーツマネジメント・ケーススタディ	2 3~
スポーツマネジメント・フィールドワーク	2 3~

専門関連科目群

実践英語演習	2 2~
ビジネス演習 I	2 1~
ビジネス演習 II	2 1~
ビジネス演習 III	2 2~
ビジネス演習 IV	2 2~
ビジネス演習 V	2 3~
ビジネス演習 VI	2 3~
地誌	2 2~

クロスオーバー科目群

地域経済論	2 2~	● コンピュータシステム概論	2 2~
租税論	2 2~	● プログラミング演習 I	2 2~
自治体経営論	2 2~	● プログラミング演習 II	2 2~
医療政策論	2 2~	● コンピュータネットワーク I	2 2~
医療事務研究 I	2 2~	● 情報セキュリティ I	2 2~
医療事務研究 II	2 2~	● 国際日本文化講義 I	2 2~
スポーツ経済論	2 3~	● 国際日本文化講義 II	2 2~
観光地理情報	2 3~		

84 単位以上

2025年度生用 看護学部 看護学科 カリキュラム表



※ 通病授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

必修 9単位

たちばなSeeds / 5単位

科目名	単位	回生
たちばなBasis I	2	1~
たちばなBasis II	2	1~
ITリテラシー	1	1~

多文化交流科目群 / 4単位

科目名	単位	回生
英語 I A	1	1~
英語 I B	1	1~
英語 II A	1	1~
英語 II B	1	1~

選択必修 15単位以上

たちばなSeeds

科目名	単位	回生
シンキングスキル	2	1~
プレゼンテーションスキル	2	1~
ライティング基礎	2	1~
データサイエンス基礎	1	1~
データサイエンス応用	2	2~

教養教育科目群

科目名	単位	回生	科目名	単位	回生
●人間を理解する			●社会を生きる		
現代日本の思想	2	1~	日本国憲法	2	1~
日本人と宗教	2	1~	民法	2	1~
文学から人生を考える	2	1~	日常生活と法	2	1~
芸術と文化	2	1~	情報技術の歴史と展開	2	1~
現代のメディアと表現	2	1~	地球の環境と自然	2	1~
京都の歴史・文化 I	2	1~	日本の伝統的建築と庭園	2	1~
京都の歴史・文化 II	2	1~	くすりのサイエンス	1	1~
言語コミュニケーション論	2	1~	くらしの中の看護	2	1~
ジェンダーとダイバーシティ	2	1~	私たちのくらしと行政	2	1~
哲学概論	2	1~	時事問題にふれる	2	1~
倫理学概論	2	1~	日本と国際社会	2	1~
宗教学概論	2	1~	くらしと経済	2	1~
芸術学概論	2	1~	家族の機能に生きている心のはたらき	1	1~
比較文化論	2	1~	ビジネスの心理	2	1~
言語学概論	2	1~	食と農から社会を考える	2	1~
文化人類学	2	1~	法学概論 I	2	1~
歴史学概論	2	1~	法学概論 II	2	1~
異文化コミュニケーション論	2	1~	政治学概論 I	2	1~
人間を考える	2	2~	政治学概論 II	2	1~
			政治学概論 III	2	1~
			情報社会学	2	1~
			国際関係入門	2	1~
			経済学概論 I	2	1~
			経済学概論 II	2	1~
			経営学概論	2	1~
			会計学概論	2	1~
			社会学概論 I	2	1~
			社会学概論 II	2	1~
			心理学入門	2	1~
			社会学を考える	2	2~
			自然科学で考える	2	2~

多文化交流科目群

科目名	単位	回生	科目名	単位	回生
●外国語科目			●多文化交流実践科目		
英語 IIIA	1	2~	異文化交流演習 I	2	2~
英語 IIIB	1	2~	異文化交流演習 II	2	3~
英語 IVA	1	2~	外国語圏地演習 I	2	1~
英語 IVB	1	2~	外国語圏地演習 II	2	1~
中国語入門 I	2	1~	多文化協働ワークショップ I	2	1~
中国語入門 II	2	1~	多文化協働ワークショップ II	2	2~
中国語会話 I	2	1~			
中国語会話 II	2	1~			

キャリア形成科目群

科目名	単位	回生	科目名	単位	回生
●キャリアデザイン科目			●産学公連携科目		
キャリア開発リテラシー基礎	2	1~	就業体験準備実習	2	1~
新時代のキャリア開発	2	4	就業体験実習 I	2	2~
キャリア開発発展プロジェクト I	2	1~	就業体験実習 II (長期インターンシップ)	2	3~
キャリア開発発展プロジェクト II	2	1~	クロスオーバー型課題解決プロジェクト	2	2~
キャリア開発発展プロジェクト III	2	1~	海外就業体験実習 I	2	2~
キャリア開発発展プロジェクト IV	2	1~	海外就業体験実習 II	2	2~

スポーツ・健康科目群

科目名	単位	回生	科目名	単位	回生
●資格取得支援科目			健康に生きる	2	1~
教育原論	2	1~	スポーツコース I	1	1~
教職入門	2	1~	スポーツコース II	1	1~
教育心理学	2	1~	健康と運動の科学	2	1~
道徳教育の理論と方法	2	1~	ストレス科学概論	1	1~
体育理論	2	1~			

2. 専門教育科目

必修

区分1 / 6単位	区分2 / 9単位	区分3 / 5単位
キャリア開発演習 I	災害看護学 I	家族看護学
キャリア開発演習 II	国際看護学 I	対人ネットワーク論
キャリア開発演習 III	プライマリヘルスケア I	ライフサイクル論
キャリア開発演習 IV	プライマリヘルスケア II	生涯健やか看護学実習 II-1 (通所)
IPW演習 I	プライマリヘルスケア III	

区分4 / 13単位

科目名	単位	回生
医療と生命の倫理	1	1
フィジカルアセスメント I	4	1
フィジカルアセスメント II	4	1
フィジカルアセスメント演習 I	1	1
フィジカルアセスメント演習 II	1	1
ライフサイクル疾病論	2	2

区分5 / 7単位

科目名	単位	回生
看護創造論 I	1	2
看護創造論 II	1	4
キャリア開発演習 V	1	3
キャリア開発演習 VI	1	3
疫学保健統計	1	1
統計学基礎論	2	1

区分6 / 3単位

科目名	単位	回生
看護管理学 I	2	3
看護倫理	1	3

区分7 / 16単位

科目名	単位	回生
プライマリヘルスケア演習	1	2
生涯健やか看護学	2	3
生涯健やか看護学演習	1	3
生涯健やか看護学実習 I	1	1
生涯健やか看護学実習 II-2 (施設)	2	2
生涯健やか看護学実習 III-1 (訪看)	4	3
生涯健やか看護学実習 III-2 (訪看)	2	3
生涯健やか看護学実習 III-3 (母性)	2	3
生涯健やか看護学実習 III-4 (包括)	1	3

区分8 / 27単位

科目名	単位	回生
健康回復看護学 I	4	2
健康回復看護学 II	4	2
健康回復看護学 III	2	3
ヘルスクライシス疾病論	4	3
健康回復看護学演習 I	2	2
健康回復看護学演習 II (訪看)	2	2
健康回復看護学演習 III	2	3
健康回復看護学実習 II (病院)	2	2
健康回復看護学実習 II-1 (急性期)	2	3
健康回復看護学実習 II-2 (こども)	2	3
健康回復看護学実習 II-3 (こころ)	1	3

区分9 / 12単位

科目名	単位	回生
看護学原論 I	1	1
看護学原論 II	1	2
看護学原論 III	1	4
看護教育学 I	2	3
総合看護学実習	3	4
エンドオブライフケア論	1	4
キャリア開発演習 VII	1	4
キャリア開発演習 VIII	1	4
IPW演習 II	1	4

選択必修

区分6-9 / 2単位

科目名	単位	回生
看護管理学 II A	2	4
看護管理学 II B	2	4
国際看護学 II	2	4
看護教育学 II	2	4

自由科目

区分1	区分3	区分5	区分6
医学概論	臨床心理学	公衆衛生学	災害看護学 II
2	2	1	1
			医療リスクマネジメント
			1

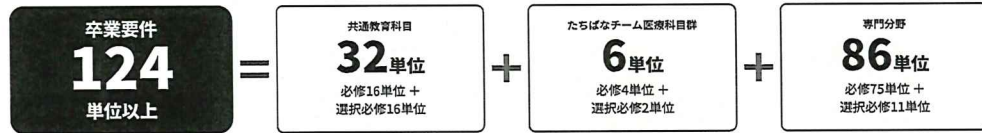
●助産師関連科目群 (自由科目)

区分8 / 自由科目	区分9 / 自由科目
助産診断学	助産学実習
4	8
助産技術学	
4	4

●保健師関連科目群 (自由科目)

区分7 / 自由科目	区分9 / 自由科目
生涯健やか事業構想論	生涯健やか事業展開実習
2	3
4	4

2025年度生用 健康科学部 救急救命学科 カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目群

必修 16単位

たちばなSeeds

科目名	単	回
たちばなBasic I	2	1
たちばなBasic II	2	1
ITリテラシー	1	1
データサイエンス基礎	1	1

多文化交流科目群

科目名	単	回
●外国語科目		
英語 I A	1	1
英語 I B	1	1
英語 II A	1	1
英語 II B	1	1

キャリア形成科目群

科目名	単	回
●キャリアデザイン科目		
キャリア開発演習 I	1	1
キャリア開発演習 II	1	2
キャリア開発演習 III	1	3
キャリア開発演習 IV	1	2
キャリア開発演習 V	1	3
キャリア開発演習 VI	1	4

選択必修 下記科目から16単位 共通教育科目・教養教育科目群の「人間を理解する」「社会を生きる」「自然科学にふれる」および「スポーツ・健康科目群」からそれぞれ2単位以上修得

たちばなSeeds

科目名	単	回
シンキングスキル	2	1
プレゼンテーションスキル	2	1
ライティング基礎	2	1
データサイエンス応用	2	2

教養教育科目群

科目名	単	回
●人間を理解する		
現代日本の思想	2	1
日本人と宗教	2	1
文学から人生を考える	2	1
芸術と文化	2	1
現代のメディアと表現	2	1
京都の歴史・文化 I	2	1
京都の歴史・文化 II	2	1
言語コミュニケーション論	2	1
ジェンダーとダイバーシティ	2	1
哲学概論	2	1
倫理学概論	2	1
宗教学概論	2	1
芸術学概論	2	1
比較文化論	2	1
言語学概論	2	1
文化人類学	2	1
歴史学概論	2	1
異文化コミュニケーション論	2	1
人間を考える	2	2
●社会を生きる		
日本国憲法	2	1
民法	2	1
日常生活と法	2	1
情報技術の歴史と展開	2	1
私たちの暮らしと行政	2	1
時事問題にふれる	2	1
日本と国際社会	2	1
くらしと経済	2	1
読者の眼に生きる心のはたらき	1	1
ビジネスの心構え	2	1
食と農から社会を考える	2	1
法学概論 I	2	1
法学概論 II	2	1
政治学概論 I	2	1
政治学概論 II	2	1
情報社会論	2	1
国際関係入門	2	1
経済学概論 I	2	1
経済学概論 II	2	1
●自然科学にふれる		
数学的思考を身につける	2	1
生活の中の化学	2	1
地球の環境と自然	2	1
日本の伝統的建築と庭園	2	1
くすりのサイエンス	1	1
くらしの中の看護	1	1
こどもの発達とそこからの看護	1	1
生活支援技術と社会参加	1	1
ヒトの身体と栄養の科学	2	1
数学基礎 I	2	1
数学基礎 II	2	1
物理学基礎	2	1
化学基礎	2	1
生物学基礎	2	1
生物多様性概論	2	1
地理学概論	2	1
AI概論	2	1
住居学概論	2	1
自然科学で考える	2	2

多文化交流科目群

科目名	単	回
●外国語科目		
英語 IIIA	1	2
英語 III B	1	2
英語 IV A	1	2
英語 IV B	1	2
中国語入門 I	2	1
中国語入門 II	2	1
中国語会話 I	2	1
中国語会話 II	2	1
韓国語入門 I	2	1
韓国語入門 II	2	1
韓国語会話 I	2	1
韓国語会話 II	2	1
フランス語入門 I	2	1
フランス語入門 II	2	1
ドイツ語入門 I	2	1
ドイツ語入門 II	2	1
●多文化交流実践科目		
異文化交流演習 I	2	2
異文化交流演習 II	2	3
外国語圏地演習 I	2	1
外国語圏地演習 II	2	1
多文化協働ワークショップ I	2	1
多文化協働ワークショップ II	2	2

キャリア形成科目群

科目名	単	回
●キャリアデザイン科目		
キャリア開発リテラシー基礎	2	1
新時代のキャリア開発	2	4
キャリア開発発展プロジェクト I	2	1
キャリア開発発展プロジェクト II	2	1
キャリア開発発展プロジェクト III	2	1
キャリア開発発展プロジェクト IV	2	1

産学連携科目群

科目名	単	回
●産学連携科目		
就業体験準備実習	2	1
就業体験実習 I	2	2
就業体験実習 II (長期インターンシップ)	2	3
クロスオーバー型課題解決プロジェクト	2	2
海外就業体験実習 I	2	2
海外就業体験実習 II	2	2

資格取得支援科目 (自由科目)

科目名	単	回
救急救命将来講座 I	1	2
救急救命将来講座 II	1	2

みなさんの就職のために非常に重要な科目ですので、卒業するための単位を計画的に修得していきながら、キャリア関連科目を受講していただくこと。
※ これらの科目は要卒科目には含まれていませんので、卒業に必要な124単位には加算されません。
※ キャリア関連科目は他の他にもあります。毎年度の開講科目と内容をシラバス等で確認しながら、受講してください。

スポーツ・健康科目群

科目名	単	回
●スポーツ・健康科目群		
健康に生きる	2	1
スポーツコース I	1	1
スポーツコース II	1	1
健康と運動の科学	2	1
ストレッチ学概論	1	1

2. たちばなチーム医療科目群

必修 4単位

科目名	単	回
医療と生命の倫理	1	1
IPW演習 I	2	1
IPW演習 II	1	4

選択必修 下記科目から2単位

科目名	単	回
医療リスクマネジメント	1	1
医学概論	2	1
臨床心理学	2	2
統計学基礎論	2	1

3. 専門教育科目群

専門分野 必修 75単位

1回生

科目名	単	回
人体の構造と機能演習 I (形態と構造)	2	前
人体の構造と機能演習 II (生体の諸器官の働き)	2	後
病理学	2	後
公衆衛生	2	後
救急救命学総論 I (救急救命士の使命)	2	前
救急救命関係法規	2	前
救急救命実習 I	5	通
福祉とボランティア	1	後
アカデミックスキルズ I	1	前

2回生

科目名	単	回
生化学・微生物学	2	前
救急疾病 I (循環系、呼吸系等)	2	前
救急疾病 II (神経系、消化系等)	2	後
救急病態生理学 I (循環系、呼吸系等)	2	前
救急病態生理学 II (神経系、各種ショック等)	2	後
救急外傷医学 I (外傷総論、頭部・体幹外傷)	2	前
救急外傷医学 II (運動器外傷、熱傷等)	2	後
救急救命学総論 II (病院前医療)	2	後
救急処置各論 I (傷病者観察)	2	後
救急処置各論 II (傷病者観察)	2	後
救急救命実習 II	4	前
アカデミックスキルズ II	1	後
地域連携実習	1	通

選択必修 下記科目から11単位

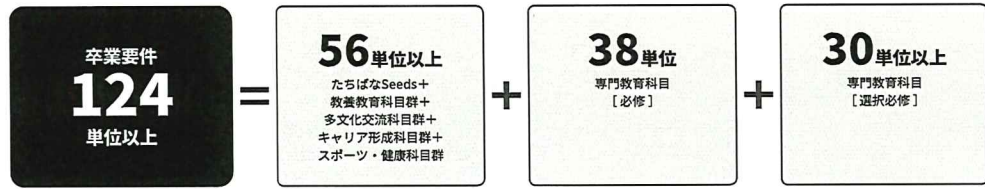
専門関連科目

科目名	単	回
●2回生		
救急救命海外実習	1	後
救急医学英語	1	後
●3回生		
公安職研究	2	前
医療政策経済論	2	後
公共政策論	2	前
●3回生		
課題発見演習	2	後
救急救命研究法	2	後
●4回生		
課題研究	4	通
卒業研究	4	通

(履修条件)

回生	対象科目	履修条件
2回生	「救急救命実習 II」	1回生配当の「救急救命実習 I」を修得済みあること。
3回生	「救急救命実習 III」「救急救命災害演習」「救急救命同乗実習」「救急救命病院実習」	2回生配当の「救急救命実習 II」を修得済みあること。
3回生	「救急救命学専攻の専門分野」科目	1・2回生配当の「救急救命学専攻の指定する専門分野」のうち指定する20科目 [※] のうち18科目以上を修得済みであること。 ※指定する科目 人体の構造と機能演習 I・II、病理学、公衆衛生、生化学・微生物学、救急救命学総論 I (救急救命士の使命)・II (病院前医療)、救急救命関係法規、地域連携実習、救急処置各論 I (傷病者観察)、救急病態生理学 I (循環系、呼吸系等)・II (神経系、各種ショック等)、救急外傷医学 I (外傷総論、頭部・体幹外傷)・II (運動器外傷、熱傷等)、救急疾病 I (循環系、呼吸系等)・II (神経系、消化系等)、キャリア開発演習 I・II、アカデミックスキルズ I・II
4回生	「救急救命実習 IV」	3回生配当の「救急救命実習 III」「救急救命同乗実習」「救急救命病院実習」「救急救命災害演習」を修得済みであること。

2025年度生用 文学部 日本語日本文学科 日本語日本文学コース カリキュラム表



※ 遠隔授業は60単位まで卒業要件単位として算定できる

1. 共通教育科目

56 単位以上

必修 [10単位]

たちばなSeeds		多文化交流科目群	
たちばなBasis I	2 1~	● 外国語科目	
たちばなBasis II	2 1~	英語 I A	1 1~
ITリテラシー	1 1~	英語 I B	1 1~
データサイエンス基礎	1 1~	英語 II A	1 1~
		英語 II B	1 1~

選択必修 [46単位以上]

教養教育科目群の「人間を理解する」「社会を生きる」「自然科学にふれる」からそれぞれ4単位以上

たちばなSeeds		文化人類学		社会学概論 I	
シンキングスキル	2 1~	文化人類学	2 1~	社会学概論 I	2 1~
プレゼンテーションスキル	2 1~	歴史学概論	2 1~	社会学概論 II	2 1~
ライティング基礎	2 1~	異文化コミュニケーション論	2 1~	社会学入門	2 1~
データサイエンス応用	2 2~	人間の考える	2 2~	心理学入門	2 2~
		● 社会を生きる		● 自然科学にふれる	
		日本国憲法	2 1~	数学的思考を身につける	2 1~
		民法	2 1~	生活の中の化学	2 1~
		日常生活と法	2 1~	地球の環境と自然	2 1~
		情報技術の歴史と展開	2 1~	日本の伝統的建築と庭園	2 1~
		私たちのくらしと行政	2 1~	中国語会話 II	2 1~
		時事問題にふれる	2 1~	韓国語入門 I	2 1~
		日本と国際社会	2 1~	韓国語入門 II	2 1~
		くらしと経済	2 1~	韓国語会話 I	2 1~
		家族の機能に生きる心のはたらき	2 1~	韓国語会話 II	2 1~
		ビジネスの心理	2 1~	フランス語入門 I	2 1~
		食と農から社会を考える	2 1~	フランス語入門 II	2 1~
		法学概論 I	2 1~	ドイツ語入門 I	2 1~
		法学概論 II	2 1~	ドイツ語入門 II	2 1~
		政治学概論 I	2 1~	※ 日本語 I	2 1~
		政治学概論 II	2 1~	※ 日本語 II	2 1~
		情報社会学	2 1~	※ 日本語 III	2 2~
		国際関係入門	2 1~	※ 日本語 IV	2 2~
		経済学概論 I	2 1~		
		経済学概論 II	2 1~		
		経営学概論	2 1~		
		会計学概論	2 1~		

キャリア形成科目群		スポーツ・健康科目群	
● キャリアデザイン科目		健康に生きる	2 1~
キャリア開発リテラシー基礎	2 1~	スポーツコース I	2 1~
キャリア開発演習 I	2 1~	スポーツコース II	1 1~
キャリア開発演習 II	2 2~	健康と運動の科学	1 1~
キャリア開発演習 III	2 2~		
キャリア開発演習 IV	1 2~		
キャリア開発演習 V	2 3~		
新時代のキャリア開発	2 4		
キャリア開発及履修プロジェクト I	2 1~		
キャリア開発及履修プロジェクト II	2 1~		
キャリア開発及履修プロジェクト III	2 1~		
キャリア開発及履修プロジェクト IV	2 1~		

多文化交流科目群	
● 外国語科目	
英語 III A	1 2~
英語 III B	1 2~
英語 IV A	1 2~
英語 IV B	1 2~
中国語入門 I	2 1~
中国語入門 II	2 1~
中国語会話 I	2 1~
中国語会話 II	2 1~
韓国語入門 I	2 1~
韓国語入門 II	2 1~
韓国語会話 I	2 1~
韓国語会話 II	2 1~
フランス語入門 I	2 1~
フランス語入門 II	2 1~
ドイツ語入門 I	2 1~
ドイツ語入門 II	2 1~
※ 日本語 I	2 1~
※ 日本語 II	2 1~
※ 日本語 III	2 2~
※ 日本語 IV	2 2~

※は外国人留学生科目

2. 専門教育科目

68 単位以上

必修 [38単位]

1回生		2回生		3回生		4回生	
研究入門ゼミ I	2 1~	基礎演習 I	2 2~	日本語日本文学演習 I	2 3~	日本語日本文学演習 III	2 4
研究入門ゼミ II	2 1~	基礎演習 II	2 2~	日本語日本文学演習 II	2 3~	日本語日本文学演習 IV	2 4
言語文化総合演習 I	2 1~	言語文化総合演習 V	2 2~			卒業研究	6 4
言語文化総合演習 II	2 1~	言語文化総合演習 VI	2 2~				
言語文化総合演習 III	2 1~	言語文化総合演習 VII	2 2~				
言語文化総合演習 IV	2 1~	言語文化総合演習 VIII	2 2~				

選択必修 [30単位以上]

基幹科目群から6単位以上、展開科目群から20単位以上

基幹科目群		展開科目群	
日本語学概説 I	2 1~	● 日本文学領域	
日本語学概説 II	2 1~	古典文学講義 I (平安)	2 2~
日本文学史 I	2 1~	古典文学講義 II (平安)	2 2~
日本文学史 II	2 1~	古典文学講義 III (中近世)	2 2~
国際日本文化講義 I	2 1~	古典文学講義 IV (中近世)	2 2~
国際日本文化講義 II	2 1~	近現代文学講義 I	2 2~
		近現代文学講義 II	2 2~
		近現代文学講義 III	2 2~
		近現代文学講義 IV	2 2~
		文芸創作演習	2 2~

● 日本語学領域		● 国際日本文化領域		● 書道領域	
日本語学講義 I (日本語文法)	2 2~	日本文化演習 I	2 1~	中学書写 I	1 1~
日本語学講義 II (日本語文法)	2 2~	日本文化演習 II	2 1~	中学書写 II	1 1~
日本語学講義 III (社会言語学)	2 2~	アニメと文化 I	2 2~		
日本語学講義 IV (日本語史)	2 2~	アニメと文化 II	2 2~		
日本語教授法 I	2 1~	サブカルチャー研究 I	2 2~		
日本語教授法 II	2 1~	サブカルチャー研究 II	2 2~		
日本語教授法 III	2 2~	MANGA論	2 3~		
日本語教授法 IV	2 2~	ゲーム文化論	2 3~		
日本語教授法 V	2 3~	デジタルメディア制作演習	2 3~		
日本語教授法 VI	2 3~	マンガ・アニメ制作演習	2 3~		
日本語教材研究	2 4	京都産業文化論 I	2 1~		
日本語教育実習	2 4	京都産業文化論 II	2 2~		
アナウンス技術演習 I	2 2~	京都総合演習	2 3~		
アナウンス技術演習 II	2 2~	文化交流史	2 2~		
		古都学 I	2 2~		
		古都学 II	2 3~		

専門関連科目群

漢文学 I	2 1~
漢文学 II	2 1~
日本語概説 I	2 1~
日本語概説 II	2 1~
民俗学	2 3~
文化経済論	2 3~
広告とメディア	2 3~
知的財産マネジメント	2 3~
体育理論	2 1~
福祉とボランティア	2 1~
人権と教育	2 2~
生涯学習概論 I	2 1~
生涯学習概論 II	2 1~
図書館制度・経営論	2 2~
博物館学概論	2 2~
博物館学概論 II	2 2~
博物館学概論 III	2 2~
博物館学概論 IV	2 2~
博物館学概論 V	2 2~
博物館学概論 VI	2 2~
博物館学概論 VII	2 2~
博物館学概論 VIII	2 2~
博物館学概論 IX	2 2~
博物館学概論 X	2 2~
博物館学概論 XI	2 2~
博物館学概論 XII	2 2~
博物館学概論 XIII	2 2~
博物館学概論 XIV	2 2~
博物館学概論 XV	2 2~
博物館学概論 XVI	2 2~
博物館学概論 XVII	2 2~
博物館学概論 XVIII	2 2~
博物館学概論 XIX	2 2~
博物館学概論 XX	2 2~
博物館学概論 XXI	2 2~
博物館学概論 XXII	2 2~
博物館学概論 XXIII	2 2~
博物館学概論 XXIV	2 2~
博物館学概論 XXV	2 2~
博物館学概論 XXVI	2 2~
博物館学概論 XXVII	2 2~
博物館学概論 XXVIII	2 2~
博物館学概論 XXIX	2 2~
博物館学概論 XXX	2 2~

クロスオーバー科目群

プログラミング演習 I	2 2~
プログラミング演習 II	2 2~
観光学	2 3~
コンテンツ産業論	2 3~
文化経済論	2 3~
広告とメディア	2 3~
知的財産マネジメント	2 3~

京都橘大学共通教育推進室規程

2021年4月26日

(名称)

第1条 本学に、共通教育推進室（欧文名称：Division for General Education）（以下「推進室」という。）を置く。

(目的)

第2条 推進室は、本学における共通教育にかかわる基本方針の策定・運営、自己点検・評価活動、FD活動および研究・開発課題の推進を目的とする。

(事業)

第3条 推進室は、前条の目的を達成するために次の各号に定める事業を行う。

- (1) 本学における共通教育のカリキュラム、教育内容および教育方法について、調査・研究をすすめること。
- (2) 共通教育科目について、開講方針の策定および担当者の配置を統括すること。
- (3) 各学部教学との有機的な結合をはかるため、各教学機関に提言を行うこと。
- (4) 本学における共通教育の自己点検・評価活動、FD活動を行うこと。
- (5) その他、共通教育の充実、改善に必要な事業を行うこと。

(部会)

第4条 推進室は、部会を設置することができる。

2 部会の委員は推進室長が指名する。また、推進室長は部会の委員の中から1名を部会の長として指名する。

(構成)

第5条 推進室は、次の各号に定める委員で構成する。

- (1) 推進室長
- (2) 各部会の長
- (3) 教務課長
- (4) その他推進室長が必要と認めた者

(推進室長)

第6条 推進室長は、教務部長があたる。

- 2 推進室長は、推進室を代表し、その業務を統括する。
- 3 推進室長は、第8条に定める推進室会議を必要に応じて招集する。

(推進室委員)

第7条 推進室委員は、推進室長の推薦に基づき学長が任命する。

- 2 委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 3 推進室委員は、推進室会議に出席するとともに、全学的な立場から第3条に定める諸事業を実施する。

(推進室会議)

第8条 推進室の運営のために、第5条に定める構成員による推進室会議を置き、次の各号に定める事項について審議する。

- (1) 第3条に定める事項
- (2) その他、推進室の目的を達成するために必要な事項

(事務局)

第9条 推進室の事務は、教務課が担当する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、2021年4月26日から施行し、2021年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2021年6月23日から施行し、2021年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2024年7月17日から施行する。

(R3. 6. 23) 京都橘大学共通教育推進室規程(令和3年4月26日制定第2276号)

(R3. 4. 26) 京都橘大学共通教育推進室規程(令和3年4月26日制定第2276号)

大学等名	京都橘大学
教育プログラム名	京都橘大学 たちばなAI・データサイエンスプログラム

申請レベル	応用基礎レベル（大学等単位）
申請年度	令和7年度



取組概要

プログラムの目的

本プログラムは、今後社会で求められる数理・AI・データサイエンスに関する知識と能力を、段階的に養成することを目的としています。全学共通教育科目を配置することで、文理を問わずすべての学部・学科の学生が履修しやすいようにしています。さらに、専門教育科目を併置することで、学生が自らの専門領域に関連づけながら学びを発展させることができます。

身に付けられる能力

AI・データサイエンスに関する知識を深め、統計的手法やデータ分析に基づいて課題を発見し、解決策を導出する力を養成することで、自身の専門的な研究活動に活用する能力を身につけます。

工夫・特色

学部横断型の数理・データサイエンス・AI教育を展開し、専門領域のデータやAI活用事例を調査する課題を通じて、学びとキャリアの接続を促進しています。企業や行政と連携する科目では、掲示された社会課題の解決に向けて、各分野の専門知識を持ち寄りながら取り組むことで、実践的な能力を身につけることができます。また、入学時点と1年生後期終了時点の年2回、ITリテラシーの習熟度測定を実施し、学習成果を可視化することで授業改善のサイクルを構築し、学生のITリテラシー向上に取り組んでいます。さらに、本学のラーニングコモンズには、3Dプリンタやレーザーカッター、VR機器、IoT機器、教育用ドローンなどを備えたファブスペースがあり、ものづくりを通じた実践的な教育や学生の自主的な学習を促進しています。

修了要件

「ITリテラシー」「データサイエンス基礎」「データサイエンス応用」の4単位修得に加え、選択必須科目から2単位以上修得すること。

開講されている科目の構成（科目名・単位数）

必須科目

科目名	単位数	対象学科
ITリテラシー	1	全学科
データサイエンス基礎	1	全学科
データサイエンス応用	2	全学科

選択必須科目

科目名	単位数	対象学科	科目名	単位数	対象学科	科目名	単位数	対象学科
情報技術の歴史と展開	2	全学科※総合心理学科を除く	社会調査法	2	日本語日本文学科、歴史学科、歴史遺産学科、児童教育学科、経営学科	心理データサイエンス演習Ⅰ	2	総合心理学科
情報社会論	2	全学科	社会調査法（社会心理調査）	2	総合心理学科	心理学データ解析	2	総合心理学科
AI概論	2	全学科※2025、2026年度入学の総合心理学科は「AIリテラシー」	統計学概論	2	国際英語学科	心理学研究法Ⅰ	2	総合心理学科
クロスオーバー型課題解決プロジェクト	2	全学科※指定クラスのみ	統計学基礎	2	日本語日本文学科、歴史学科、歴史遺産学科、児童教育学科、経済学科、経営学科	心理学統計法Ⅰ	2	総合心理学科
コンピュータシステム概論	2	総合心理学科、経済学科、経営学科、情報工学科、建築デザイン学科	統計学基礎論	2	看護学科、理学療法学科、作業療法学科、救急救命学科、臨床検査学科	疫学保健統計	1	看護学科
コンピュータネットワークⅠ	2	経営学科、建築デザイン学科	情報セキュリティⅠ	2	経営学科、建築デザイン学科	理学療法研究法Ⅰ	1	理学療法学科
データサイエンスⅠ	2	経済学科、経営学科	情報とビジネス	2	情報工学科	作業療法研究法演習Ⅰ	1	作業療法学科
データサイエンスⅡ	2	経済学科、経営学科	基礎情報数学	2	情報工学科	救急救命研究法	2	救急救命学科
プログラミング演習Ⅰ	2	日本語日本文学科、総合心理学科、経済学科、経営学科、情報工学科、建築デザイン学科	計算機科学基礎	2	情報工学科	医療情報システム学	2	臨床検査学科
プログラミング演習Ⅱ	2	日本語日本文学科、総合心理学科、経済学科、経営学科、情報工学科、建築デザイン学科						